

会議の名称	令和6年度第4回茅野市行財政審議会		
開催日時	令和6年9月2日(月) 18時30分～20時55分		
開催場所	市役所8階大ホール		
出席者	※出席委員等：小平会長、守屋副会長、足立委員、鈴木委員、半田委員、宮坂委員、牛山委員、北原委員、小山委員、柳澤委員、大川委員、國枝委員、矢崎委員 ※市側出席者：柿澤副市長、山田教育長、小池企画部長、平沢市民環境部長、井出健康福祉部長、両角産業経済部長、黒澤都市建設部長、五味こども部長、上田生涯学習部長、河西スポーツ健康課長、松田スポーツ健康係長、渡辺学校教育課長、大蔵企画課長、平澤総務部長、森井財政課長、原田財政係長、朝倉行革推進係長、太田行革推進係主査		
欠席者	名取委員、高安委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	53人 (うち報道5人)
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
財政課長	<b>議事</b> 1 開会 2 副市長挨拶 3 会長挨拶 4 会議事項 (1)質問の回答について(資料1) (2)小中学生に行ったアンケートについて(資料2-1～資料2-3) (3)公共施設のあり方に関するアンケートについて(資料3) (4)答申内容の協議 (5)その他(その他資料1、2) 5 その他 6 閉会  <b>【議事録】</b> 1 開会 連絡事項の説明 1点目 新委員さんのご紹介  委員 ～自己紹介～  財政課長 2点目 傍聴者へのお願い 3点目 報道機関からの取材受入報告  それでは改めまして令和6年度第4回茅野市行財政審議会を始めさせていただきます。 私進行務めます財政課長森井と申しますよろしくお願ひします。ではまず、副市長、柿澤副市長よりご挨拶がございます。  2 副市長挨拶 皆さん改めましてこんばんは。1日のお仕事の後の会議ということで、本当に行		
副市長			

	<p>財政審議会、内容も重いですし、本当に皆様のご苦労いただいておりますけども、ありがとうございます。</p> <p>さて先週から昨日にかけて台風10号全国に大きな被害をもたらしました。大きな爪痕を残したわけです。茅野市ですけれども、土曜日に上原下町の排水ポンプが動きまして、ある程度水が浸かって。ただ被害というものではなくて、茅野市は台風10号これを過ごすことができました。</p> <p>本当に地球が温暖化していく中で非常に自然災害というのがどんどんどんどん、猛威を振るってくるようになりました。市にとりましては、やはり市民の皆様の生命財産を守ること、安全安心なまちづくりをすること、まずこれが第一義ではないか、そんなふうに改めて思っているところでございます。</p> <p>それと今回スケートセンターの存廃等について行財政審議会でご議論をいただいているわけです。前回、正副会長さんの方のお話で今日、議論を重ねた後に、一定の考え方を正副会長さんの方でたたき台を出していただいて、さらに議論をしていただくということを前回お聞きしております。非常に様々な観点から考え抜いて、それぞれの委員の皆様が重い判断をされることになるかと思っておりますけどもどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>そしてこの行財政審議会の方から出てきた、1つの考え方答申については市としては、それを重く受けとめて、その上で市として市長判断をさせていただくこととなります。さらに、こういった決定については市の方が、市長が判断したとしても最終的には存廃の場合には議会に議案として出して、さらに議会として議決をいただかないと決定はできないこととなります。そういった過程の中で、様々なご意見ですとか市民の皆様の意見がいろんな形で反映して最終的に意思決定を茅野市としてしていくこととなります。</p> <p>今日はいわば、入口といいますか、その部分で行財政審議会、大きな判断を重い判断を皆さんにいろいろこうしていただいご議論いただくことになるかと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。そんなお願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。</p>
<p>財政課長</p>	<p>はい。ありがとうございます。続きまして会長ご挨拶お願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p><b>3 会長挨拶</b></p> <p>皆さんこんばんは。本当に一日の仕事の後ということで大変お疲れ様でございます。佳境を迎えてきましたので、本日もよろしくお願いいたしますというふうに思います。</p> <p>今副市長からありました通り、台風一過で、2、3日涼しかったわけですが、また今日の日中は暑い日に戻りました。そうは言っても、盆過ぎで盆風っぽいいい気候になってきたかなということでございます。日本中暑いもんですから、私は農畜産物に関わる仕事をしておるんですけども、市場の関係の皆さんから言われるのはもう今後は緯度ではない、標高だと。標高で、作れるものが変わってくる時代になったと。そういう点では、諏訪の皆さんは、標高が高いので、いろいろな品目が作れますから頑張ってくださいということであります。</p> <p>従ってですね、茅野市も、そういった意味では標高が高いってのは利点になるのかなというふうにもちょっと思っている次第でございます。</p> <p>余計なことを言いましたけども、本日はですね前回仕掛りとなっておりました質問事項への回答、それから教育長からありました、小中学生のアンケート結果の発表、それから市が行いました公共施設のアンケート結果の再確認、クロス集計が</p>

<p>財政課長</p>	<p>出ましたので確認を受けて、一定の考察を行いたいと思います。</p> <p>その後、正副会長でこの間申し上げました通り、答申の素案を申し上げますので、それについてご検討いただきたいという段取りで進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。それでは早速でございますが会議事項の方に入らせていただきます。以降進行会長の方でよろしくお願いいたします。</p> <p><b>4 会議事項</b></p> <p><b>(1) 質問の回答について</b></p> <p>それでは着座で進行させていただきますので、ご協力よろしくお願いいたします。</p> <p>レジメの4番、会議事項でございます。まず(1) 前回の質問への回答ということでございます。前回の審議会では、スケートセンターの存廃について、諮問内容について、活発な意見などをいただきました。その中でありました質問や、前回の審議会後にいただいた質問などがありましたので、それに対して事務方の方からお答えをいただきたいと思っております。それでは事務局の方でよろしくお願いいたします。</p>
<p>財政課長</p>	<p>第3回の行財政審議会の後に委員の皆さんからいただきましたご質問ですね、資料1をご覧ください。現時点での回答、説明ということになります。</p> <p>まず1点目、国、県、諏訪広域での存続に向けた実現性は、につきましてですが、これまで茅野市としての取組の経過と結果を資料1-1、1-2、1-3で説明をさせていただきます。</p> <p>資料1-1でございますが、こちらですが令和3年度に開催されました、県内の19市の副市長・総務担当部長会議の会議録の抜粋でございます。</p> <p>1ページの網掛け部分でございますが、こちらに記載している内容でございますが、陸上競技場はじめスケート、アルペンスキー競技施設、ジャンプ台施設等は、自治体の財政負担が大きく、高額な改修費を要する施設については、維持管理更新が厳しい状況であるため、県による補助制度の創設を求めるとともに、国の補助制度の創設を求める。」といった共同提案を県に行ったという記載がございます。</p> <p>各施設の広域的な利用実態を踏まえて、また県全体のスポーツ振興やレベル向上に向けた提案を行ったというものでございます。これに対しまして県は、2ページの網掛け部分になりますが、県としても県が所有をする施設もあると、整備をしなければいけない立場は、市町村の皆様と同じで、大変厳しい状況にあると。よって後、新たな補助制度の創設はこの時点では大変厳しいということが申されました。国に対しましては引き続き補助制度の創設を求めていきます、という見解がここに記載をさせていただきます。</p> <p>もう1つ資料1-2でございますがこれ令和4年度になりますが、副市長・総務担当部長会議の提案を踏まえまして長野県の市長会として、広域圏ごとの拠点スポーツ施設をもって、補助制度の創設についてを提案され採択されたということでございます。</p> <p>もう1つの資料1-3でございます。こちら令和4年度の副市長・総務担当部長会議の会議録の抜粋でございます。この会議では、当市のスケートセンターと同様の実態が懸念されています、飯山市、この飯山市のスキージャンプ台の県営化を求めるといった提案がされたという記載がございます。このことに対しまして県では、単独の自治体の施設を県営化することは極めて難しいという見解を示してござい</p>

ます。

簡単でございますが以上がこれまでの国県への取組、今公式な場でこういうような提案をして、公式に見解が出ているものであります、という資料でございます。

もう1点でございます。諏訪広域についてなんですが、これにつきましては資料はございません。口頭の説明になります。つい先日なんですが8月8日に6市町村の副市町村会議が開催されました。ここで茅野市から、超少子化、超高齢化が進行して急激な人口減少社会が到来することを見据えて、これまでのフルセット主義、すべての施設を1自治体が持つという意味のフルセット主義を見直して、水平補完的な広域連携体制を、再構築する必要があるのではないかという視点に立ちまして、諏訪地域の広域行政を推進する上での3つの課題というものを示させていただきました。

この課題の解決、克服に向けて、1つとして、諏訪広域連合の地域内の一部事務組合の統合についての調査研究をすること。

もう1つ、諏訪広域内の公共施設のあり方についての調査研究を行うこと。スケートセンターの部分はまさにこの課題と対応に該当をいたします。

3つ目として株式会社諏訪広域総合情報センターのあり方についての調査研究という、この3つについて、諏訪広域諏訪地域内の自治体と広域連合で調査研究を、始めてはどうかという提案を行いました。

この提案、この副市町村長会議で認められまして、続いて8月の21日に正副連合長会議、諏訪広域連合の中の市町村長の会議でございます。ここでもこの提案は了承されましたので、今後正式に調査研究がなされていくという合意がされたというところが、一番直近の情報でございます。

ただ、直ちに結論を出すことはどれも難しいという課題ばかりでございます。諏訪圏域内の自治体間で、まずは協議が始められる土俵が整ったという状況でございます。

今申し上げたのが国、県、諏訪広域の存続に向けた実現性の部分の説明でございます。

続きまして2、クラウドファンディング、企業寄付等の実現性についてはでございます。資料1の方に令和4年度の陸上競技場、第3種公認更新の際に受けました寄付の額を示してございます。公認更新費用のうち集まったものは、この金額合計の金額にとどまったという経過でございます。公共施設の建設や更新に係るクラウドファンディング、企業寄付につきましては幾つかの自治体の例を見ましてもその規模にもよりますが、現実的にはかなり不確実要素の大きい、ハードルが非常に高い状況であるということが言えます。

3つ目でございます。オリンピアの皆さんはどう考えるか、ということにつきましてですが現時点で茅野市として個別に皆様方にお考えをお伺いする考えはございません。競技団体などの皆さん方から働きかけをなさってはどうかというふうに考えてございます。なお、現在のところ、今回の件につきまして、オリンピアの皆さん方から市へ直接コメントなどは届いてはございません。

4つ目でございます。岡谷スケートセンターの廃止は本当かについてです。

岡谷市の担当部署に確認をいたしましたところ、存廃についての具体的な方針は決まっていません、という回答でございました。

5つ目、教育長の発言についてでございますがこれ後程会議事項2の方で詳しく説明をさせていただきます。

6、スポーツ協会スケート協会の取組、クラウドファンディング等の取組については、でございますが、本日スポーツ協会の会長でもいらっしゃいます委員さんお

<p>委員</p>	<p>いになってますのでご説明をしていただければと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>今言われました、6番、スポーツ協会、スケート協会の取組についてですが、さる3、4年前ですか、陸上競技場の老朽化で公認を取るにあたって、市の予算がなかなかない中でどういうふうに進めましょうというところで、県の方の強靱化計画で、予算がつくのではないかとということで、まずそこで始まりました。</p> <p>あと、民営化で、伊藤忠商事が来ていただいて、民営化の話もしていただきました。その民営化については、市の方で強靱化計画が始まっている段階なので、とりあえず強靱化計画を進めましょうという話で、進んで参りました。</p> <p>その中で、今年に入りまして、スケート場の廃止を含めての、検討という話が、急に立ち上がって出てきました。</p> <p>私どもとしましては、その強靱化計画の中で、対応していただけるものと思っていましたが、そうではなかったようです。急遽、諏訪地区スポーツ協会連絡協議会というものがございます。その中で、取り上げていただき、その中の結論といたしましては、首長さんが、納得しなければ、なかなか進めるのは難しいよ、という話でした。</p> <p>あと、私は県のスポーツ協会の総務委員もやっていますので、ちよくちよく県の協会とも話をしています。やっぱり県の方では、民営化、県の直接の経営化っていうことは、すごい難しいという話をいただきました。補助金等を取れるものは、国の方にも聞いていただけるといふ、今現在の段階ではそんな話になっています。</p> <p>あと、広域化また県営化が難しいとなると、やっぱり国へ直接働きかけもしなければいけないかなという話も出ていまして、スケート協会の方で、国の議員様の方へ現在働きかけをしている段階です。こんなところでよろしいですか。</p>
<p>財政課長</p>	<p>委員ありがとうございました。続きまして7、市議、市議会の意見、取組についてでございます。市としまして申し上げられることは市議会一般質問や、議会全員協議会や各委員会でこのスケートセンターの存廃について特に取り上げられたという経過は今のところございません。市としまして議員それぞれの取組、或いは市議会としての取組につきましては現状で把握はしてございません。</p> <p>8、市役所の取組でございますが、冒頭の1でご説明をさせていただきました国、県、諏訪広域へのアプローチや当審議会の取組、また行財政改革の取組、議会への説明報告、或いは関係の皆様方との意見交換など、考え得る取組は現在のところ行わせていただいているというところでございます。</p> <p>1点でございますが、このご質問とは少し趣旨が違う部分なりますが、先だって新聞の報道で私ども茅野市役所の令和5年度の決算の状況が出ました。そのときに、令和5年度の決算で実質収支10億超黒字というタイトルで報道がされました。</p> <p>実際、これは事実上事実でございますが、実はというところがございまして、この実質収支というものは、今までの積み重ね、前の年度から積み上げられている繰越金が含まれた金額の積み上げで収支を、計算しますと、10億超の黒字ということなんですが、これを、単年度5年度だけの年度で入ってきたもの、それから出たものっていうものを差し引きしますと、6億3000万余の赤字でございます。これが現実の数字でございます。</p> <p>なおさらに、昨年度物価高騰の対応の交付金というものが国から来まして、それを用いまして、物価高騰の光熱水費の上昇で大変な公共施設、或いは指定管理の事業者等の補填を行いました。これが1億数千万ほどございましたので、本来それがないとした場合には、単年度の決算で8億を超える赤字であったというのが現実</p>

<p>会長</p>	<p>でございます。報道の部分で、なかなか全部が行き渡ってない内容でございましたので、本日補足をさせていただきます。資料1の説明につきましては以上でございます。</p> <p>はい。ありがとうございます。市で駄目なら国県広域でのという、この間ご意見がございました。そちらでの存続につきましては、議題を上げているものの、大変未知数で、まだまだ実現性、それから時間がかかる、というようなことでございます。</p> <p>それからいわゆる篤志家の寄付やクラウドファンディングによる場合もですね、今回のスケートセンターにかかるような、7億から10億といった巨額の寄付ファンディングを、望むのは今のところ現実的ではないかなというような回答でございました。</p> <p>そんなところでですね、前回の質問に対する回答ということで今説明をいただきましたが、委員の皆様で何かご質疑ありましたらお出しただきたいと思えます。はい。よろしいですかね。</p> <p>また何かありましたら、最後の方のその他でもお出しただけたらというふうに思いますのでお願いをいたします。続きまして次に進みます。</p>
<p>会長</p>	<p><b>(2)小中学生に行ったアンケートについて</b></p> <p>(2)番、小学生、中学生に行ったアンケートについてということで、前回の審議会の際に、教育長様から口頭で説明がありました。その結果について、本日資料を用意していただきましたので説明をお願いいたします。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>それでは次に学校教育課からよろしくお願いたします。</p> <p>ウインタースポーツに関するアンケート調査についてでございます。スケートとスキー、スノーボード、それぞれ集計表が別々になっておりますけれども、小学生と中学生でのスケート、小学生と中学生のスキースノーボードの関係の資料というふうにまとめてありますので、またご覧いただきたいと思います。</p> <p>それでは、1、調査目的についてご説明いたします。茅野市には茅野市国際スケートセンター、また、スキーに関しては、民営のスキー場が4ヶ所あり、小学校においては、多様な学びを展開する中で、これらの施設を活用しながら、ウインタースポーツに触れています。冬の厳しい茅野市ならではの学習に触れた子どもたちの率直な気持ちを知り、来冬の学習機会の設定に役立てるということでございます。</p> <p>対象は、市内小中学校を全児童生徒4,142名、5月1日現在の人数でございます。小学生が2,769名、中学生が1,373名になります。このアンケート調査期間でございますが、本年6月11日から6月13日の間で実施いたしました。調査方法は、児童生徒が持っております学習用端末を用いた調査といたしました。</p> <p>調査結果でございます。調査期間中に欠席をしている場合は人数に含まれていません。また低学年の児童につきましてはタブレット端末をまだ使用できないクラスというのがありますので、紙媒体によります調査を行いました。そのため未回答の問いがあるなど、合計人数にばらつきが見られますので、ご承知おきください。</p> <p>回答人数でございます。小学生が2,156名ですね、回答率が77.8%。男子が1,040名で、女子が1,017名、答えたくないという児童が99名でございました。中学校につきましては1,030名、回答率は75%であります。男子が515名、女子が481名、答えたくないという生徒が34名でございました。</p>

考察はスケートとスキーと分けてございます。

まずはスケートの方から、1、小学生は68%が、スケートのことを好きと答え、中学生では35%が好きと答えています。授業以外、中学生は授業は展開しておりません。授業以外でスケートをするかについては小学生が42%、中学生は14%と回答しています。中学生は部活動へ費やす時間が増えることなどが減少の原因なのかなというふうに考察しております。

2、スケート靴を持っている児童生徒は全体の7%になります。ほとんどがレンタルでありまして、さらに、スケート靴の選択はフィギュアスケートが中心となっております。ちなみに、フィギュアスケートでございますが、ピンからキリまでございますけれども、入門用の安価なものとしましても、3万円程度になるというふうに推察はしております。

2ページになります。3、靴の選び方から推測すると、立ちやすく安定感の高いフィギュアスケートを選択する児童が多いと推測しております。

授業時数の確保が難しく、技術の習得、いわゆる競技性よりも、親しむといったレジャー性の方に重きが置いているのかな、経験させることに重きが置かれているという感じでございます。

4、温暖化の影響により、冬季間の気温も上昇傾向にあります。滑走可能な日が限られる恐れがありまして、気候の影響で、各学年、年に2回程度の授業時数を確保しているんですが、これが今後も同じように確保できるかというのは課題ではないかというふうに考察しております。

次にスキーについてです。1、小学生が49%が好きと答え、中学生は44%が好きだと答えています。中学生はスケートよりも、スキーの方が好きの割合が9%ほど高くなっております。スキー教室以外でスキーをするかについて、小学生は11%、中学生は7%がするというふうに答えています。

2、スキー道具を持っている児童生徒は全体の18%あまりです。スケート靴よりも所持率が高いということ、少しこれは驚いておりますけれども、スキー道具は入門用の安価なものでも、一式そろえますと10万円程度かかるのではないかとこのように考えています。

3、道具高価なため、手が出しにくいスポーツの1つである。現在スキーを授業で取り扱っている学校ですけれども、小学校で3校。さらには高学年のみで、シーズンに1日だけ実施をしているという状況です。経費につきましては、全額保護者負担をお願いしているところです。

あとアンケートの中に一番最後にスノーボードについてのことが書いてありますが、ウィンタースポーツの1つとして、関わったことがある、経験したことがあるかどうかというようなところで、参考までにですね、設問を設けた次第でございます。

アンケート調査の概要は以上でございます。

会長

はい。ありがとうございました。具体的なグラフと数字については、各自でご確認していただくこととしまして、今の結果について概要の説明をいただきました。

学校教育の一環として、この冬のスポーツがどんなものかということで子どもさんにアンケート取ったというような内容かなと思います。今コメントにもありました通り若干レジャー性、要するに選手になりたいから、スケートスキーとかいうことではなくて、授業の中でスケートがあったらいいね、スキーがあったらいいねっていう質問に対して、あったほうがいいのかよっていう、答えかだと思います。

特段スケートってじゃなくてね、スキーもスノボも同じような結果になっているかなとも思いますが、ちょっとスケートに関しますと高学年なりなるにつれて、だ

委員	<p>んだんしたいっていう子どもが減っているとも、ちょっと見てとれるかなと思いますし、ほとんどの子どもさんが、靴はなくて、授業でスケートセンター行ったときは借りると、その9割以上が、何とフィギュアだということでございます。</p> <p>それからもう1点授業では、1冬に1クラス2次元がカリキュラム上限度というようなお話もございました。授業以外でもスケートをやりたいよっていうお子さんの数字もかなりの数字ありますけども、やりたいという子どもも含めて、前々回出された数字利用者ですね。ピークに14万人いたもんは、3万人を切っているという現状から考えますと、やりたいといった子ども、市全体から見たときにはちょっとというような感覚でございます。</p> <p>レジャー、きっかけとしてのスケートというのは当然いいことかと思えますけども、今私どもが問題にしているのは、7億円から10億円の投資をして、400mの公認リンクを作って、進めることが、公共性公益性があるかという観点も、重要どころかなと思いますが、お子様の気持ちはこういうようなところに出たということで、私の方では整理しておりますけども、委員の皆様からご意見等ありましたらお出しいただきたいと思えます。</p> <p>教育委員会の方でこれだけのアンケートをとっていただいて、これからの茅野市を背負って立つ子どもたちが、これだけスケートをやりたいっていう、この結果っていうのはすごい重いと思えます。今の小平奈緒さんとか、オリンピックを目指してる競技スケートをやってる子どもたちもたくさんいます。その練習場がなくなるっていうことは、すごい重要なことだと思います。</p> <p>茅野市から、出ているオリンピックはもうほとんどスケート競技の選手でした。その中で、茅野市でスケートを滑る場所がなくなる、これはすごい重要なことだと思います。</p> <p>今、小学校のリンクで滑れるのは、泉野小学校と金沢小学校のリンクだけです。他はないです。その上、市のスケートセンターをなくすっていうことになれば、茅野市の致命的な逆に言えば、将来に禍根を残すような、結果になってしまうんじゃないかなと私はすごい危惧をしています。以上です。</p>
会長	<p>はい。ありがとうございました。その他にご意見ございますか。よろしいですかね。</p> <p>委員さんのご意見は、茅野市から滑るところがなくなってしまうことは、将来に禍根を残すじゃないかというようなご意見をいただきました。</p> <p>その他よろしいですかね。よろしければ次に進めたいというふうに思います。</p>
会長	<p><b>(3)公共施設のあり方に関するアンケートについて</b></p> <p>(3)番、公共施設のあり方に関するアンケートについて。茅野市で行いました、このあり方に関するアンケートの結果につきましては、前回の審議会においても、スケートセンターの部分について単純集計の資料を出させていただきました。</p> <p>今回も、スケートセンターの部分のみになりますけども、年代別等のクロス集計が上がったということでその結果を説明いただきます。お願いします。</p>
行革推進係 主査	<p>私の方からは公共施設のあり方に関するアンケートについてということで資料3の方の説明をさせていただきます。着座にて失礼いたします。</p> <p>前回審議会の中で公共施設のアンケートの一部抜粋としてスケートセンターに関する部分の単純集計の方を報告させていただきました。先ほど会長さんもおっしゃっていただきましたが今回、スケートセンターに関する箇所になりますが、追</p>



加の集計結果とクロス集計をした結果の方をお伝えしていきます。

資料3になりますがまず1ページ目になります。こちら概要になりますのでご確認くださいと思います。前回回収率を33.7%とお伝えいたしましたが、四捨五入の関係で33.8%となっておりますのでお願いいたします。

続いて2ページから4ページになります。こちらは回答者の属性になります。2ページになりますけれども、回答者の年齢別の人数について記載がありますのでそちらをご覧くださいと思います。その下に、18歳以上の茅野市の人口比率の方を参考として掲載しております。比較すると、若い世代の回答が全体として低いということがわかるかと思えます。

続いて5ページをお願いいたします。こちら認知度の部分になります。nの数値については38施設のうち1つでも知っている施設があるという方の人数になります。スケートセンターは全体の5番目で90.1%、901人というような結果となっております。下の円グラフについては、901人90.1%の年代別の比率を記載しておりますので、ご確認くださいと思います。

続いて6ページをお願いいたします。利用頻度の設問になります。スケートセンターは、利用したことがないが37.6%、過去に利用したことがあるが54.2%、年に1回以上利用している方がちょっと合算になりますけれども8.2%という結果になっております。

続いて7ページをお願いいたします。こちらが日常生活における必要度になります。スケートセンターについては、なくても良いが35.1%でこちら全体の13番目というような結果となっております。なくてはならないが22.8%こちらは全体の8番目という結果になっております。

続いて8ページをお願いいたします。茅野市にとって絶対必要だと思う施設に○をしていただくという設問になります。こちらは前回の審議会の中でも提示させていただいた集計値になりますが、スケートセンターについては、399人で41.8%、全体の9番目というような数値となっております。運動公園内の施設においては、総合体育館、陸上競技場、野球場、広場野球場に次ぐ順番になっております。

続いて9ページをお願いいたします。こちらがクロス集計の結果になっておりますが、先ほどの絶対必要だと思う施設の年代別の比率になってきます。一番上が全体ということで、絶対必要だと考える施設に○がある人の全体の年代別の比率になっております。こちらと比較をしていただきますとスケートセンターの部分で、大きな差があるわけではないというところになるかと思えますが、20歳代以下から3、40代、60代が全体より高く、50代、70代以上が全体よりも低い数値となっていることが見て取れます。

続いて10ページをお願いいたします。今後廃止を検討していくべきだと思う公共施設はという設問になります。こちらにもいくつも○を付けることができる設問になっておりましてこちらにも前回提示をさせていただいた資料になります。スケートセンターは174人で22%、全体の8番目というような結果となっております。

続いて11ページをお願いいたします。先ほどの、今後廃止を検討していくべきだと思う公共施設の年代別の比率になっております。こちらにも一番上が全体の年代別の比率になっておりまして、スケートセンターと比較をしていただきますと、こちらにも大きく差があるわけではございませんけれども、スケートセンター30代、70代以上が全体よりも高くなっており、それ以外は低い数値となっております。先ほどの絶対必要な施設がある回答者の全体の人数が954人に対して、廃止を検討していくべきだという公共施設の全体の回答者数が790人であることから、全体として公共施設を廃止するべきではないというご意見の方が多いのかなという

ことも読み取れるのかなとも思います。

続いて12ページから15ページになります。こちらは、絶対必要及び廃止を検討していくべきだと思う、施設の年代別の人数になってきます。年代ごとの絶対必要、廃止を回答した方をですね縦に並べているような形になりますので、比較をして見ていただければと思います。

なおスケートセンターにおいて絶対必要と回答した方が399名、廃止を検討と回答した方は174名いるというような結果となっておりますのでそちらの人数とも、比較をして見ていただければと思います。また年代の横に全体の回答者数ということでそれぞれの年代の全体の回答者数も記載しておりますので、そちらの方とあわせて比較をしていただければと思います。

年代ごとの順位の方見ていただきますと、20代以下、40代、60代が絶対必要という順位が高くなっており、30代、50代、70代が、廃止が順位の方が高くなっているような結果となっております。全体として若い世代が必要としている順位の方が高くなっているのかなということがわかります。身近にスケートクラブのお子さんがあるだとか、そういったことが原因なのかなということは見取れるかと思えます。

続いて16ページをお願いいたします。こちらは利用頻度別の絶対必要及び廃止を検討していくべきだと思う人数となっております。未利用及び低利用というところで利用したことがない、過去に利用したことがあるという方たちを、未利用・低利用層ということで上段の方に記載をしています。

スケートセンターについては全体が806人へ、未利用・低利用者がいるうち絶対必要という方が340名、廃止を検討が166名という結果となっております。続いて、利用高利用層ということで、年に1回以上使っている方を対象とした場合に、全体でスケートセンターについては72名、絶対必要という方がそのうち53名、廃止を検討が5名というような結果となっております。年に1回以上使っている方でも廃止を検討すべきだというような方もいらっしゃるということがわかりました。

続いて17ページをお願いいたします。1ヶ所すみません訂正をお願いいたします。上段の点線四角の中になります。3つ目のポツになりますけれども、年代別比率は全体と比べると、30代40代が低くとありますがこちら、40代と50代が低いという方が正しい年代になりますので、訂正の方をお願いいたします。

こちら優先的に投資をしていくべき施設ということで、先ほど前半の方で説明させていただいたものについては38施設を対象としているものになりますが、こちらの設問については、12施設を挙げてそのうち優先的に投資すべき施設2つを選択をしていただいているという設問になっております。上段については前回もご提示させていただいている集計となりまして、スケートセンター125人で12.9%、全体の8番目となっております。下段についてはそちらの年代別の比率を示しております。先ほど同様全体と比較をしていただきますと、30代40代が低く、他は全体よりも高いというような結果となっております。こちらを見ても年代が若い方が必要としているというところが見取れるかと思えます。

続いて18ページをお願いいたします。優先的に廃止を進めていくべき施設ということでこちらも先ほどと同様に12施設から優先的に廃止をしていくべき施設を2つ選んでいただく設問になっております。上段は、前回でも提示させていただいておりますがスケートセンターについては205人、22.4%、全体の3番目という形で、廃止をしていくべきだというような形の順位となっております。下段については年齢別の比率を示しております。全体と比較しますと60代、70代が高くなっているというような結果となっております。

続いて19ページ20ページになります。優先的に投資すべき優先的に廃止を進

	<p>めるべき施設の年代別の人数になります。スケートセンターは、優先投資が125人、廃止が205人と全体の結果となっておりますけれども、比較をしますと、こちら年代ごとに左右に投資すべき廃止を進めるべきというものを並べさせていただいておりますが、20代以下のみが投資すべき順位が高くなっておりそれ以外は、廃止を進めるべきというところの順位が高くなっているという結果になっております。前半の38施設の存続廃止と比較をしますと、若い世代においても優先的にというような形でとなると、他の施設の方が順位が高くなっているということが見て取れるかと思えます。</p> <p>続いて21ページ22ページになります。先ほど述べました19ページ20ページのを横に並べたグラフになっております。年代の横に全体の回答者数を書いておまして20代が69人、回答者がいるうち10人が投資9人が廃止というような形で年代を見ていただきますと、20代以下のみが投資の人数が多い結果というような形になっております。こちらは先ほども言いましたが、優先的に問い選択肢を2つとしていることから優先度を取ると廃止が多くなっており他の施設の方に、人が流れているというようなことがとらえられるかと思えます。</p> <p>以上、全体の方の説明をさせていただきましたけれども、全体を通して必要廃止において、統一した見解が得られてような状況ではないのかな、スケートセンターの部分に関して言いますと、統一した見解がえられている状況とは言いがたい結果となっているかと推察されるかと思えます。説明については以上になります。</p>
<p>会長</p>	<p>はい。ありがとうございました。前回集計の途中で、さらに詳しい年代別のクロス集計等々の結果を踏まえて、ただいま説明をいただきました。</p> <p>私も見る限りですね切り口によって、バラバラっていか賛否両論といいますか、なかなか、一方的にこちらと言いがたい良い結果になってるのかなというふうに思いますが、今最後にもありました17ページ、18ページのところです、3の公共施設のあり方、これ12施設を挙げて、そのうち2つについて優先か廃止かという問いをしたものでありますので、ちょっと具体的な回答がより得られているのではないと思われるアンケート結果でございますけれども、これを見ますと、スケートセンターについて優先的に投資していくべきってというのは、上から8番目12.9%967人分の125人という結果、次の18ページ見ますと、優先的に廃止をすべきだと言われてる、回答については上から3番目914人分の205人ということで22.4%という結果が出ております。</p> <p>ちょっと面白かったのは、廃止を進めていくべきだという意見は、年齢が上がれば上がるほど高くなるという結果がちょっと特徴的かなと思っております。今説明がありました通り、若い世代はね、若干優先的に投資すべきだという意見もあるんですが、全体で見ますと、高齢層になるほど廃止すべきだというような意見が強くなってるのが、ちょっと読み取れるところかなと思えます。</p> <p>あと全体的には、先ほどご案内ありました通り、賛否両論つけがたいと、決定的にこっちだという内容ではなかったかなというふうに、ちょっと総括できるような気がしますが、ここで皆様のご意見をお聞きしたいと思います。委員の皆様でありましたらお願いいたします。とりあえず、この場ではないということでございますので、次の項目に進めさせていただきたいと思えます。</p>
<p>会長</p>	<p><b>(4)答申内容の協議</b></p> <p>(4)番、答申内容の協議ということでございます。こちらにつきましては、まず、今までの経過を整理してみますと、第1回の審議会で市長から、茅野市国際スケートセンターNAOiceOVALの存廃についてということで、当審議会に諮問をいただい</p>

たと。それを受けてスケートセンターの利用状況、それから経営状況等を確認したと。第2回につきましの審議会につきましては、スケートセンターの現地を見て、機械設備やテントハウス等の現状を確認したと。

前回の第3回では、第1回と2回の内容を踏まえて協議をし、そこで出たご意見質問について今日、今までご回答、ご審議いただいたという内容でございます。それらを含めまして、前回申し上げました通り、私と副会長で、答申の素案を考えてみました。

今お手元にお配りした内容でございます。

私の方で読み上げて説明をさせていただきまして、そのあと、副会長から補足をさせていただいて、その後皆様のご意見をお聞きすると、こういう段取りで参りたいと思いますのでお願いをいたします。

若干読み上げるといふことで、お時間いただくかと思っておりますけれども目を通しながら、ご確認いただきたいと思います。

まず一番最初の紙は鑑でございます。市長宛の鑑でございます。

茅野市国際スケートセンター(NAO ice OVAL)の存廃について(答申)(案)ということでございます。

私たち「行財政審議会」の目的は、茅野市が将来にわたって持続可能で発展していく行政体であり続けることを目指した「新たな投資を行う財源を生みだすことができる」ことを「判断基準」に提言を行うことを託されております。

この判断基準と「公益・公共性」、「税負担の公平性」の観点から審議を重ねた結果、令和6年6月4日付け6財第43号で諮問のありました掲題について、別紙により答申します。なお、本答申について、十分尊重していただき着実に推進できるように、具体的な取組に向けた対応を望みます。また、付帯意見と共に、審議の過程で出た委員からの意見を参考付記いたします。

これが鑑の文章でございます。おめくりいただきまして、答申書素案としてございます。

#### 1 審議会の結論

茅野市国際スケートセンター(NAOiceOVAL)の存続は難しく、今後原則廃止されるべきである。

#### 2 審議会の判断

##### (1) 人口推計からの考察 『人口及び税収の減少』

① 茅野市の人口は平成20年頃の約57,400人をピークに減少を続けており、令和22年には5万人を切るものと推計されています(第2次総合戦略人口ビジョンの社人研準拠推計)。また、生産年齢人口(15歳~65歳)と年少人口(15歳未満)は減少する一方で、老年人口(65歳以上)は増加を続ける推計となっています。茅野市でも移住促進等の人口増に向けた取組は実施していますが、今後人口減少は避けられないものと考えられます。

② 総人口と生産年齢人口の減少は、税収の減少をもたらし、一方で介護・医療などの社会保障制度に係る支出は増加を続けるものと見込まれ、抜本的な収入・支出のバランス改善が求められます。将来の市民生活になくてはならない財源を優先的に確保するためにも、現在の支出を見直す必要があります。

##### (2) 令和6年度中期財政需要推計結果の考察からの考察でございます。

これは財政基金が枯渇するという内容でございます。

① このままの財政運営を続けていけば、2年後の令和8年度もしくは令和9年度には茅野市の基金残高は底をつき、財源不足を基金の繰り入れで補うことが出来なくなり、赤字財政となります。民間企業で言えばいわゆる資金ショートによる倒産であり、この事態は絶対に避けなければならないことと考えます。

(3) 現状での維持費と今後の設備投資資金。これは税負担の公平性、費用対効果について述べております。

①茅野市国際スケートセンター(以下「スケートセンター」とする。)は、平成元年に総額 13 億円余をかけて建設されました。また、令和 6 年営業開始までの 35 年間で既に総額 3 億 6 千万円余の改修・修繕工事費を要しています。

②現状でも年間 5,200 万円の指定管理委託料(ゴルフ練習場、プール含む)を支出している上に、令和 5 年度は燃料費高騰分を約 620 万円補助金として支出しています。この支出は運動公園施設維持管理費 1 億 7 千万円のうち、スケートセンターが占める割合は一番高くなっています。

③今後もスケートセンターを持続可能にしていくには 6 億円～11 億円の設備投資資金が必要であると想定されています。

(4) スケートセンター利用者数の減少と温暖化に基づく考察、これは公共性公益性の観点でございます。

①年間利用者数は、平成 4 年の 14 万人をピークに減少を続け、平成 26 年には 4 万人を切り、さらに近年では 3 万人前後で推移しており、大きく減少しています。市民の伝統スポーツとして根付いていると仮定するならば、ピーク時の平成 4 年生まれの皆さんは 32 歳で子育ての真っ最中であり、利用者はもっと多いものと一般的には推察されます。あまたのオリンピック選手を輩出したことにより、多くの茅野市民が全市民共通のスポーツと錯誤した感が否めません。また、温暖化の影響を受ける屋外リンクは利用者数の減少にも大きな影響を与える要因となっているとともに、屋外リンクの維持は現実的ではないと考えます。

②少子化が進むとともにスポーツ人口も減少し、さらにスポーツの多様化、温暖化も進んでいく中、今後スケートセンターに巨額の投資を続けることは、公共性・公益性の観点から認められないものと考えます。

(5) 公共施設のあり方に関するアンケートに基づく考察、これは民意の確認ということになります。

①アンケート結果は、民意にばらつきが生じており、統一的な見解は認められないものと考えます。

以上が本題うか主文になります。

付帯意見をつけさせていただいてございます。

3、付帯意見(1) 仮に存続を認める場合の条件を付記します。

①税金の増収・市民による市税の増額投入の合意

税収が大幅に増加した場合、あるいは市民の合意によるところにより、「他の事業予算を縮小しスケートセンターへの予算増額措置」が可能である場合とします。

②目的税などの新たな税負担を市民に課す

維持費、施設改修費など存続に必要な資金を税金として市民に負担していただく場合とします。

③市税を投入しない方法での運営

篤志家による寄付やクラウドファンディングにより資金を調達し、市税を使うことなく運営できる場合とします。

クラウドファンディングについてそこに注意書きしてありますがクラウド(群衆)、ファンディング(資金調達)を組み合わせた造語でございます。

④国営化、県営化、諏訪広域化による運営

国、県、諏訪 6 市町村等との協議により合意に至った場合とします。

⑤起債に頼らない資金調達

借入金による資金の調達は、結局のところ将来ある若者に負債を負わせることとなるので好ましくないと考えられます。

以上の5点が存続する場合の付帯意見、条件としてつけさせていただきました。その後参考として審議会が出された重要な意見について、付議させていただきます。

【委員個々の意見】答申と共に、委員個々の意見を付記しましたので参考としてください。

①市から提示された資料だけでは判断ができない。答申できない。もっと判断材料が必要。

②受益者の方や、議員等、これまでもっと行動を移すべき人がいたはずであり、もっと建設的な意見があってもいい(今ある冷凍機を何とか維持していく、標高の高いところに移転する等)。そういったムーブメントがなければ、廃止の方向しかないと思う。

③廃止となった場合には、利用料の補助などソフト事業化への移行。

④茅野市はハコモノが多く、減価償却費も高い。今後の維持費もかかるとなると今の状態のままでは厳しい。決断しなければいけない時期に来ている。

⑤公共施設再編計画では令和12年までに、延床面積マイナス5%を削減目標としているが、スケートセンターを廃止しても0.95%しか減らせない。生産年齢人口も減少し、税収も減るので状況は厳しい。ここで判断しないと、将来に負担を残すことになる。

⑥2027年度に中体連からスケート等の競技がなくなる報道もある。目標となる大会もなくなり、スケート人口の減少につながる要因として考えられる。

⑦子どもたちは、トップアスリートを見ると憧れを抱き目標にする。しかし、国際的な競技会等を開催する基準を満たしていないことで、トップアスリートを目指す機会が失われていることもスケートセンターの魅力が低下している現状だと思う。

⑧クラウドファンディング等を実施することで残す方向での検討をしてほしい。

⑨NAO ice OVALという名前をつけて、今まで盛り上がっていた。そのスケートリンクを廃止することは耐えられないことである。

以上を個々の意見ということで付記をさせていただきました。

私と副会長との考えということで、副会長の方が、ここで補足をいただきます。

副会長

まず、私は副会長という立場だったものですから、まとめ役ということで、今まで私個人の意見は発してきました。ただ、そうは言っても素案を作りましたので、ここで意見を言わさしていただきたいというふうに思いますけれども、いずれにしてもこの会は委員の皆さんに、茅野市の現状を理解していただいて、それから現地も見ていただいて、それから委員の皆さんの意見をお互いに出し合いながら、方向づけしていくということだと思っていますので、そういう意味では重い委員会かなというふうに感じているところです。

それから、審議の時間ももっとかけるべきじゃないかっていうようなご意見もいただいたり、報道でもそういうこと書かれていたのも目にしましたけれども、一応茅野市からは、次のステップへ進むということもあって、遅くともこの秋までには、審議会として結論出して欲しいと答申して欲しいということがありましたので、一応会長とですね答申について考えてきました。

本当に今回は、皆さんに出していただいたご意見、見ながら、何回も何回も会長とですね、本当にこれどうしようかってことで、打ち合わせをしてきて、この内容になっているということです。これももちろん素案ですから審議会でも、皆さんに議論していただいて、最終的な結論を出していただくということだと思っていますので、これが確定ってことじゃないということです。

	<p>まず、原則廃止っていうことにさせていただきました。ただこれ、私はスケートを楽しむこととか、スケートを競技として取り組んでることを、別に否定してるわけじゃありません。</p> <p>ただ、茅野市の財政状況とか、今後の人口減少とかいろんなことを含めたときに、このスケートセンターに巨額の投資をするということ、或いは毎年数千万円お金を払うということが本当にいいのかということ考えたときに、難しいんじゃないかなというふうに思いました。スケートセンターこういうものを継続するのであれば、やっぱり、スポーツ協会とか、スケート協会とか、スケート関係の皆さんが、橋本聖子議員とか、或いは小平奈緒さんとか、そういうオリンピックの皆さんの力を借りてですね、国とか県とか、或いは日本スケート連盟とか、そういうところへお願いして、エムウェーブ規模じゃなくてもいいんですが、やっぱり屋内型のスケートセンターを誘致するというような活動をしていくべきじゃないかなと、こんなふうに思っています。</p> <p>それから、私は、今回経済界から、選出されてるというふうに思ってますんで、そこら辺もちょっと立場から意見を述べさせてもらいます。経済界は、茅野市への政策提言と要望ということで、継続的に市長に要望を出して、意見交換をしています。ここ10年ぐらいは、その要望いくつか出してるんですが、やはり自然災害に対する、対応という、これが一番大事じゃないかということを出してまして、最近ですね、世界も日本国内も、本当に自然災害、恐ろしいことになっていると、こういう状況があるわけですね。</p> <p>一応茅野市の防災マップ見ても、本当に土砂災害とか、浸水想定区域、こういうのがあって、いつ大きな災害が発生するかわからないという状況もあります。我々ですね、このハザードマップの中にある企業、或いは事業所、それから一般のご家庭ですね、こういうものをやっぱりきちんと守っていかなくちゃいけないということで、仮に災害が発生しても事業継続ができるようにするという、そういうことを含めてですね、道路とか河川の改修とか、或いは老朽化した橋梁、上下水道、こういうものを、企業活動ができる生活ができる基盤となるように、インフラの見直しをして欲しいということを要望しています。</p> <p>これは厳しい財政の中で、持ってくつのは当然だと思いますけれども、関係部門も本当に計画的にですね、少しずつ取り組んでもらってるという中ですがまだまだ強靱化にはほど遠い状況もあるということになります。</p> <p>そういうことで、スケートセンターの投資っていうのは、一概に比較できない、これはもう私もわかっていますけれども、やはり生活の基盤が、守られて、それから次の投資に繋がるということじゃないかなというふうには私は思っているということです。長くなってすいません。私の意見です。</p>
会長	<p>はいありがとうございました。補足をいただきました。審議会でありますので合意をもってですね、答申をしていきたいというふうには考えておりますが、確認をさせていただきたいというふう、言い回しですねご意見をいただきたいと思うんですが、また私と副会長の立場としては今申し上げましたので、このような内容で答申をしていっていいかという確認を皆さんにお諮りしたいという立場でございます。何かありましたらお出しただけたらと思います。</p>
委員	<p>この前の委員会の審議では、廃止という意見はあんまりなかったように、私は思っていました。まだ、秋までに、今年になって廃止の審議をしましょう、それ、秋までに答えを出さなくちゃいけない。これすごい急すぎると思います。何が言いたいかっていうと、このほとんど半年くらいですよ。私たちも、動くに動けないです</p>

	<p>ね。それで、もうすぐ答申を出せ、それは、ちょっと逆に言えば違反じゃないかなと思います。私らは、委員さん一人一人、この答申を出すっていうことは、すごい重いと思います。</p> <p>極端に言えば、子どもや孫に怒られる、そんな、方もいらっしやると思います。何を言いたいかっていうと、市の財政厳しいのは重々わかっていますし、そこで何とか努力してあがいて、この市の大切な財産を続けていけるように、何とか努力していただきたい。</p> <p>当然私たちも努力しますが、市の方、市民の皆さん、それを巻き込んでやっぱり、努力していかなければ、きっと難しいことだと思います。市の財政厳しいというのは、ちょっと聞けばもう10年前から、わかってたっていうことなのですが、私たち聞いたのは、つい最近です。その話もなく、急にこの施設の、存続決めてください。では、審議委員の委員の意見を尊重しますので言ってください、それすごい重い話です。</p> <p>いち市民です私たち、市税払ってますし、市民なんですけど、それをこの3回、1回目諮問がありました、施設を見ました、審議しました、今日答申、4回で答申出していいものですか。それはすごい私は問題だと思います。</p> <p>もう1つ、言わせていただければ、茅野市は若者が住みやすい市にするっていう方向を出していると思いますが、子どもたちが欲しいようなものを、やめていって、子どもたちが果たして茅野に残ってくれるかどうか、そんなところまで心配になると思います。以上です。</p>
会長	<p>はい。ありがとうございます。委員さんのご意見を要約しますと、市でも何とか努力してもうちょっとあがいて欲しいと。できれば残してもらいたいと、市民を巻き込んで努力してもらいたいと。</p> <p>それから若者が住みやすいまちというならば、スケートがなくなったら住みやすくないんじゃないかと。というご意見でございます。その他ございますか。</p>
委員	<p>答申まとめていただきまして、これまで質問をたくさんさせていただいた中で、しっかりとご回答いただいたのかなと思っております。</p> <p>その中で、方向性、正直私は若手経営者ということで、呼んでいただいていると思うんですけど、この状況を見ればこのまま進めていくのは難しいのかなというところで、大まかな内容としては仕方がないのかなという印象を持っております。</p> <p>ただ一方で2ページの、一番上のところですね、書き方のところなんですけど、市民の伝統スポーツとして根づいていると仮定するならば、ていうところなんですけど、ここでいろいろ書いてあって、あまたのオリンピック選手を輩出したことにより、多くの茅野市民が全市民共通のスポーツと錯誤した感が否めませんっていう表現があるんですけど、これちょっと不適切かなというふうに、正直思いました。柔道が強い大学があるところが、その市民全員柔道をやっているかかっていうとやっているわけじゃなくて、たまたま寒いところでスケート文化があって、そこから強い選手が出てきたという中で、やってない人が大半というのはこれ当然のことだと思うので、そういう理由ではないのかなというふうに感じてますので、ちょっとこの、表現の仕方がちょっと厳しいのかなというふうに考えております。言われることもわかるんですけど。</p> <p>全体としてはこれ仕方がないよっていうこと理由をしっかりと羅列していただいて、1個1個見ればそうなんですけど、例えば私の経営者の視点でいけば、1つの事業を止めますっていう時に、仕方がないんですというやり方というよりはどちらかという、経営者の能力がないからこの事業を撤退するしかないって</p>



	<p>いうところが大前提だと思うんですね。</p> <p>家庭に持ってくれば、子どもが習い事をしたいと、もうお父さん、お金稼いでないから、習い事させられませんよ。野球道具買ってあげられないんですよ。</p> <p>そういうことを、市の単位で同じじゃないと思うんですけど、やっているということを考えれば、もう少しこの市民とか、この今受益者の方々に対して、ちょっと厳しいというか、仕方がないんじゃないかではなくて申しわけないっていう姿勢を持たないと、市民の理解というのはられないのかなというふうには思います。</p> <p>ただ先ほど副会長さんおっしゃられた通り、市としては難しいんだけど、受益者の方中心に、もっとできることはあるのかなっていう感覚は私は思っていますので、この答申をもって、なしだではなくて、前向きに、先ほど副会長さん言われたようなことを、逆に書いてもいいと思うんですよ。</p> <p>具体的にこういうことで動いていていただきたいと、そういった答申にしていただけるならば、この廃止の方針に関しては、やむなしっていうところが、大変心苦しいんですけども、私の意見でございます。以上です。</p>
副会長	<p>今、委員さんからお話があって、錯誤したという言葉、ここの部分について本当にいろいろ考えました。何が言いたかったかっていうと、私が子どもの頃は、ため池とか田んぼとか、諏訪湖もスケートリンクがいっぱいあって、誰でもスケートやっていた。もっと言うとスケートしか遊ぶことがない時代だったかなと。</p> <p>それがゲタスケートの時代から靴スケートに変わって、その諏訪地域ってのはスケート産業がかなり盛んで、スケートに関するお店もいっぱいあって、っていう感じで本当に市民がみんなスケート文化とっていい時代だったと思うんですね。これまさしくスケートは茅野市の文化だってこれはそうだったかもしれません。</p> <p>ただ一方ですねやっぱり温暖化になり本当にもう、学校ですべてやらなくなって、市民がほとんどスケートをやらない。こういう状況の中で、そうは言ってもオリンピック選手ってのは本当に頑張ってますね、やってくれて、やっぱり小平奈緒さんが金メダルをとって感動したと、こんなこともありましたんで、素晴らしいことだなと思うんですけども、あの時のことをスケート文化っていうんだったら、ちょっと違うんじゃないかっていう意味でこれ書いたんですけども、そこはちょっと表現の仕方が、まずかったかと思えますけどもそういうことで書かせていただいた。</p>
会長	<p>はい委員さんありがとうございました。</p> <p>今の文面については本当に悩んだところでございます。意味合いは副会長の言った意味合いでございますので、今のところの文章はね、もうちょっと修正を考えてみたいと思います。それからもう1つは、付記の方に、もうちょっと具体的に進めるような方針等も、書きっぷりを足してくれというようなご意見をいただきました。全体としては仕方がないけども、この答申案でいいかなというご意見でございました。その他。</p>
委員	<p>確認というか、質問なんですけど、審議会の結論のところは今後原則廃止されるべきであるとありますが、今後という時間軸がどれぐらいの時間軸なのかによって、付帯意見の、仮に存続を認める場合の、その他施策ですね例えば実践大でしたり、富士見の方に何億っていう個人からの寄付があったり、そういったことがあった中で、この3番の付帯意見を、実施する時間的余裕があるのか、来期には廃止なのかというところで大分話が違ってくると思うんですけどこちらは市に確認したらいいですか。お願いします。</p>

会長	<p>時間軸については、ちょっと私どもの都合ではないんですけども、秋口ぐらいまでには答申をいただきたいということで、諮問を受けております。</p> <p>今委員さんが心配することは付帯意見に書いてあるところが、時間がなきゃ結局できるじゃねえかっていう心配があるということでございましたが、ちょっとそこまでは突っ込めなくて出された意見を羅列するような形になっておりますが、市の方で何かありましたらご回答いただきたいと思います。</p>
財政課長	<p>諮問をさせていただいた段階ではというか行財政改革のスケジュール感で申し上げますと、スケートセンターにつきましては、指定管理という形で業者の方に委託を行っております。この指定管理期間というのが、令和7年度で終了になります。8年度からのものにつきましては、新たな仕様で、また新たな指定管理事業者を選ぶというスケジュールになります。</p> <p>それにつきましては、令和7年度の4月ぐらいには、新たな考え方を示しておかなければいけない。そうすると事務处理的には、令和6年度中には、結論を出しておかなければいけないということで、こういったスケジュール感になってございます。</p> <p>今回、諮問をさせていただいて、概ね秋口ぐらいまでには審議会として答申をいただけないかということで、お諮りをしています。この答申後に、茅野市として、いずれの方向に行くかっていうのを意思決定をさせていただきまして、これがですねもし、スケートセンターはもう存続しないという決断に、もしなりましたらですね、議会の方にこのスケートセンターを廃止するという形で議案として上程をするという流れになろうかと思っております。</p> <p>存続になった場合には、どのように存続をしたらいいのかと、というようなことをしっかりと、庁内だけじゃなくて、関係するところと練りながら新たに令和8年度からの指定管理或いは指定管理じゃない方法に向けて、結論を出していくという流れになろうかと思っております。</p>
委員	<p>すいません追加で、ということは半年ぐらいで市として結論を出し、あと1年半ぐらいは、今の指定管理の契約が続くという認識で合ってますかね。</p>
財政課長	<p>結構でございます。</p>
委員	<p>であれば、ちょっと長いのか短いかわかりませんが、多少付帯意見の部分の検討も1年半あれば、十分わかりませんが可能なかなとは、思いますので、それも踏まえての答申でいいかなと個人的には思って、全体の趣旨としては、致し方ないかなとは思いますが、この付帯意見はかなり重要だと思うので1年半で、やるべきことは、市も民もやるべきかなと思います。以上です。</p>
会長	<p>付帯のところを、実行していく考えと時間があるかということでございますけども。市の方向性としては令和7年の4月には新たな考え方を示さなきゃいけないと。ただ契約上だけでいけばあと1年半くらいあると。ということでよろしいですかね。</p>
副市長	<p>審議会の方からこういった付帯意見をいただく以上、時間的な制約がありますけれども、やはり例えば広域の中では広域行政のテーブルを作っていく。そういう中で、特に茅野市だけじゃなくて、岡谷のやまびこの問題もありますからそういったところも踏まえた、協議をして、場合によっては県の方にも要望する、なかなか県厳しいわけですけどもそういった動きは時間の中で精一杯やらさせていただきます。</p>

<p>会長</p>	<p>きたいと思っています。</p> <p>副市長ありがとうございました。他に委員さんでご意見ありましたら。</p>
<p>委員</p>	<p>取りまとめありがとうございました。</p> <p>お金のことでないんですけれども、温暖化っていうところを切り取った場合ですね、スケートセンターに限らず、特に農業に従事している方なんかは、非常に影響を受けているのではないかなというふうに推察します。</p> <p>なのでお金のところっていうのはもちろん大事なんですけれどもやはりその温暖化に逆らえないっていうところ、そこっていうのは、費用もかかっていますし、やはりそういったところをもっても、なかなか私としても存続は厳しいのかなということは同様に考えます。</p> <p>一方で、ちょっと質問みたいになってしまうんですけれども、これを茅野市で廃止というか、そういう今話なんですけれども、かといって壊すと言っているわけではないということだと思うんですね。ちょっと極端かもしれないんですけれども、先ほど、委員がおっしゃられたように茅野市の財産であるっていうところも1つ、大事なところかなというふうに思ったりするので、茅野市で市として持つ必要があるのかっていうところを多分議論してるんだと思うんですね。</p> <p>なんかちょっとこう見ようによってはもう、使えない、壊すまでいかないですけれども、もうこれ以上何も手法がないように捉えがちなのもあるかなっていうのはいろいろ話をしても思うんですけれども、あくまで茅野市として、このスケートセンターをお金をかけて、維持していくかということ議論しているっていうところで、そこは間違っていないですかね。</p> <p>なので、ものとして今後も存在していく中で、民間だとか他の委員のおっしゃったように、ちょっと前向きなところで考えると、そういった方向性っていうのが、奪われるっていうことではないという認識で合ってますでしょうか。</p> <p>茅野市が持たなくなるということ、要は議論してるっていうことで、茅野市がもうちょっとスケートから手を引かせていただきますと言ったその先には、スケートセンターが壊されてなくなるということではないわけなので、どうしてもネガティブなこと話してますけれども、ポジティブな視点でいくと、存在はしているので民間だとか、県が難しいようであれば、まあまあ国なのかかわからないですけれども、何らかの方法でスケートセンターっていうことがこの先、可能性として茅野市としてはなくても可能性としては、あるという認識でいいですかね。</p>
<p>会長</p>	<p>スケートセンターっていうね、物的なものを滑れないっていうことと、アスリートを目指す子どもさんたちにどうするかっていうのはちょっと別問題かと思います。</p> <p>参考意見の中の③番のところですね、廃止となった場合には、利用料の補助などソフト事業化への移行というご意見をいただいておりますが、これ広い意味がありますし、オリンピックを目指すのはスケート選手だけではないんですよ。今様々な多様なスポーツの中で、それぞれ本人も頑張る、ご両親も頑張る、周りも頑張るってことで、オリンピックになるためには相当な、はっきりいうとお金もかかたりして、みんなオリンピック選手になっております。</p> <p>そういった意味も含めるとスケート選手だけではないということもちょっとあってですね、③廃止となった場合には利用料の補助などをソフト事業化の移行ってご意見いただいておりますけれども、当然、このところは市の方が読み取るときは、他のスポーツも含めて、オリンピックを目指すような選手の支援を財源を見ながら、どうしていくかということが裏にあるというふうに私は考えて書き足し</p>

副会長	<p>てありますので、そんな考え方でお願いします。</p> <p>付帯意見のところ、4番で国営化、県営化、諏訪広域化って書いてあるんだけどここに民営化ってこともちょっと付け足して、そういうことも検討するという方向でいいのかなと思います。</p>
副市長	<p>民営化になる場合には一定の制約ってのが出てきますので、あそこは都市公園の上に上物がありますんで、下が当然市有地なんですけどその上にも上物、民間の施設が建つということになると、例えば閉鎖的な施設で、今までは市民が使っていたのにそこを特定の人たちしか使わないってことなんてやっぱり都市公園上制約が出てくるんで、そういう使い方はできなくなってしまいます。</p> <p>例えば民間譲渡する場合は施設を廃止しなければ民間譲渡できないわけですけど、今年休止した、例えばプールですね、プールの場合に例えば民間でやりたいところがあるという場合には、都市公園上のところの上物を分離して、民間譲渡するだけでその土地のところに対して一定の、例えば10年20年とか土地の賃貸の契約を作って、運営してもらってやめるときには必ず自分たちで取り壊してもらおうという様々な条件をつけた上で民間譲渡が可能かってことが出てくるかと思いません。</p> <p>プールの場合ってというのは例えば、施設がそれほど大きくないから民間譲渡で、手を挙げるところも出てくるかなと思うんですけど、スケートセンターの場合、民間が受けてやれるかどうか、この部分というのは本当に市場調査をしてみないとその可能性というのはわからないところかと思えます。以上です。</p>
会長	<p>作ったときの法律の関係で、なかなか民間譲渡は厳しいということでございます。</p>
委員	<p>素朴に質問です教えてください。あと2年今年の秋までに決めてっていう案が出て、この形でいくと、今年の冬ともう1回、あと2シーズン、冬スケート場って滑れるっていうイメージが、仮にやめるとしても止めないというのそこまでは決まってるって受け取っているのですが、実際に現地の見学をさせていただいたときの個人の私の感想なんですけれども、機械が、今年の冬の来年の冬決めるまで動くのかなって素朴に思ったところが個人的な感想があって、これだけワンシーズン回すのに、5000万円くらいお金を維持してるって言うお金がないっていう、マイナスの方向のお話多いんですけど、ある日突然、スケートのこの機械がもう私冷やさないよって、今日で冷やすのやめますってなったときって、市の方として、また新たにこのお金かかると思うんですけど、そこはどのように考えられてるんですか。うまく日本語なのに言えてなくて申し訳ないんですけど。そういうことって想定されてるのかなっていう。</p> <p>お金がないお金がないっていうイメージがものすごく強くて不安だけは、とても伝わってきて出されて来る資料からも、そうだよなこれだけお金ないんだったら、子どもたちの気持ちを汲んでやらせてあげたいんだけど、先ほどおっしゃったように、ごめん、習い事させてあげたいけど、ごめんお金ないから習わせられない、っていうイメージに近いとか、あと、ご意見言われたときにそのどれくらいの期間までは間違いなくされるんですかっていう、ところも含めて、見学したときの素朴な個人的な感想です。</p> <p>ものすごく古いな、よくこれで動いてるな、今年も冷えるのかな。ある日突然車のエンジンと一緒に、修理しながらだましまし、あともう1回車検取って、あと2年乗ろうと思ってたんですけど、突然機械が何かの不具合によりとか温暖化</p>

	<p>などの事情はわからないですけど、は自然災害じゃないですけど、突然のいろんな事情により、もう動かない、私冷やさないってなったとき、待たなしで、たまたまそういうことになった場合は、どのように市としてお考えなのかなっていう素朴な質問です。教えていただければと思います。</p>
<p>スポーツ健康課長</p>	<p>スポーツ健康課からお答えいたします。今最低でもこのシーズンそれから来シーズン、あそこは指定管理の期間ですので運営するという事は確かでございます。</p> <p>ただおっしゃる、機械が壊れてしまった場合ですね冷凍機とか壊れてしまった場合、いうのは、ちょっと今のところその想定っていうのは、あるかもしれないっていうことだけで、ちょっと何ともお答えできないんですけども、今、冷凍機の方も、順次オーバーホールっていうのをかけていまして、その整備はしているところです。</p> <p>ですので、そういったことをして、今指定管理者の方から言われているのは、まだ冷凍機の方は、十分使えるっていうかね、能力的な問題があるにしても使えるっていうようなことは言っておりますので、壊れてしまうということはちょっと想定はなかなか難しいんですけども、そこは、大丈夫じゃないかっていうところです。</p>
<p>財政課長</p>	<p>実情として申し上げますと、非常に高額な費用がかかるといった場合には、その費用が捻出できるかどうかっていうのはよくよく、全庁的なバランスを見ながら、将来的な負担それをですね起債という形、借金で何とかできるのであればそれをするのかどうかという判断も必要になってきます。するならば決定を、行うとは思いますが、お時間はある程度必要になる事案になるのではないかなその間は、もうそこですぐに廃止ですではなくてですね休止という扱いで、再開に向けて、或いは今後の長きにわたる状態の結論を出すための時間にする可能性はあるかなと。すいませんそんな回答で。</p>
<p>会長</p>	<p>はいよろしいですか。はい。他にございましたらお願いします。はい。</p>
<p>委員</p>	<p>ここまでよくまとめていただいたというふうに敬意を表しますが、せっかく付帯意見のところいろいろ見直しの可能性も言っているの、一番最初の審議会の結論っていうところを、もう少しやわらかい表現にできないかなっていうのが、私としては、お願いに近いんですけども。例えば、2の審議会の判断で1番2番はこれ誰も反対する人はいないと思いますのでこの情勢はね。だから、現下の市の財政状況からすれば、今後、廃止に向けて検討を進めていただきたいという要望ベースなのか審議会のレベルをどのぐらいやったらいいのかっていうそこら辺のことがちょっと私もよくわからないので、審議会で議論をやっちゃうと、あと議論が止まっちゃうような気もするので、そこはちょっと工夫の余地があるかなというふうには思っています。</p> <p>要は、やはりお金がこれだけの、6億から11億という、ボリュームの資金がどうしても捻出できないっていうときにどうするかって話なので、そこら辺に焦点を当てるような言い方にできないかなっていうのが1つお願いです。</p> <p>それと、さっき他の委員さんが錯誤論のところ言ったんですけど、ちょっとこれも筆が滑ってるかどうか、そのピーク時の平成4年生まれの方々は32歳でっていうのがありますが、これ、割と今晚婚化が進んでるので、32歳で子育ての真っ最中というふうに、特にスケートに行かせる年齢になってるかっていうと、ちょ</p>

っと違うかなってというような気もしてここら辺は、工夫が必要かなと利用者もっと多いていう。多分、今の平均初婚年齢って30近くに、場合によっては超えてるかもしれないので、ちょっとそこら辺が認識がちょっと私とは違うかなというふうに思ってます。

でもいずれにしても財源がどうしても装置できなければ、やめざるを得ないってのはもう大体コンセンサスにはなってるし、これに向けて、みんなで協力する体制がとれるかっていうのと、あとはこの前も言いましたけど、近隣にあるやまびこ岡谷のスケートセンターを広域的にバックアップしていくのかどうかって話を、広域レベルでやらなきゃいけないので、あそこの場所ですらいろいろの前を見せていただいて、日向の部分は溶けちゃうっていう話になると、あそこの立地条件はかなり悪いなと思うんで、以前ももっと標高の高いところに移せないかっていう話もちよっと出たような気がしますが、そういうことも含めて、付帯意見に書いてあることも見ながら、少し検討していただきたいというようなトーンでまとめたいただければ私としてはいいかなというふうに思ってますけど、よろしく願いいたします。

会長

ご指摘いただいたこの部分ですね、確かに32歳で晩婚だったらね、まだ子どもが小学生行ってないってこともあるんで、ちょっと誤解を招くんで、この言い回しもちょっと直したいかなと思います。それから付帯意見で、仮に継続する場合の条件みたいのを出したので、結論の一文をもうちょっと柔らかくできないかなという、ご案内でございませうけども。

新聞の見出しじゃないですけどね。ことはこういうのは独り歩きしますからね。慎重には慎重が要するわけですが、私の立場で白黒つけますよって言い方を今までしてきたもんですから、ちょっとこういう書き方をさせていただいて、よくよく付帯意見とかを見れば、こういう条件がそろえば、当然市にお金があればできるわけですから、それは当たり前のこととして、もうもう、財政、人口推計からして、基本的には、打ち出の小づちはないわけですから、どこかで何かを縮小して、残った財源を市民全体で有効に活用していくという体制に持ってかなきゃいけないのが数字かと思っておりますので、その中で今回スケートセンターのみが突出しちゃったわけですが、この書いてあります通り、確かにお金があればね、選手のために投資したいわけですが、公益性・公共性の観点から、このものだけに7億から11億をかけていくことがいいのかどうか、ということをおはかりにかけたときに、審議会としては、もう原則これは撤退ですよという結論を出させていただいたということでございます。

付帯のところにあります通り、これは市民の合意でいいさということになればそれは続けてもらうということになりますし、隣の富士見町のように、大手の篤志家がボンと寄付するようなところもありますので、そんなことがあれば可能かと思っておりますので、原則という言葉をつけさせていただいたということで、何が何でも廃止ではないですよ。

ただ条件が整えば、それは当然、スケート選手のためにも存続はあり得ますよ、立て直しがありますよ。ただ立て直しにつきましては、今の副市長さんがやっています県営、国営、6市町村、話はずっと先になりますけども、多分それは、今の茅野市の国際スケートセンターを直すっていうイメージは多分なくて、新たなものを6市町村で、県から国からお金をいただく中で、適地に作るっていうのは、ちょっと私は想像しておりますので、とにかく現段階で問題になるのは茅野市スケートセンターを、どうするかというところで、こういう書き方にさせていただいたとご理解いただけたらと思います。その他いかがでしょうか。

委員

はい。お願いします。基本的にこの答申案に私は賛成だという立場でものを言わせていただきます。

昨今の地震、それから今回の台風風水害等も含めて、市民の生活、市民の命をどうやって守っていくんだっていう観点から、少しものを話させていただきたいと思います。

それとこの行財政審議会の委員は、茅野市の財政も広く見ていかなきゃいけない。要するに1つ1つの木を見るんじゃなくて森全体を見なきゃいけないっていう立場もあるんじゃないかな。

今は、スケートセンターという木について、この木をどうしようか、少しカンフル剤を打つのか、肥料やりや何とか生き延びていくじゃねえのかって話もあると思うんですけども、我々はこの木1つの話でなくて、森全体の話の中の1つの1本の木だよっていうスタンスでやはり判断をしていく必要があるかなというふうに思います。

そのことをまずお伝えして先ほどの消防団の経験から話させていただくと、今、永明小中学校建て替えられました。耐震補強しっかりされて心配ないだろうと思います。これから小学校や中学校をだんだん建てかえていくだろうし、コミュニティセンター等も建て替えていかれると思います。

一番大切なのは、例えば火事はこれ防災ができるんです。皆さん火事出さないようにしてくださいねとか、火の元しっかりしてくださいね、これ防災ができます。ただ、例えば水害、それから、土砂崩れ、もしかしたら東南海大地震が来て、茅野市が全市的にガラガラってなっちゃったときに、これは防災じゃなくてね減災なんですよ。

いかに生き残った人たちがより長く生き残っていかれるかを、検討していかなきゃいけないし、それに対する施設を作っていかなきゃいけない。ですから、その防災と減災ってもう全然立場が違う。皆さん同じように、きっと考えてる方もいらっしゃるかと思いますが、そうではないっていうように理解していただいた方がいいと思います。

ということは、これから建て替える小学校や中学校の体育館もしくは教室も含めて、もしそういう大きな大災害が起きたときに、その近隣の方々がみんなそこへ、避難してくるわけですよ。そこで、もしかしたら1週間、いやいや、そんなんじゃないかって何ヶ月も、いや何年も生活をしていかなきゃいけないということが想像されるわけですよ。

例えば松本の自衛隊、そういう大地震とか大災害来たとき茅野市だけ特別に助けに来るわけじゃないでね。でしょ。自分のところだけ茅野市だけ助けに来るなんてことは考えられないじゃん。そんなにスペシャルなところではない。

要するに、国民の命は平等なんだから、近くで行けるところへ行ってくれる。だんだんそれが広がってきて茅野市にも来てくれる可能性はあると思います。

ですから、そういう大災害があったときにどうやって多くの人生き延びていけるかっていうことを考えると、先ほどの話に戻りますけれども、これから建て替える施設の方にもっと重点的にお金を投資していかなきゃいけない。要するに、限りある財源を、優先順位をつけて投資していかないと、市民の命は守れない。生き残った市民の命は守れない。

そういうふうに理解してもらいたいなというふうに思います。ですから、我々はそういう中でさっきの話に戻りますけれども、木を見るだけではなくて森全体を見た中での議論をしていくべきだというふうに思います。

先ほど副会長さんもおっしゃってましたけれども、自分たちが小学校、中学校の頃までは、毎朝スケート靴を、首にぶら下げて行って朝1時間ぐらい滑るのが当た

	<p>り前だった。皆さん知ってる人大分いると思いますけれども、それがもう中学校になつたらそんなこともできなくなっていた。</p> <p>要するに、その当時は本当にね、スケート以外何も冬はやることなかった。そういう時代に育ってきたから、確かにその当時はスケートいいなと思ったし、ただし皆スピードスケートだったからね。フィギュアスケートの靴なんて履いてるやつは誰もいなかった。この現実です。</p> <p>今先ほどのアンケート見ても、フィギュアしか履いていないっていう人がほとんどだと思います。これが将来的に、フィギュア選手でオリンピックが出るのかどうかちょっと僕はそこは疑問に思っているなというように思いますし、それから体験学習の中から今度生涯スポーツへ行く、その中から、ごく非常に能力や、環境に恵まれた方が、アスリートとして育成されていくべきだというように思います。</p> <p>ですから、ただ、例えば小平選手にしても、スケートセンターで練習もしたかもしれないけれども、世界でトップクラスになるためには、きちっとアスリートのところへ行って訓練をしてから、相沢病院さんがお金を出してくれて、留学させてくれて、ちゃんとしたコーチがついてくれたからああいうようになったわけで、みんながなれる可能性は少ない、先ほど会長も言ってますけれども市民の公益性と、本当にそれが平等なのかなっていうことも我々は考えて、判断しなきゃいけないなというふうに思います。ということでいろいろ意見述べましたけれども、この答申案、自分は、賛成です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。時間も大分押して参りましたが、その他。</p>
委員	<p>一言お願いします。1つちょっと観点として何か付け加えていただければいいかなと思ったのが、やっぱり皆さんさっきから言っていたんですが、受益者の負担の適正化というか、誰が誰のために作っていて、誰のためになっているかっていうあたりの観点、おそらくこの(4)の公共性公益性のところで、利用者が減っているのに比べて、利用料を4倍にしたら元が取れるとかっていう意見もありましたので、そのあたり付け加えていただきたいかなっていうところを感じたのと、アンケートを子どもたちのアンケートの結果も出していただいたんですが、これは、個人的な意見ですけれども、スケート好きって言う子どもが、10年後20年後、市民になって大人になって、何か判断する、例えば選挙に行くだつたりっていう立場になったときに、スケートセンターが、ここで廃止を決めたことで、選べる選択肢が増えるという考え方もあるのかもしれないというところを、何となくですが思っていて、どちらにしても大変重い決断だなというふうには、感じていますがいろんな方面から、考えていただいた、この最後の答申だと思いますので、私も賛成の立場で意見させていただきます。</p>
会長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>これ公共施設と言っても、原則受益者負担の考え方。これは今回スケートのことやっておりますけども、基本的にそうだと思うんですね、公共施設っていうのは、箱物なり、市が税金で用意する。</p> <p>でも維持費は、そこをもっぱら使う人達でペイすべきですねってのはこれはね、受益者負担の考え方で、ただそこまでできない子どもさんや、老人の方もいるので助成措置をとったりとかいろいろあろうかと思いますが、基本はそういうことだと思います。</p> <p>作るものは、市で作ってもらうけども、受益者が利用料を負担する維持費を負担するってのはこれは基本的な考え方で、前にももらってね、考え方っていう冊子が</p>



	<p>ありましたけども、そういう観点も若干使い付け加えて欲しいというご意見をいただきました。基本は賛成ということでよろしいですかね。</p> <p>はい。ありがとうございました。</p> <p>この答申案会長副会長は本当に苦勞されて作ったんだな、ということで、文言云々はですね皆さんからいろんなご意見があるかと思いますが、先ほど委員もおっしゃったように私も子どもの頃ですね、毎朝スケートをしたと、もうスケートが当たり前と、冬はスケートっていうのはですね当たり前でしたが、ただ私の今、子ども20何歳がいるんですが、小学校の頃とかですね、その頃っていうのは、スケート年に何回かなんですよね。</p> <p>ということは、もうそれだけやはりスケート文化じゃなくなってきたっていうのは、これは明らかだなというふうに思います。それを、この2ページのところのこういう書き方になっているんだろうなというふうに思います。</p> <p>なので私この答申案を見たときに、本当に断腸の思いというか、こういう言葉を使ったりするのはどうかなということで大変な悩んだんじゃないかなと思うんですが、大変そういう意味では、しっかりとまとめられてるなというふうに思います。</p> <p>あと、この付帯意見のところを、つけていただいたことは、やはりスケートに携わる方、スポーツに携わる方、教育に携わる方、いろんな方のことを考えて、こういう付帯意見をつけているかと思います。なので今年の冬も、まだスケートリンクやるわけですので、ぜひ存続を希望する方も多くいるんじゃないかなというふうに思うんですが、ここら辺の付帯の意見、例えば、先ほどの受益者負担で利用料高くてもやるんだよと、回数を多くやるんだよっていうことがあれば、それは、もしかしたら廃止の方向じゃなくてですね、議会とかを動かすのかもしれないかなというふうに思っております。基本的に私廃止でやむを得ないかなというふうに思っております。以上です。</p>
<p>委員</p>	<p>はい。ありがとうございました。</p>
<p>会長</p>	<p>はい。ありがとうございました。それでは、委員であと1方委員さん。</p>
<p>委員</p>	<p>本日の委員の皆さん方の熱い議論を聞かせていただく中で、まさにこの茅野市国際スケートセンターに対する皆さんのこの地域の思いっていう中での結論を出そうという思いが非常に伝わってきました。</p> <p>そんな中で、私もこの審議会の判断の最終のところを読ませていただくと、会長副会長のご苦勞された中で、俯瞰的に客観的に、いろんな多面的に分析した中で出された結論なのかなというところで、自分的にも、まだ知識というかこの茅野市のことを知識とすれば不十分かもしれませんが、今後原則廃止するべきというご意見については、賛成の立場でございます。</p> <p>ちょっと気になった表現とかっていうのは他の委員の方たちがすべてお話されたので、私のところ特段付け加える意見はございませんので、以上になります。</p>
<p>会長</p>	<p>はい。ありがとうございました。一通りご意見をいただいた形になります。</p>
<p>委員</p>	<p>まとめていただいてありがとうございます。やはり財政の面から考えて厳しいのかなと思うんですけども、最後3番付帯意見をつけていただいたことで、残すという可能性がゼロではないと私は考えております。あと2シーズンあるんですけども、その2シーズンが終わったところで、今現在スケートを頑張っている子どもたちが、宙ぶらりんだけはならないように何か考えていただけたらいいのかなと</p>

	<p>思っております。以上です。</p>
会長	<p>はい。ありがとうございました。若干時間があるんで、付帯意見をつけていただいたんでその可能性も含めてさらに検討はいただきたいと。今日のところは原則廃止ということでもよろしいってことでいいですかね。</p>
委員	<p>はい。</p>
会長	<p>はい。ありがとうございました。先ほど一通り委員の方の意見をお聞きしました。</p>
副会長	<p>ありがとうございました。それで今ちょっと受益者負担、利用料を上げてもってという意見が出て、これは付帯につけるかどうかってことなんですけど、先日スポーツ協会の皆さんに市の方で利用料の値上げのことを相談されていて、新聞では値上げしたらもうできないと、値上げは駄目だっていうような、この新聞から見るとそういう感じになってます。これは付帯意見として、受益者負担も仕方がないっていうことは入れてもいいんですか。</p>
委員	<p>市の方で、1市民1スポーツを今進めています。市の大きな目標、市のスポーツ推進委員会っていうのもありまして、健康増進によって、市民の健康を守って長生きしてもらおう、というような施策もある中で、今この計画の中に、市のスポーツ施設の料金の値上げ、また公民館とか博物館等の値上げも市の方で検討しているようです。</p> <p>市民サービスってなんだろうって考えたときに、市民が行きやすい、集いやすい、使いやすい施設っていうのが、1つあると思うんです。んで、今現在、利用料を取ってない施設も中にはあります。</p> <p>だから、その施設を若干とるとするのは仕方がないと思いますが、この12月の議会にかけて、とりあえず倍にしよう、5年後は3倍、4倍、多いところは5倍くらいになる施設もありました。まだ案の段階です。先ほど言ったようにスケートなんかは、1日借りると今現在でも20万30万かかっている状況です。その5倍っていうと、とても大会なんか開ける状況では全然ないです。</p> <p>参加料を増やせばいいって言いますけど、小学生中学生で万っていう参加料は絶対出せないと思う。今2,000円、3,000円取って、開催してると思うんですが、1万円だしてこうやって大会に参加するかっていうと、多分しなくなっちゃいます。それと同じことで各施設も、今まで減免の対象とかもありましたが、それもなくなる予定になっています。</p> <p>そうすると、今減免対象で安くできているものが、お金を出して、スポーツするか、先ほどの習い事の話じゃないですが、出せる親ならいいですが、今母子家庭とかも結構増えています。正直、私もミニバスって言って、小学生のバスケットを教えますが、母子家庭なんかもいます。</p> <p>その子たちから、参加料お金の加減で、スポーツを取り上げていいのかっていうような、気持ちもすごいあって、スポーツ協会全体としては、今のところ反対で行きましょうっていう結論にはなっています。ある程度働いてる方たちは、部分的には、受益者負担もしょうがないかなっていう部分はあります。</p>
副会長	<p>市として。</p>

スポーツ健康課長	<p>はい。スポーツ健康課からお願いします。先日スポーツ協会の理事会の方に、今现阶段の使用料改定の案っていうのをお示ししまして、当然スケートセンターもその建設費、今回建設費の費用も算入の積算として入れるということですので、その部分が含まれておりまして、当然建設費が高い施設ですので、かなり値上げっていうような形になっておりますが、今委員さんの方からありますように、大会に子どもたちから万単位っていうところは、ちょっと参加人数とかにもよると思いますので、そこまであるのかなというのがちょっと今不確定ですので、そこはちょっと確実でない数字ということで、解釈いただければと思います。</p>
副会長	<p>付帯意見に受益者負担、負担のこともやっぱり載せるべきだという意見が多いもんですから、ここは皆さん一旦載せさせていただいて、その中でまた市と個別に話してもらってことでよろしいですかね。はい。わかりました。</p>
財政課長	<p>現在改定を進めております、公共施設の使用料でございますが、この審議会の前任の皆様方の時代からご審議をいただいた上で、新たな指針としまして、今までなかった建設費を含めた算定にするという流れの中で今お示ししている数字でございます。この新たな案としての使用料ですけども、建設費等も含めて、今後の改修等の経費も含めると、これぐらいご負担しなければいけないんですよという現実の数字でございます。</p> <p>それをすべてご利用の皆さん方に、この案で飲んでくださいというような向きでご説明をしているつもりはございません。現実はこちらです。利用しない方々の税金をも、ここに投入されていますよという現実も知っていただいた上で、膝を突き合わせてご議論をさせていただいてる、ということでございますのでご理解いただければと思います。</p>
副会長	<p>もう1個だけすいません、さっきスケートのことちょっと話したんですが、昭和32年に創設された三協精機のスケート部、今日本電産サンキョーのスケート部ですね、ここで清水宏保さんとか有名な方いっぱいいられたと思う、高木菜那さんとかですね。ただここも競技人口が減少して、2022年3月に廃部ということになっちゃったということで、このときのいろいろ新聞読んでみると、このことは日本のスピードスケート界にとって大きな分岐点と言われており、日本スケート連盟としても大きな衝撃であったとコメントされているということで、その競技、本当にナンバーワンの選手がいたところが廃部になったってことなんですけれども、やっぱり茅野市でも或いは諏訪の中でもスケート競技、このオリンピックを目指してる子どもたちもいると思うんですから、最初をお願いしてきましたけれども、スポーツ協会とか、スケート協会とか、スケート関係の皆さん中心になって、やっぱり国会議員とか、オリンピックとか力を借りて、本当に茅野市に屋内型のスケート場持ってくるっていうようなことを、運動してみるということがいいんじゃないかなっていうふうに思ってますんでぜひその辺はやっていただければありがたいなと思います。</p>
委員	<p>今始まっています。</p>
会長	<p>はい。それでは全員の方からご意見をいただきました。まとめに入りたいというふうに考えます。修正すべきところは修正して、この答申案でいきたいと思いますので、よろしいでしょうか。</p> <p>ただし、委員さんのご意見は参考意見の方へ載せさせていただきますし、いただ</p>

	<p>きましたご意見の、例のところの書きっぷりですね、若干見直しをさせていただき ますし、あとは柳澤さんから出ました、受益者負担の原則という部分も書き加えて いきたいかなと思います。</p> <p>そこら辺の修正をかけて、正式な答申案として仕上げていきたいと思いま すので、よろしく願いをいたします。なお、本日以降、またご意見等ありましたら、 事務方の方にメールでご意見を出していただきたいと思いま す。</p> <p>それに基づいて、今日ここまで検討してきた答申案の部分修正をするか しないか検討させていただいて、結果についてはまたメールで委員さんの方へお返 しするという形でやりとりをさせていただきまして、成案とさせていただきたいと思 います。</p> <p>そうやってまとまったものの最終的な茅野市長への答申案の提出日につ きましては、まずその正副会長に一任をさせてもらいたいと思いま すので、よろしく願いをしたいと思いま す。</p> <p>また提出日には、他の委員様にも連絡をして、同席できる方は同席を いただけたらというふうを考えておりますので、よろしく願いをしたいと思 います。</p> <p>それではご反対の意見もありましたけども、この答申素案に基づいて、 修正をさせていただいて、答申とさせていただきますので、よろしく願いを いたします。</p> <p>はいありがとうございました。</p>
会長	<p><b>(5) その他 (その他資料1、2)</b></p> <p>それでは最後の議題で、その他がござい ます。前回委員さんからですね、DMO 等々 についてご質問がありましたので、事務方の方 で、ご回答をお願いします。</p>
財政課長	<p>はい。お願いします。委員さん からいただいているのは3点ほどござ います。</p> <p>まず1点目でございますが観光政策 に関連したご質問でございます。市の観 光課といわゆる DMO ちの観光まち づくり推進機構につきまして地域の観 光振興を一体的に進めていくためにも っと効率的な展開があるのではないかと いうようなご趣旨だったかと思いま す。それにつきまして本日産業経済部 長より説明の方させていただきます。 その他資料1でございます。</p>
産業経済部 長	<p>それでは、前回ご意見いただき ましたけども、すべて答えきれており ませんでしたので今日、資料を付けさ せていただきました。着座にて失礼 いたします。</p> <p>茅野市観光課と、一般社団法人茅 野観光まちづくり推進機構、略称で ちの DMO とさせていただいており ますが、役割の分担についてご説明 いたします。まずキーワードとし まして、観光地域づくりとはという ことで書いてありますが、地域が一 丸となって個性溢れる観光地域を作 り上げ、活気に溢れる稼げる地域 社会を築いていくことを目標とし まして、この下にございます、市観 光課、ちの DMO、それから商 業農業移住教育などいろいろ含め た各種産業界、それから地域住民 の方が連携してこの観光地域づく りを進めているということでござ います。</p> <p>それぞれの役割でございますが、 主な役割の部分は、市の観光課、 市でございますが、観光政策の策 定、それからちの DMO は観光 政策の実現実践というところの 役割となっております。</p> <p>市の観光課の部分でございます が、その政策となります、観光 振興ビジョンを策定するということ で、市政の中での観光の位置付け の明確化を図っております。い くつか黒ポチで、役割を書いてあ りますが、庁内他部局との連携調 整、それから、下の方に行きます と、基盤整備ということで駐車 場、トイレ、道路等の整備それ から観光的、環境整備などの維 持管理、各種団体への補助をそれ ぞれの事務局という</p>

	<p>ものになっております。</p> <p>そしてちのDMOでございますが、市の観光政策の提言ということを含めまして、観光戦略の具体化、現在中期5ヵ年計画というのを策定しております。そしてそれを含めて、観光戦術の展開ということでございます。また財源としましては、会員からの会費、それから市の補助で独自の収益となっている状況でございます。</p> <p>公益事業としまして、観光案内、誘客宣伝、そして旅行商品の造成支援などを行い独自収益としまして、今あるちの旅やアクティビティそれからヤマウラステイ、教育旅行などということで、ちの観光の特色化、自主財源の確保ということを図っております。</p> <p>一番大きな特徴でございますが、ちのDMOの方は、行政界を越えた広域的な活動が可能ということで、今年度、例を挙げますと、軽井沢観光協会さんと事業連携の協定を締結しております。こういった部分でも、いろんなどころとの連携が出てくるということでございます。</p> <p>そして一番最後、各種産業界地域住民でございますが、観光地域づくりの支援と理解をしていただいた上で、観光客のおもてなし、それから観光商品の磨き上げということでこのような部分を、担っていただいているのが明確でございます。</p> <p>このちのDMOの前身に茅野市観光協会っていうのがございまして、一緒に市とやってきたわけですけれども、このときにも非常に何をやっているかちょっとわからないという状況もあった中で、現在は役割が明確化され効率的な観光地域づくりを進められる体制がここでできたということでございますので、これからいよいよ本格的に、これが進んで参るということで思っております。</p> <p>ただやはり委員さんからも意見がある通り、市とこのDMOが何してるのっていうことがやはりあると思いますので、私たち市としましても、その他の方々にも実際何をやっているかということ、やっぱりお知らせしていく機会というのはやっていかなければならないというふうに考えております。以上でございます。</p>
<p>財政課長</p>	<p>続けてお願いいたします。その他資料2をご覧くださいますと2点ございます。1つは、環境絵本「やつがたけのちっち」の配布についてでございます。こちらですが幼児期にすべてのお子さんに、環境絵本を配布してございます。「やつがたけのちっち」という絵本でございますが、1つの世帯に複数のお子さんがある場合には、同じ本が何冊も1つの家庭にあるという状況にあるんですが、これを見直しをするという考えはあるのかということについてのご質問でございます。こちら市民環境部長の方で答えをさせていただきます。</p> <p>もう1点ですが、どんぐり手帳の配布についてということで、これも同様に行財政改革の視点でのご質問でございます。母子手帳をお渡しする際ですとか、新たに茅野に転入をされたご家庭に、すべてのお子さんにどんぐりネットワーク茅野手帳という、子育てに関する情報を網羅した手帳を交付してございますが、これも必要な方みの配布、効率的な対応をする考えはありますかというようなご趣旨でございました。こちらにつきましてはこども部長がお答えをさせていただきます。</p> <p>では1点目、「やつがたけのちっち」の方から、市民環境部長の方で説明します。</p>
<p>市民環境部長</p>	<p>はい。環境絵本「やつがたけのちっち」の配布についてというところになりますけれども、担当は、市民環境部の美サイクルセンターというところになります。着座にて説明させていただきます。よろしく願いをいたします。</p> <p>環境絵本「やつがたけのちっち」につきましては、市民活動団体の美サイクル茅野の環境絵本部会で幼児期からの環境教育を進めていきたいという願いを込めまして作成をしたものになります。平成14年からになりますけれども、市内の保育</p>

	<p>園等の年長時に、部会員が読み聞かせを直接行いまして、絵本の配布を手渡しで行っている。また、卒園時には、絵本の中に担任の先生からのメッセージ付きでプレゼントをしていただいているところからオリジナルの絵本になるということもございます。</p> <p>今回、ご意見をいただきましたので、今回本を作成した美サイクルちのと協議を行いまして、上記の趣旨を考慮し、園児全員に配布することが大切であるという結論に至りましたので、これまでと同じように進めたいというふうに考えております。また1冊の単価ですとか配布者数、決算額については、記載してありますのでそちらの方をご覧いただければと思います。ご回答説明につきましては以上になります。よろしくお願いいたします。</p> <p>子ども部長      どんぐり手帳の配布につきまして説明をさせていただきます。着座にてお願いいたします。どんぐり手帳につきましては担当課は子ども部の子ども課になります。</p> <p>茅野市では茅野市子ども家庭応援計画、通称どんぐりプランと言いますが、に基づきまして子どもが生まれる前から、18歳になるまでを一貫して、子どもやその家庭が安心して過ごせるよう、教育と福祉が一体となった応援支援を推進しております。</p> <p>このどんぐり手帳でございますが、継続的支援の方法の1つとして検討いたしまして、当初は支援が必要となるであろうお子さんへ配布ということで計画をいたしました。検討委員会を立ち上げて検討する中で、共有する方にすべてお渡しをするということで、平成23年6月から、配布が始まっております。主には母子手帳の交付や転入時にすべてのお子さんを対象にして交付をしております。</p> <p>令和5年度から、これまでの利用状況を検討する中で、今後は支援が必要となるであろうお子さんを対象に配布をするということで、全員配布につきましては、中止をさせていただきます。また、当初このようなどんぐり手帳、オリジナルもの、母子手帳が入るサイズのオリジナルものを作っておりましたので、製作単価が大分高いものでございましたが、令和5年度から、通常の市販のA4のものがつづれるサイズということで、製品の見直しをしたことによりまして、予算の決算額等も減っておりますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。</p>
会長	<p>はい。委員さん。とりあえずよろしいですか。ちょっとね、何となくっていう気持ちは私もあるんですけども。</p>
委員	<p>時間も押してるので、今日はこれで結構です。</p>
会長	<p>またのときをお願いしたいというふうに思います。はい、それでは会議事項のその他終了いたしまして、大きなくくりでの全体でのその他ございましたらお願いします。どうぞ。はい。</p>
委員	<p>その他、大きなその他になる前に今のDMOのことでちょっと聞きたい。いいですか。また次回資料用意していただければ結構なんですけれども、このDMOのところに財源は、会員の会費、それから市からの補助、独自収益という3つの柱になっていると思うんですけども、この優先的に行われるべき取組スケジュールと取組状況を見ると、DMOは昨年度は5,975万9000円拠出して。本年度は、令和6年度は2,552万拠出する予定というようになってるんですけども、このDMOってある意味、この独自財源っていうか自分のところで稼ぐ組織になりつつあるかどうか</p>

	<p>かっちゅうことを、資料を持って次回説明してもらえればありがたい。</p> <p>要するに市からどんどん補助を出してね、成果が上がってるか上がってないのかっていうことも含めて、我々は審議していかなきゃいけないかなというように思うんでね。</p> <p>スケートセンターの5000万が持ってないよって言うのに、DMOに5900万も、去年は出してる。今年は2500万の予算だけでも実際やってみなきゃわからないっていう状態では、これは委員さんが、片手落ちじゃないのって思うと思いますんで、ちょっとまた次回そこの資料を出していただいて、我々もいろんな意見を言うべきじゃないかなというふうに思います。蛇足ですいません。</p>
会長	<p>じゃ、事務局から、はい。</p>
財政課長	<p>おっしゃっていただきましたご意見を参考にしながら資料の方まとめたいと思います。</p>
会長	<p><b>5 その他</b></p> <p>その他全体でございますか。よろしいですかね。大変長時間要しましたけども、それではすべての議事を終了させていただきますが、次回の開催についてすみませんお願いします。</p>
行革推進係長	<p>次回の開催については今のところ未定となっております。しかしここで9月末におきまして半年経ちますので、今委員さんからもありました通り優先改革事項の半期の進捗状況についてまたお知らせしたいと思いますので、またその時は改めて日時の方をご連絡したいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
会長	<p>はい。それでは次回の開催については、時期は未定ということでございますけども、今まで行われた優先改革事項の内容の進捗状況につきまして、整理をしてお話をいただいて、それからまた再スタートというふうに進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。よろしいですかね。はい慎重審議ありがとうございました。それでは私の方の議事進行から降ろさせていただきますご協力ありがとうございました。</p>
財政課長	<p><b>6 閉会</b></p> <p>はい、会長ありがとうございました。それでは閉会でございます。副会長を閉会の挨拶、よろしく願いいたします。</p>
副会長	<p>はい委員の皆さん本当に長時間で大変お疲れ様でございました。大変重い結論を出していただきました。私ども、この答申につきましては、本日、いろいろいただいた意見をきちんと盛り込んで皆さんの意に沿うような形にして、最初の形にしていきたいというふうに思いますんで、またご意見いろいろいただきますけれども、よろしく願いいたします。</p> <p>はいそれではですね、以上をもちまして令和6年度第4回茅野市行財政審議会を閉会とさせていただきます。大変お疲れ様でした。ありがとうございました。</p>
	<p>以上</p>

## 令和6年度第4回茅野市行財政審議会 次第

日時 9月2日(月)午後6時30分～  
場所 茅野市役所8階 大ホール

1 開会

2 副市長挨拶

3 会長挨拶

4 会議事項

(1) 質問の回答について (資料1)

(2) 小中学生に行ったアンケートについて (資料2-1～資料2-3)

(3) 公共施設のあり方に関するアンケートについて (資料3)

(4) 答申内容の協議

(5) その他 (その他資料1、2)

5 その他

6 閉会



第3回行財政審議会後にあった質問等の対応について

1 国、県、諏訪広域での存続に向けた実現性は (資料1-1～資料1-3)

2 クラウドファンディング、企業寄附等の実現性は

・(事例) 令和4年度 陸上競技場第3種公認更新

クラウドファンディング (個人版ふるさと納税)	39件	796,000円
企業版ふるさと納税	5件	5,700,000円
茅野市陸上協会 寄附		3,760,000円
諏訪陸上協会 寄附		2,000,000円
その他 寄附	2件	200,000円
		<u>計 12,456,000円</u>

3 オリンピアンのかさんはどう考えるか

・協会から働きかけてもらいたい

4 岡谷スケートセンターの廃止は本当か

・存廃については具体的な方針は決まっていない

5 教育長の発言について (資料2-1～資料2-3)

アンケートをやったなら、方法や具体的な資料を提示してほしい。

本当に子供たちが必要と考えているなら市の教育の考え方で決めればよいと思う。

6 スポーツ協会、スケート協会の取組(クラウドファンディング等)

7 市議、市議会の意見、取組

・現在、一般質問や全員協議会等は話題には出ていない

8 市役所の取組

長野県市長会副市長・総務担当部長会議会議録(抄)

日時：令和4年1月21日（金）13:15～15:45

場所：長野県庁西庁舎3階災害対策本部室  
(防災テレビ会議システムによるオンライン会議)

(略)

4 議事

(略)

議題8 広域圏ごとの拠点スポーツ施設指定と補助制度の創設について

(座長 樋口長野市副市長)

それでは、8番です。茅野市他9市提案の、「広域圏ごとの拠点スポーツ施設指定と補助制度の創設について」を議題といたします。

茅野市さんから、簡潔に補足説明をお願いいたします。

(柿澤茅野市副市長)

昨年のこの会議では、伊那市、飯田市と共同提案をしましたがけれども、陸上競技場に特化したものは難しいとのご回答をいただきましたので、新たに本年度は、陸上競技場をはじめ、スケート・アルペンスキー競技施設とジャンプ台施設等、全市町村が設置していない高額な改修費用を要する施設について、自治体の財政負担が大きく、維持・管理及び更新が厳しい状況であることから、県による広域圏ごとの拠点スポーツ施設等補助制度の創設とともに、引き続き国の補助制度の創設を10市の共同提案により求めるものであります。

各種競技施設はそれぞれの自治体で建設しているものの、各施設の広域的な利用実態を踏まえ、また、長野県全体のスポーツ振興及びレベル向上のため提案するものでございますので、よろしく願いいたします。

(樋口座長)

それでは、県のご説明をお願いいたします。

(峯村スポーツ課課長補佐兼管理係長)

本日は、スポーツ課長は別の公務がございまして、出席がかないませ

ん。私からご説明させていただきますので、ご了承いただきたいと思います。

県では、皆様ご承知のとおり、令和10年開催予定の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向けまして、先催県の例に倣う形ではありますが、競技会場市となる市町村有施設への財政支援策を検討しているところでございます。国スポ・全障スポで使用します県有施設の整備につきましても、県自ら、皆様と同じ立場でございまして、全力で整備に努めているところでございます。このような状況の中、新たな補助制度の創設は現実的にはなかなか厳しいと思っております。既存の補助の活用を、まずはお願いたいと考えてございます。

県におきましても、現在改修中であります松本平広域公園陸上競技場、白馬のジャンプ競技場等、県有施設の管理運営につきましても、繰り返しになりますけれども、市町村の皆様と同じような立場で取り組んでいる状況でございまして、国に対して補助制度の創設は今後も求めてまいりたいと思っております。本年度も一度、文部科学大臣に提出したところでございますけれども、引き続き考えていきたいと考えております。

(樋口座長)

ただいまの説明も含めまして、ご質問、ご意見はございますか。  
茅野市さん、今の県からの説明も含めて、いかがですか。

(柿澤茅野市副市長)

国への制度創設の要望は、ぜひ引き続きやっていただきたいと思います。やはり県のスポーツ振興の観点から、県でもぜひ検討をお願いしたいと思います。

(樋口座長)

はい。他はいかがでしょう。なかなか面白い発想だと思いましたが、これが実現すれば、それはそれとして、それぞれ市の方は楽になるという部分もございますので、県には恐縮なところもございますが、本件について、議題として提案させていただくということによろしいですか。

(賛同あり)

(樋口座長)

ありがとうございます。

第150回長野県市長会総会会議録

日時:令和4年4月14日(木) 12:56~17:37

場所:長野県自治会館2階「大会議室」

6 会議

(略)

(2) 議題審議

(会長 牛越大町市長)

次に、「議題審議」に移ります。

I 各市提出議題

(牛越会長)

はじめに、各市から議題が提出されておりますので、順次ご審議をお願いいたします。

(略)

II 副市長・総務担当部長会議送付議題

(牛越会長)

次に、副市長・総務担当部長会議から提出されました議題についてご審議いただきます。

本日は、副市長・総務担当部長会議以降に取り下げのありました1議題を除く21の議題につきましてご審議いただきます。このうち、県に直接関係する議題は個別にご審議いただくのが慣例であります。会議時間の圧縮のため、提案市の希望を確認しました結果、一括審議とのお返答をいただいております。

つきましては、21議題につきまして一括して審議することとしてよろしゅうございますか。

(「異議なし」の声あり)

(牛越会長)

異議なしということでございます。一括審議として進めてまいります。

(略)

議題 8 広域圏ごとの拠点スポーツ施設指定と補助制度の創設について

(略)

(牛越会長)

それでは、

(略)

21 議題の中でこれを取り上げて、まずは採択を決定していただきたいと思えます。

ただ今議題となっております第 10 番目の「保育室等の居住面積に係る基準における『従うべき基準』から『参酌すべき基準』への変更について」、これをまず採択することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

(牛越会長)

では、この件につきましては採択することといたします。

残りの 20 議題につきまして、ご出席の市長さん方から何かご発言がありましたらご発言をお願いしたいと思えますが、いかがでしょうか。

ご発言はございませんか。それでは、残りの 20 議題については一括してお諮りいたします。20 議題につきましては、原案のとおり採択することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

(牛越会長)

異議なしということでございます。よって、残り全ての議題を採択することに決定いたしました。

以上で、副市長・総務担当部長会議提出議題の審議を終了いたします。

本日、採択いただきました各議題は、県へ要望するものと北信越市長会を通じて総会へ提案するものの調整を市長会事務局にご一任いただき、その対応は会長にご一任いただくことにご了承をお願いしたいと存じます。よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

(牛越会長)

では、そのように取り扱わせていただきます。

長野県市長会副市長・総務担当部長会議会議録(抄)

日時：令和5年1月20日(金)12:57~14:52

場所：長野県自治会館2階「大会議室」

II 議題審議

(西澤長野市副市長)

それでは、ただ今の事務局からの説明のとおり審議を進めさせていただきます。

なお、各市から提出されました議題につきましては、4月の第152回市長会総会へ提出するかの取扱いにつきましても決定したいと思います。有意義な会議となりますよう、ご協力をお願いいたします。

それでは、次第に基づき順次会議を進めてまいります。

各市提出議題

(略)

議題5 国民スポーツ大会の会場となる施設の県営化について

(西澤長野市副市長)

はい、それでは議題の5番、「国民スポーツ大会の会場となる施設の県営化について」を議題といたします。

これにつきましても、提案者の飯山市さんから補足説明がございましたらお願いします。

(伊東飯山市副市長)

国民スポーツ大会の会場となるスポーツ施設ですけれども、飯山市に「飯山シャンツェ」がございます。大規模改修に高額な費用を要している状況です。特定の自治体だけが所有する施設ですので、施設の県営化を切に要望いたします。

スポーツ基本法ですけれども、国民スポーツ大会は公益財団法人日本スポーツ協会、国及び開催地の都道府県が共同して開催するものとし、これらの開催者が定める方法により選出された選手が参加し、総合的に運動競技をするものとするとしております。

全県単位でスポーツ施設のあり方の整理が必要と思います。国民スポーツ大会で使用されているスポーツ施設ですが、長野県全体のスポーツ振興

及びレベルの向上に欠くことができないことから県営化が望まれると思っております。

当市のジャンプ台ですけれども、古いものでして、日当たりも良好で大変雪も溶けやすく、大規模な改修を必要としております。そのための市の財政負担は非常に大きくなります。参加選手のためにも一体とした開催地での運用が望まれることから、国民スポーツ大会が開催される当市のジャンプ台施設について、県営としていただくことを望んでおります。

(西澤長野市副市長)

ありがとうございます。それでは県のご見解をお願いしたいと思います。

(下條国民スポーツ大会準備室長)

まず、国民スポーツ大会の競技会場について、若干の補足をさせていただきながら本題に入りたいと思っております。

冬季大会の競技会場地選定につきましては、本大会と同様に市町村、競技団体の皆様にそれぞれ希望調査を行いまして、両者の意向を踏まえながら選定を行ってきたところでございます。これにつきましては、日本スポーツ協会にて定めております国民体育大会の開催基準要項というものがございまして、その中で「大会の競技施設は既存施設の活用に努め、施設の新設、改修等に当たっては必要最小限にとどめる」旨が規定されております。県では、これまで会場地市町村が基準を満たす競技施設を有するということを確認しながら国民スポーツ大会の競技会場地の選定を行ってきたところでございます。そういったことも踏まえまして、スキー競技については令和2年に県の準備委員会において、内定に至ったものと認識しています。

一方で先ほどお話がありましたように、競技会場の市町村の財政負担を軽減する必要もございまして、冬季大会におきましては、施設整備に対するスポーツ振興くじの助成金、いわゆる toto でございますけれども、令和3年度から制度が変更されまして、会場地市町村が受けられる助成額の大幅な減額が見込まれるという状況になってございますことから、所管する日本スポーツ振興センターに対して、制度を改正して助成額の増額を求めるといった要望を、県と市町村の皆様と一緒にすることも考えているところでございます。引き続き冬季大会の施設整備の財源確保については、検討してまいりたいと考えてございます。それから、個別になるわけですけれども、ジャンプ台の県営化についてのご要望でございます。県では既に白馬村で所有していますノーマルヒルのジャンプ台と一体的に運用して

おります。白馬ジャンプ競技場ラージヒルを所有していますことから、新たにジャンプ台を県営化することは難しいと考えているところでございます。

こちらにつきましても、公認を取得しているスポーツ施設ということになると思いますが、他の公共施設とは異なりまして公認を取るための対応をしなければならないということは承知しておりますので、他県の実況などを参考にしながら、公認スポーツ施設の、例えば更新といった改修に係る費用の負担のあり方ですとか、さらには広域的な視点での負担のあり方も含めて、引き続き研究をさせていただければと思っております。

(西澤長野市副市長)

ありがとうございました。飯山市さん、いかがですか。

(伊東飯山市副市長)

補足でお願いいたします。夏の利用状況なんですけれども、昨年の利用は延べ1,700人でした。そのうち、飯山市の選手は400人ということで、概ね市民の利用は2割ということです。そのあたりもご承知おきをいただければありがたいです。

(西澤長野市副市長)

ありがとうございます。

国スポの施設整備の関連は、また他の市にも関連があると思いますが、何か追加の発言等はございますか。

松本市さんどうぞ。

(宮之本松本市副市長)

国スポの施設の短期間利用ですけども、それに対して市の負担が大きいのは、そのとおりだと思います。でも、私、思うのですけれども、国スポの会場については、事前に、利用施設について各地方公共団体に対して問い合わせがあったと思います。そのときに、このジャンプ台について、飯山市さんとしてはお断りしたにもかかわらず、施設として選定されたということでしょうか。

(伊東飯山市副市長)

協議を知って選定ということでございます。

(宮之本松本市副市長)



そうであれば、当然その時に、財政的な負担をある程度受け入れなければいけないということは、事前に分かっていたのではないかと思います。確かに、この短期間のために財政的な負荷があるのは事実です。私どもとしても負担です。でも、それを理由として県営化するというのは、ちょっと違うのではないかと思います。

(伊東飯山市副市長)

地域の負担が大きいということで今回上げさせていただきました。

(矢花大町市副市長)

大町市も国民スポーツ大会では、スポーツクライミングの会場となっております。このスポーツクライミングの施設は県内にはないわけでごさいます。国スポでやるとなると、かなりしっかりとしたレベルの高いものを作らなければいけないということで、また、県内に一つしかない施設ということになれば、競技人口と競技の強化の観点からも、先ほど室長から研究というお話がございましたけども、そんな形で検討いただければありがたいということでございます。

(西澤長野市副市長)

はい、ありがとうございます。

他にはご意見ございますか。

それぞれ意見を頂戴しまして、長野県で県営化を実現するのは、なかなか一朝一夕の話ではないと思いますが、現実的に自治体の負担があるという状況もございします。様々な視点で、長野県にも検討いただきたいというようなことも踏まえまして、本件については市長会総会にまず上げていくということにさせていただいてよろしいでしょうか。

(後藤諏訪市副市長)

財政負担が市にとって厳しいというのは、先ほど松本市さんからお話があったとおりでございますけれども、今回の提案について、このジャンプ台を県営としていただきたいという趣旨なのか、それとも国スポの会場として受けている施設全てを県営にしてくださいという趣旨なのか、そこをはっきりしていただきたい。諏訪市も国スポの会場を受けていますけれど、諏訪市の野球場は県営にしてもらいたいと思っておりますので、その線引きをしっかりとっていただきたいと思います。

(伊東飯山市副市長)

飯山市に関しては、ジャンプ台の施設全てを県営にしていきたいと思いますという希望でございます。

(宮之本松本市副市長)

諏訪市の施設などは、対象外ということですね。

(西澤長野市副市長)

国民スポーツ大会の施設は、様々な競技ごと各自治体でございます。

(伊東飯山市副市長)

基本的には国体で使用されるジャンプ台を県営にしていきたいと思いますということです。

(後藤諏訪市副市長)

私の質問の仕方が悪かったかもしれません。この件名を読んだときに、国民スポーツ大会の会場となる施設の県営化というと、例えば諏訪市は国スポで軟式野球とセーリング競技を引き受けます。こういった全ての県内で行われる国スポの施設を県営化するという意味でなくて、飯山市さんのジャンプ場関連施設に限っての提案という理解でよろしいわけでしょうか。

(伊東飯山市副市長)

はい、そういうことでございます。

(青木市長会事務局長)

事務局として、若干反省しながら聞いていましたけれど、飯山市さんと相談をさせていただかなければならないと思っています。飯山市さん単独の問題を市長会全体の議題として提案することがいがかかるところもでございます。ジャンプ台を県営化ということになりますと、それだけを明確にした議題でないとなふさわしくないでしょうし、逆に明確化すると19市全体のテーマとなりうるかという問題が出てまいります。

「県営化」が一つの表現としてこうなっていますが、「財政負担に対する支援」ということであれば、19市共通のテーマになりうると思います。今後、飯山市さんをご相談をさせていただいて、その結果次第では、大変恐縮ですけど、文言の修正か、内容の取り下げか。19市でなくて飯山市さんが単独で県に対して要望されることを阻むものでは決してございませんので、その辺の扱いについて座長さんのお許しをいただければ、もう少し事務局

と飯山市さんとの預かりにさせていただき、結果については座長さんにご報告の上、扱いについて協議させていただくということもありうると思います。いかがでございましょうか。

(伊東飯山市副市長)

ありがとうございます。そのようにお願いいたします。

(西澤長野市副市長)

よろしいでしょうか。

はい、では少し整理が必要な部分がございますので、飯山市さんと市長会事務局で預かりという形で検討いただいて、またその結果をお知らせいただくという扱いにさせていただきます。よろしく申し上げます。

(略)

(西澤長野市副市長)

以上で、各市から提案のありました議題の審議が終了いたしました。

各副市長・部長の皆様並びに説明いただきました県の皆様におかれましては、長時間にわたるご審議、誠にありがとうございました

ここで、ご審議いただきました議題の取扱い等について、確認の意味で青木事務局長から説明をお願いしたいと思います。

(青木市長会事務局長)

(略)

議題の5番でございます飯山市さんの関係でございますが、文言の整理、あるいは取り下げ等も含めまして、今後、飯山市さんにご協議をさせていただきたいと思っております。

## ウィンタースポーツに関するアンケート調査について

### 1. 調査目的

茅野市には、茅野市国際スケートセンター、またスキーに関しては民営のスキー場が4カ所あり、小学校においては多様な学びを展開する中で、これらの施設を活用しながらウィンタースポーツに触れている。

冬の厳しい茅野市ならではの学習に触れた子ども達の率直な気持ちを知り、来冬の学習機会の設定に役立てる。

### 2. 対象

市内小中学校全児童・生徒 4,142名（令和6年5月1日現在）  
（小学校：2,769名、中学校：1,373名）

### 3. 調査期間

令和6年6月11日（火）～6月13日（木）

### 4. 調査方法

学習用端末を用いた調査とした。（L o g o フォームによる回答）

### 5. 調査結果

調査期間中に欠席をしている場合は人数に含まれていません。また、低学年児童について、タブレット端末をまだ使用できないクラスがあり、紙媒体による調査を行いました。そのため、未回答の問いがあるなど合計人数にばらつきが見られます。

<回答人数>

小学生：2,156名

【回答率：77.8%】（男子：1,040名、女子：1,017名、無回答：99名）

中学生：1,030名

【回答率：75.0%】（男子：515名、女子：481名、無回答：34名）

### 6. 考察

<スケート>

①小学生は68%が好きと答え、中学生は35%が好きだと回答。

授業以外（中学生は授業なし）でスケートをするかには、小学生42%、中学生14%と回答。

中学生は、部活動等へ費やす時間が増えることが減少の原因か。

②スケート靴を持っている児童生徒は全体の7%。殆どがレンタルでフィギアスケートを選択。

（スケート靴は入門用の安価な物で3万円程度と推察）

③靴の選び方から推測すると、立ちやすく、安定感の高いフィギアスケートを選

択する児童が多いと推測。授業時数の確保が難しく、技術の習得（競技性）より、親しむ（レジャー性）ことや経験させることに重きが置かれている。

- ④温暖化の影響により冬期間の気温も上昇傾向にあり、滑走可能な日が限られる恐れがある。気候の影響で、各学年、年に2回程度の授業時数を確保できるか課題。

<スキー>

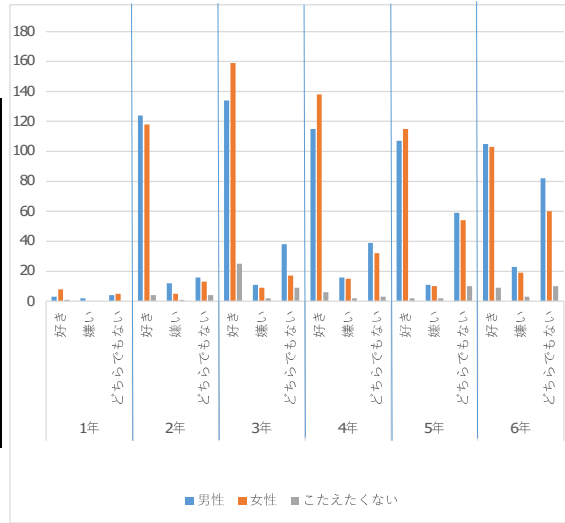
- ①小学生は49%が好きと答え、中学生は44%が好きだと回答。  
中学生は、スケートよりもスキーの方が好きの割合が9%高い。  
教室以外でスキーをするかには、小学生11%、中学生7%と回答。
- ②スキー道具を持っている児童生徒は全体の18%。スケート靴よりも所持率が高いが、スキー道具は入門用の安価な物でも一式で10万円程度掛かると考えられる。
- ③道具が高価なため、手が出し難いスポーツのひとつである。  
現在、スキーを授業で取り扱っている学校は小学校3校で高学年のみで、シーズンに1日だけ実施。（経費は保護者負担）

ウィンタースポーツアンケート集計「小学校」(スケート)

対象：全児童「2,769名」  
 方法：学習者用端末を用いたLogoフォームによるアンケート調査  
 回答人数：2,156名【回答率：77.8%】(男性：1,040名、女性：1,017名、答えたくない：99名)

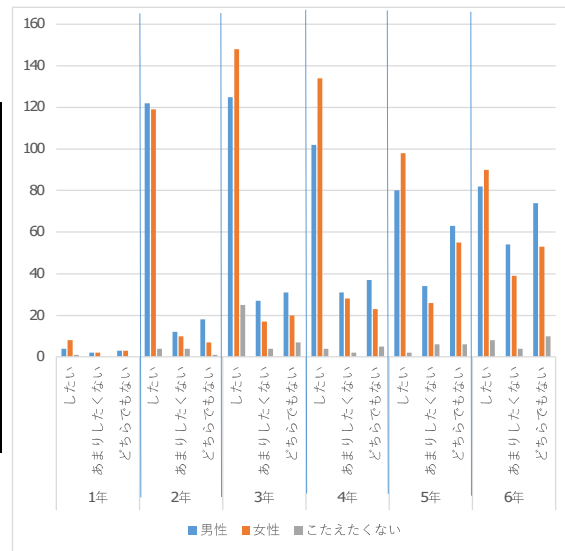
①スケートするのは好きですか

		男性	女性	こたえたくない	
1年	好き	3	8	1	
	嫌い	2	0	0	
	どちらでもない	4	5	0	
2年	好き	124	118	4	83%
	嫌い	12	5	1	6%
	どちらでもない	16	13	4	11%
3年	好き	134	159	25	79%
	嫌い	11	9	2	5%
	どちらでもない	38	17	9	16%
4年	好き	115	138	6	71%
	嫌い	16	15	2	9%
	どちらでもない	39	32	3	20%
5年	好き	107	115	2	61%
	嫌い	11	10	2	6%
	どちらでもない	59	54	10	33%
6年	好き	105	103	9	52%
	嫌い	23	19	3	11%
	どちらでもない	82	60	10	37%
全体	好き		68%		
	嫌い		8%		
	どちらでもない		24%		



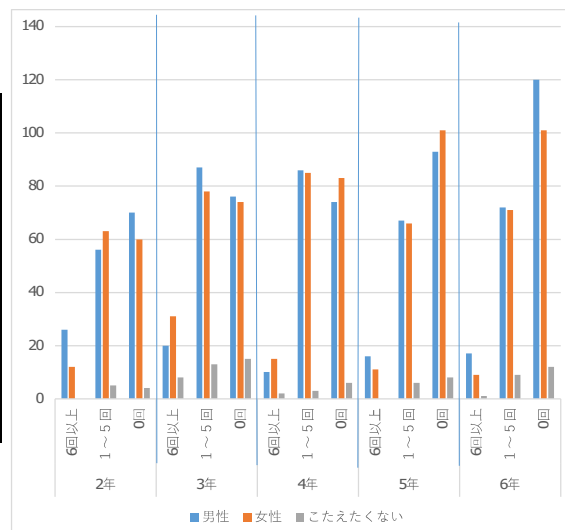
②スケートをしたいと思いませんか

		男性	女性	こたえたくない	
1年	したい	4	8	1	
	あまりしたくない	2	2	0	
	どちらでもない	3	3	0	
2年	したい	122	119	4	82%
	あまりしたくない	12	10	4	9%
	どちらでもない	18	7	1	9%
3年	したい	125	148	25	74%
	あまりしたくない	27	17	4	12%
	どちらでもない	31	20	7	14%
4年	したい	102	134	4	66%
	あまりしたくない	31	28	2	17%
	どちらでもない	37	23	5	18%
5年	したい	80	98	2	49%
	あまりしたくない	34	26	6	18%
	どちらでもない	63	55	6	34%
6年	したい	82	90	8	43%
	あまりしたくない	54	39	4	23%
	どちらでもない	74	53	10	33%
全体	したい		62%		
	あまりしたくない		16%		
	どちらでもない		22%		



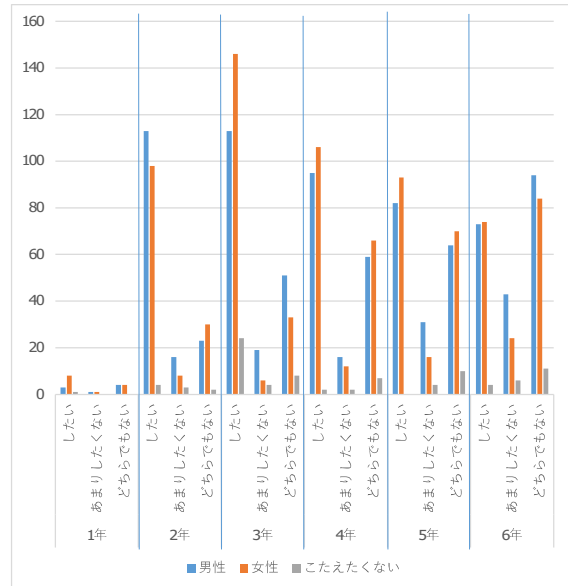
③学校の授業以外でもスケートをしていますか(1シーズンの回数)(小学1年生のみ回答不要)

		男性	女性	こたえたくない	
1年	6回以上				
	1~5回				
	0回				
2年	6回以上	26	12	0	13%
	1~5回	56	63	5	42%
	0回	70	60	4	45%
3年	6回以上	20	31	8	15%
	1~5回	87	78	13	44%
	0回	76	74	15	41%
4年	6回以上	10	15	2	7%
	1~5回	86	85	3	48%
	0回	74	83	6	45%
5年	6回以上	16	11	0	7%
	1~5回	67	66	6	38%
	0回	93	101	8	55%
6年	6回以上	17	9	1	7%
	1~5回	72	71	9	37%
	0回	120	101	12	57%
全体	6回以上		10%		
	1~5回		42%		
	0回		49%		



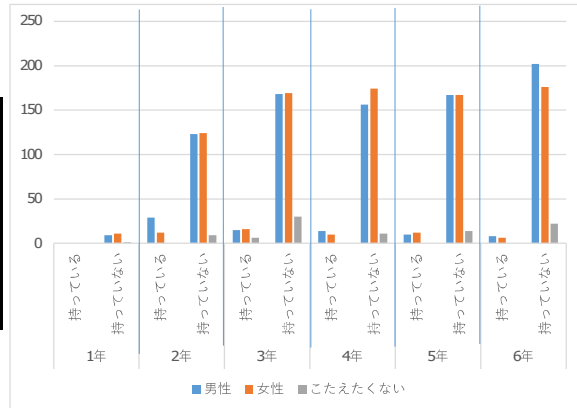
④小学校、中学校を卒業した後もスケートをしたいと思いますか

		男性	女性	こたえたくない	
1年	したい	3	8	1	
	あまりしたくない	1	1	0	
	どちらでもない	4	4	0	
2年	したい	113	98	4	72%
	あまりしたくない	16	8	3	9%
	どちらでもない	23	30	2	19%
3年	したい	113	146	24	70%
	あまりしたくない	19	6	4	7%
	どちらでもない	51	33	8	23%
4年	したい	95	106	2	56%
	あまりしたくない	16	12	2	8%
	どちらでもない	59	66	7	36%
5年	したい	82	93	0	47%
	あまりしたくない	31	16	4	14%
	どちらでもない	64	70	10	39%
6年	したい	73	74	4	37%
	あまりしたくない	43	24	6	18%
	どちらでもない	94	84	11	46%
全体	したい	56%			
	あまりしたくない	11%			
	どちらでもない	33%			



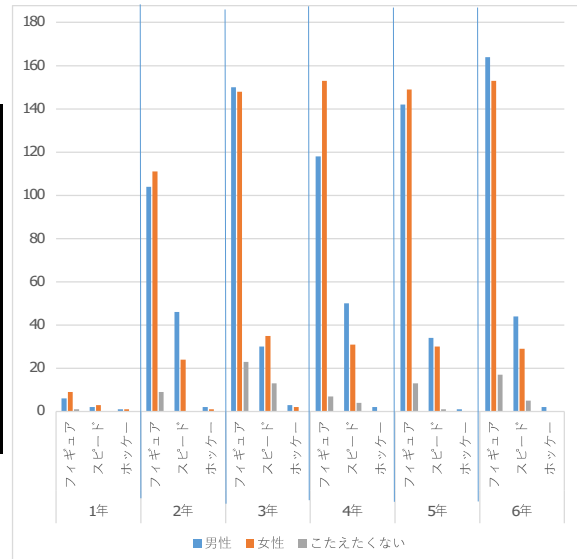
⑤自分のスケート靴を持っていますか

		男性	女性	こたえたくない	
1年	持っている	0	0	0	
	持っていない	9	11	1	
2年	持っている	29	12	0	14%
	持っていない	123	124	9	86%
3年	持っている	15	16	6	9%
	持っていない	168	169	30	91%
4年	持っている	14	10	0	7%
	持っていない	156	174	11	93%
5年	持っている	10	12	0	6%
	持っていない	167	167	14	94%
6年	持っている	8	6	0	3%
	持っていない	202	176	22	97%
全体	持っている	7%			
	持っていない	93%			



⑥スケート靴を借りるときにはどの種類を借りますか

		男性	女性	こたえたくない	
1年	フィギュア	6	9	1	
	スピード	2	3	0	
	ホッケー	1	1	0	
2年	フィギュア	104	111	9	75%
	スピード	46	24	0	24%
	ホッケー	2	1	0	1%
3年	フィギュア	150	148	23	79%
	スピード	30	35	13	19%
	ホッケー	3	2	0	1%
4年	フィギュア	118	153	7	76%
	スピード	50	31	4	23%
	ホッケー	2	0	0	1%
5年	フィギュア	142	149	13	82%
	スピード	34	30	1	18%
	ホッケー	1	0	0	0%
6年	フィギュア	164	153	17	81%
	スピード	44	29	5	19%
	ホッケー	2	0	0	0%
全体	フィギュア	79%			
	スピード	20%			
	ホッケー	1%			



## ウィンタースポーツアンケート集計「中学校」(スケート)

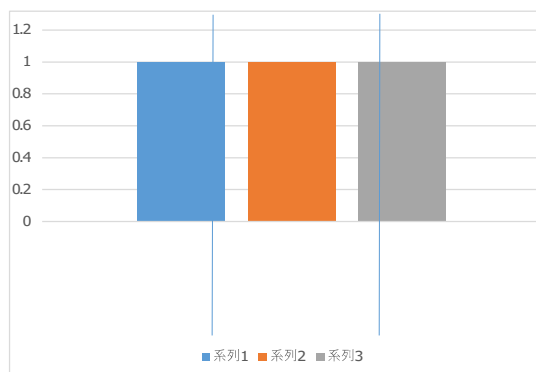
対象: 全生徒(1,373名)

方法: 学習者用端末を用いたLogoフォームによるアンケート調査

回答人数: 1,030名【回答率:75.0%】(男性:515名、女性:481名、答えたくない:34名)

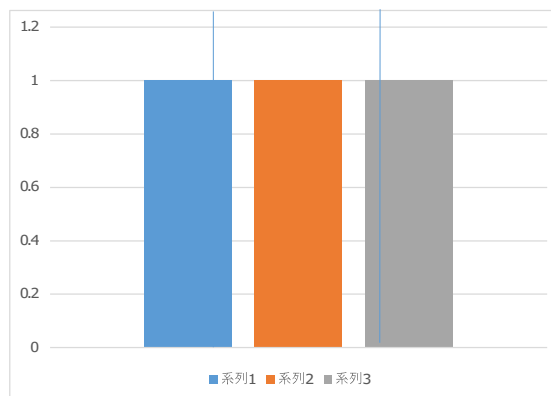
### ①スケートをするのは好きですか

		男性	女性	こたえたくない	
1年	好き	64	60	3	36%
	嫌い	33	23	2	17%
	どちらでもない	85	75	3	47%
2年	好き	52	48	4	33%
	嫌い	29	21	6	18%
	どちらでもない	81	72	6	50%
3年	好き	55	74	3	36%
	嫌い	26	19	5	14%
	どちらでもない	91	89	2	50%
全体	好き				35%
	嫌い				16%
	どちらでもない				49%



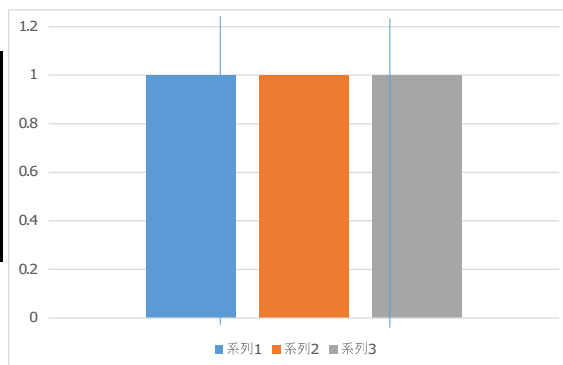
### ②スケートをしたいと思いませんか

		男性	女性	こたえたくない	
1年	したい	56	57	4	34%
	あまりしたくない	57	33	2	26%
	どちらでもない	69	68	2	40%
2年	したい	43	35	3	25%
	あまりしたくない	51	48	9	34%
	どちらでもない	68	58	4	41%
3年	したい	41	64	4	30%
	あまりしたくない	52	42	5	27%
	どちらでもない	79	76	1	43%
全体	したい				30%
	あまりしたくない				29%
	どちらでもない				41%



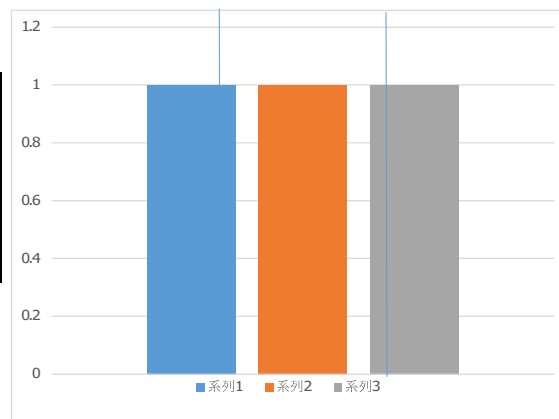
### ③学校の授業以外でもスケートをしていますか(1シーズンの回数)

		男性	女性	こたえたくない	
1年	6回以上	17	9	1	8%
	1~5回	42	51	3	28%
	0回	119	95	4	64%
2年	6回以上	4	5	1	3%
	1~5回	30	36	2	22%
	0回	126	97	13	75%
3年	6回以上	7	6	0	4%
	1~5回	29	37	4	19%
	0回	135	136	6	77%
全体	6回以上				5%
	1~5回				23%
	0回				72%



### ④小学校、中学校を卒業した後もスケートをしたいと思いませんか

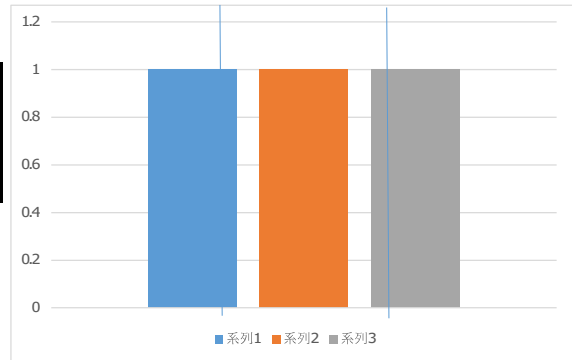
		男性	女性	こたえたくない	
1年	したい	49	59	2	32%
	あまりしたくない	47	26	2	22%
	どちらでもない	86	73	4	47%
2年	したい	32	37	5	23%
	あまりしたくない	42	35	7	26%
	どちらでもない	88	69	4	50%
3年	したい	39	60	4	28%
	あまりしたくない	44	32	3	22%
	どちらでもない	89	90	3	50%
全体	したい				28%
	あまりしたくない				23%
	どちらでもない				49%





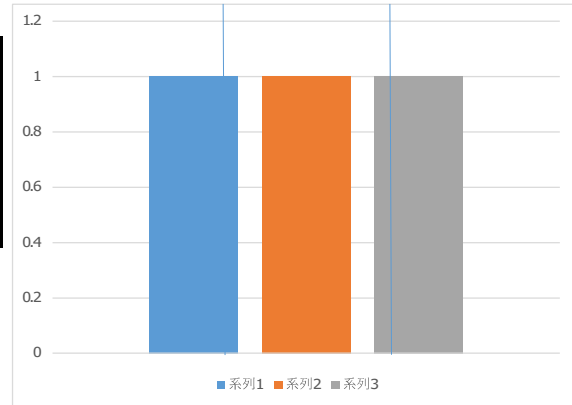
⑤自分のスケート靴を持っていますか

		男性	女性	こたえたくない	
1年	持っている	16	8	0	7%
	持っていない	166	150	8	93%
2年	持っている	6	7	0	4%
	持っていない	156	134	16	96%
3年	持っている	10	9	1	5%
	持っていない	162	173	9	95%
全体	持っている	6%			
	持っていない	94%			



⑥スケート靴を借りるときにはどの種類を借りますか

		男性	女性	こたえたくない	
1年	フィギュア	133	134	5	78%
	スピード	47	24	3	21%
	ホッケー	2	0	0	1%
2年	フィギュア	126	113	12	79%
	スピード	35	28	2	20%
	ホッケー	1	0	2	1%
3年	フィギュア	133	152	4	79%
	スピード	37	30	4	20%
	ホッケー	2	0	2	1%
全体	フィギュア	79%			
	スピード	20%			
	ホッケー	1%			

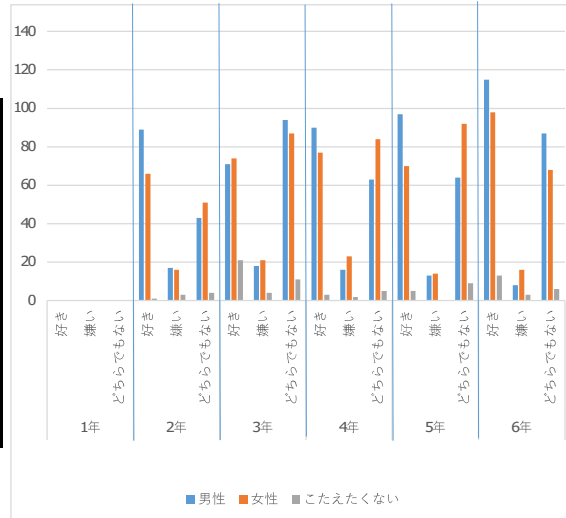


ウィンタースポーツアンケート集計「小学校」(スキー・スノボ)

対象：全児童「2,769名」  
 方法：学習者用端末を用いたLogoフォームによるアンケート調査  
 回答人数：2,156名【回答率：77.8%】(男性：1,040名、女性：1,017名、答えたくない：99名)

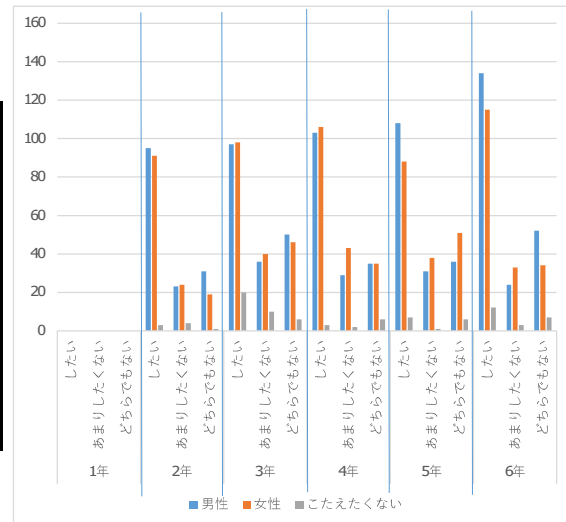
①スキーをするのは好きですか

		男性	女性	こたえたくない	
1年	好き				
	嫌い				
	どちらでもない				
2年	好き	89	66	1	54%
	嫌い	17	16	3	12%
	どちらでもない	43	51	4	33%
3年	好き	71	74	21	41%
	嫌い	18	21	4	11%
	どちらでもない	94	87	11	48%
4年	好き	90	77	3	47%
	嫌い	16	23	2	11%
	どちらでもない	63	84	5	42%
5年	好き	97	70	5	47%
	嫌い	13	14	0	7%
	どちらでもない	64	92	9	45%
6年	好き	115	98	13	55%
	嫌い	8	16	3	7%
	どちらでもない	87	68	6	39%
全体	好き		49%		
	嫌い		9%		
	どちらでもない		41%		



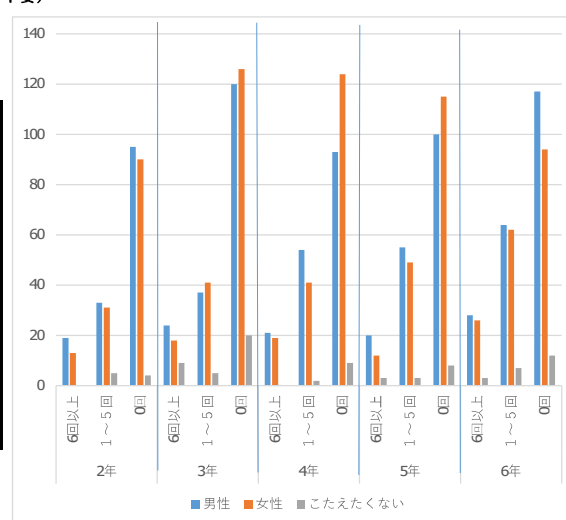
②スキーをしたいと思いますか

		男性	女性	こたえたくない	
1年	したい				
	あまりしたくない				
	どちらでもない				
2年	したい	95	91	3	65%
	あまりしたくない	23	24	4	17%
	どちらでもない	31	19	1	17%
3年	したい	97	98	20	53%
	あまりしたくない	36	40	10	21%
	どちらでもない	50	46	6	25%
4年	したい	103	106	3	59%
	あまりしたくない	29	43	2	20%
	どちらでもない	35	35	6	21%
5年	したい	108	88	7	55%
	あまりしたくない	31	38	1	19%
	どちらでもない	36	51	6	25%
6年	したい	134	115	12	63%
	あまりしたくない	24	33	3	14%
	どちらでもない	52	34	7	22%
全体	したい		59%		
	あまりしたくない		18%		
	どちらでもない		22%		



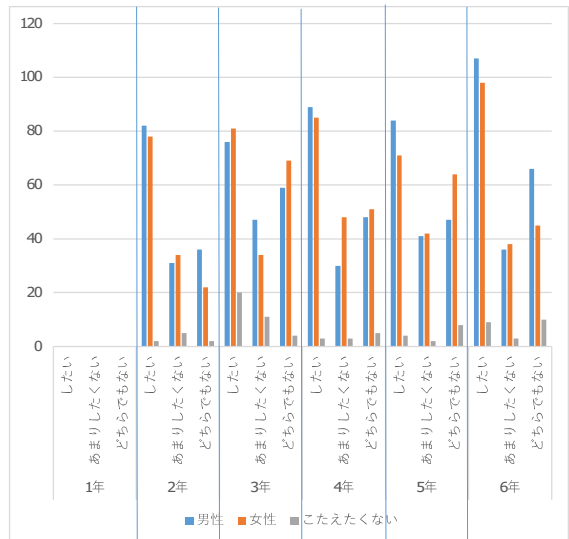
③学校の授業以外でもスキーをしていますか(1シーズンの回数)(小学1年生のみ回答不要)

		男性	女性	こたえたくない	
1年	6回以上				
	1~5回				
	0回				
2年	6回以上	19	13	0	11%
	1~5回	33	31	5	23%
	0回	95	90	4	64%
3年	6回以上	24	18	9	13%
	1~5回	37	41	5	21%
	0回	120	126	20	66%
4年	6回以上	21	19	0	11%
	1~5回	54	41	2	27%
	0回	93	124	9	62%
5年	6回以上	20	12	3	10%
	1~5回	55	49	3	29%
	0回	100	115	8	61%
6年	6回以上	28	26	3	14%
	1~5回	64	62	7	32%
	0回	117	94	12	54%
全体	6回以上		12%		
	1~5回		27%		
	0回		61%		



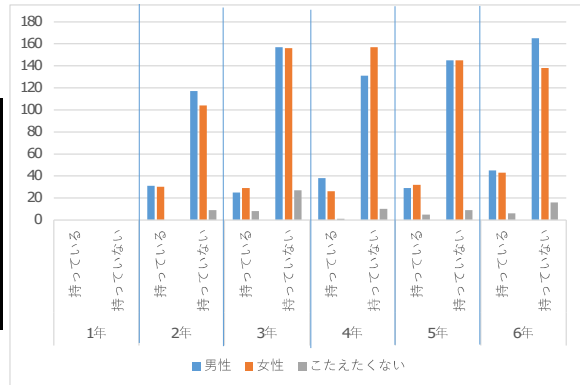
④小学校、中学校を卒業した後もスキーをしたいと思いますか

		男性	女性	こたえたくない	
1年	したい				
	あまりしたくない				
	どちらでもない				
2年	したい	82	78	2	55%
	あまりしたくない	31	34	5	24%
	どちらでもない	36	22	2	20%
3年	したい	76	81	20	44%
	あまりしたくない	47	34	11	23%
	どちらでもない	59	69	4	33%
4年	したい	89	85	3	49%
	あまりしたくない	30	48	3	22%
	どちらでもない	48	51	5	28%
5年	したい	84	71	4	44%
	あまりしたくない	41	42	2	23%
	どちらでもない	47	64	8	32%
6年	したい	107	98	9	52%
	あまりしたくない	36	38	3	19%
	どちらでもない	66	45	10	29%
全体	したい		49%		
	あまりしたくない		22%		
	どちらでもない		29%		



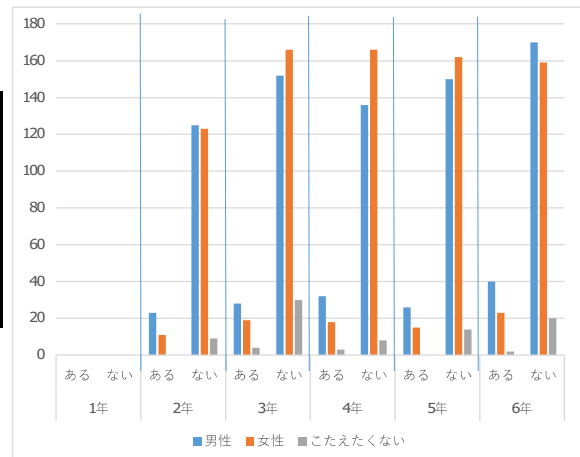
⑤自分のスキー道具を持っていますか

		男性	女性	こたえたくない	
1年	持っている				
	持っていない				
2年	持っている	31	30	0	21%
	持っていない	117	104	9	77%
3年	持っている	25	29	8	15%
	持っていない	157	156	27	84%
4年	持っている	38	26	1	18%
	持っていない	131	157	10	82%
5年	持っている	29	32	5	18%
	持っていない	145	145	9	81%
6年	持っている	45	43	6	23%
	持っていない	165	138	16	77%
全体	持っている		19%		
	持っていない		80%		



⑥スノーボードはしたことがありますか。

		男性	女性	こたえたくない	
1年	ある				
	ない				
2年	ある	23	11	0	12%
	ない	125	123	9	87%
3年	ある	28	19	4	13%
	ない	152	166	30	86%
4年	ある	32	18	3	15%
	ない	136	166	8	85%
5年	ある	26	15	0	11%
	ない	150	162	14	88%
6年	ある	40	23	2	16%
	ない	170	159	20	84%
全体	ある		13%		
	ない		86%		



## ウィンタースポーツアンケート集計「中学校」(スキー・スノボ)

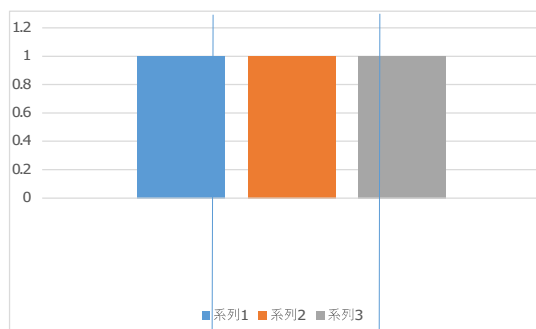
対象：全生徒(1,373名)

方法：学習者用端末を用いたLogoフォームによるアンケート調査

回答人数：1,030名【回答率：75.0%】(男性：515名、女性：481名、答えたくない：34名)

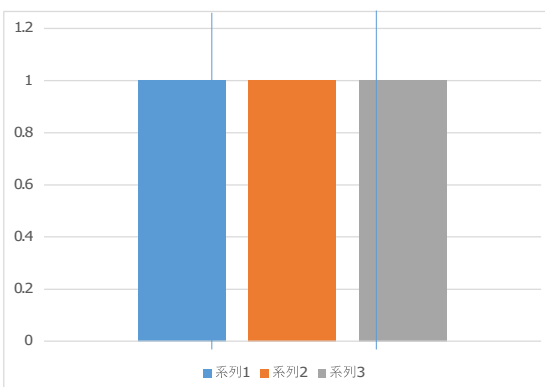
### ①スキーをするのは好きですか

		男性	女性	こたえたくない	
1年	好き	95	71	2	49%
	嫌い	15	16	1	9%
	どちらでもない	70	71	5	42%
2年	好き	73	57	4	42%
	嫌い	21	26	8	17%
	どちらでもない	67	56	4	40%
3年	好き	86	63	1	41%
	嫌い	9	21	4	9%
	どちらでもない	77	97	5	49%
全体	好き	44%			
	嫌い	12%			
	どちらでもない	44%			



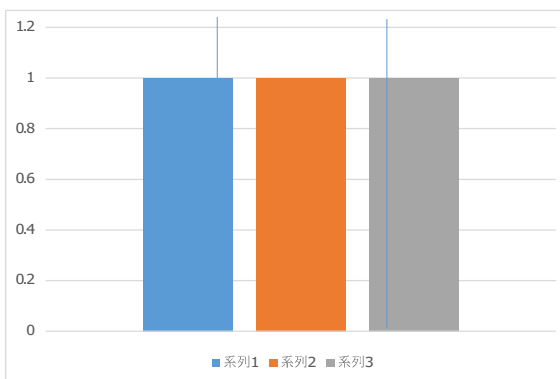
### ②スキーをしたいと思いますか

		男性	女性	こたえたくない	
1年	したい	113	89	2	59%
	あまりしたくない	27	31	1	17%
	どちらでもない	39	37	5	23%
2年	したい	76	63	4	45%
	あまりしたくない	41	39	9	28%
	どちらでもない	45	38	3	27%
3年	したい	98	86	2	51%
	あまりしたくない	27	38	5	19%
	どちらでもない	46	58	3	29%
全体	したい	52%			
	あまりしたくない	21%			
	どちらでもない	27%			



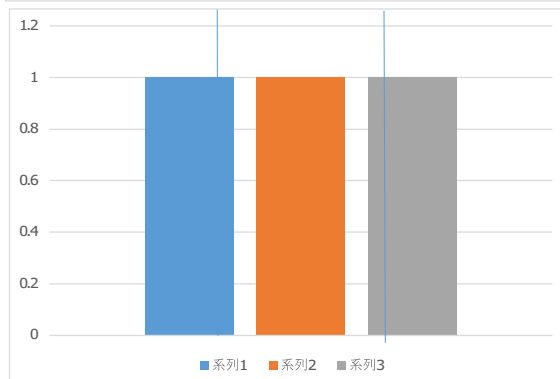
### ③学校の授業以外でもスキーをしていますか(1シーズンの回数)

		男性	女性	こたえたくない	
1年	6回以上	22	9	2	10%
	1~5回	56	42	2	29%
	0回	100	107	4	62%
2年	6回以上	12	4	3	6%
	1~5回	49	43	1	30%
	0回	98	93	12	65%
3年	6回以上	11	11	1	6%
	1~5回	58	49	0	30%
	0回	101	122	9	64%
全体	6回以上	7%			
	1~5回	30%			
	0回	64%			



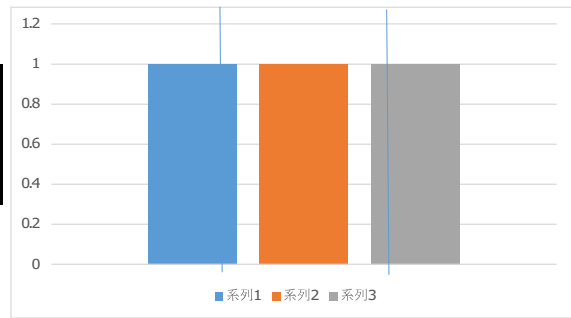
### ④小学校、中学校を卒業した後もスキーをしたいと思いますか

		男性	女性	こたえたくない	
1年	したい	87	72	3	47%
	あまりしたくない	38	41	1	23%
	どちらでもない	54	44	4	29%
2年	したい	72	42	4	37%
	あまりしたくない	44	53	8	33%
	どちらでもない	45	44	4	29%
3年	したい	86	76	3	45%
	あまりしたくない	41	52	5	27%
	どちらでもない	44	54	2	27%
全体	したい	43%			
	あまりしたくない	27%			
	どちらでもない	29%			



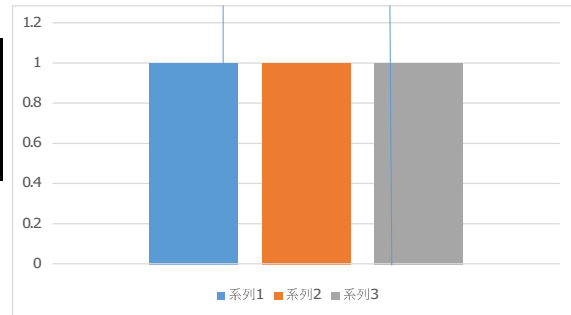
⑤自分のスキー道具を持っていますか

		男性	女性	こたえたくない		
1年	持っている	31	19	3	15%	
	持っていない	148	138	5	84%	
2年	持っている	31	20	1	16%	
	持っていない	131	120	15	83%	
3年	持っている	35	35	0	19%	
	持っていない	135	147	10	80%	
全体	持っている				17%	
	持っていない				82%	



⑥スノーボードをしたことがありますか

		男性	女性	こたえたくない		
1年	ある	30	25	0	16%	
	ない	149	133	8	83%	
2年	ある	36	28	5	22%	
	ない	126	112	11	78%	
3年	ある	52	47	1	27%	
	ない	120	135	9	73%	
全体	ある				22%	
	ない				78%	



## 公共施設のあり方に関するアンケート(スケートセンター関連抜粋)

# 第1章 調査実施概要

## 1. 調査の目的

茅野市は、昭和 50 年代から平成初期にかけて市民サービスの向上と都市機能の充実のため多くの公共施設を整備した。これらの施設においては、老朽化が進むとともに、急激な人口減少と少子高齢化を背景に、住民ニーズの変化等により活用されていないものや、管理運営面でさらに工夫が必要なものなどもあり、多くの課題がある。本調査は、公共施設に対する市民の意識や利用状況を聞き取り、今後の方向性や公共施設の再編を検討するにあたっての基礎資料とすることを目的に実施する。

## 2. 調査方法

アンケート用紙を該当者に送付し、同封の返信用封筒による返送または二次元コードからのWEBフォームで回答を得た。アンケートはプライバシー保護のため無記名とした。

## 3. 調査対象

- 対象者:無作為抽出による 18 歳以上の一般市民 3,000 人
- 実施期間:令和6年6月 19 日(水)~7月 10 日(水)

## 4. 回収結果

- アンケート配布数:3,000 通
- 回収数:1,013 件(郵送:719 件/WEB294 件)
- 回収率:33.8%

## 5. 調査結果を見る際の留意点

- 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合や、文中に示す数値とグラフの数値が一致しない場合がある。
- 図表内の n は該当する設問の回答者数を表す。無回答を除いて集計しているため、設問ごとに回答者数が異なる。
- 1人の回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答の設問では、回答数の合計を回答者数(n)で割った比率を示しており、比率の合計は 100%を超える。

## 第2章 回答結果

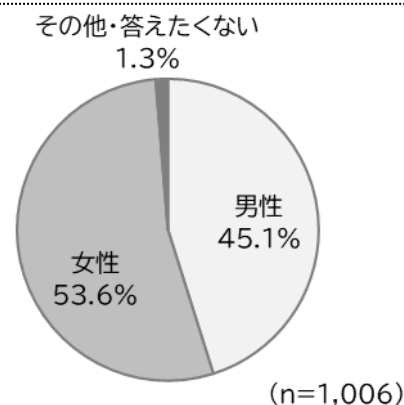
### 1. 回答者の属性

#### (1) 性別／年代／職業／世帯構成

- ・性別は「男性」が45.1%「女性」が53.6%となっている。
- ・年代は「60歳代」と「70歳代以上」で48.3%と回答者の約半数になっている。

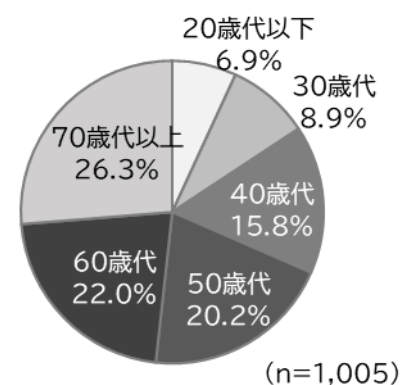
##### ① 性別 【問1】

	度数(人)	割合(%)
男性	454	45.1
女性	539	53.6
その他・答えたくない	13	1.3
合計	1,006	100



##### ② 年齢 【問2】

	度数(人)	割合(%)
20歳代以下	69	6.9
30歳代	89	8.9
40歳代	159	15.8
50歳代	203	20.2
60歳代	221	22.0
70歳代以上	264	26.3
合計	1,005	100.0



(参考)茅野市の18歳以上の人口比率

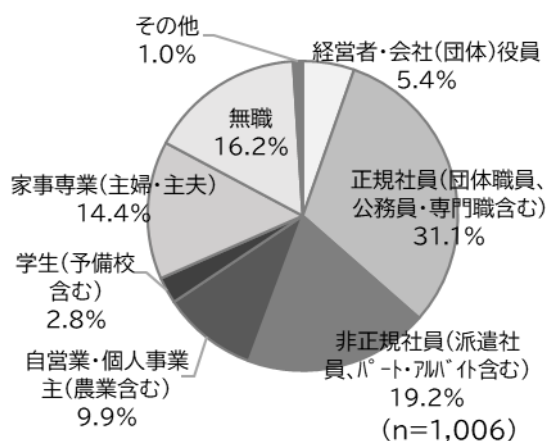
(令和6年4月1日現在、住民基本台帳台帳に基づく人口)

	総数(人)	割合(%)
20歳以下(18歳以上)	5,917	14.4
30歳代	4,957	11.4
40歳代	7,250	16.2
50歳代	8,034	17.5
60歳代	6,388	13.9
70歳代以上	13,890	26.6
合計	46,436	100.0

- ・職業は「正規社員」の割合が最も高く31.1%、次いで「非正規社員」19.2%、となっている。また、「無職」16.2%、「家事専業」14.4%を合わせると30.6%となっている一方で、「学生」は2.8%と低くなっている。
- ・世帯構成は、最も多いのが「二世帯同居」で44.6%、次いで「夫婦のみ」が34.8%となっている。また「単身世帯」が10.9%、「三世帯同居」は8.3%となっている。
- ・居住地区は「宮川地区」が20.1%と多く、次いで「玉川地区」が19.7%、「ちの地区」が16.6%となっており、この3地区で全回答者の56.4%を占めている。
- ・居住年数は「20年以上」が69.8%と高くなっている。

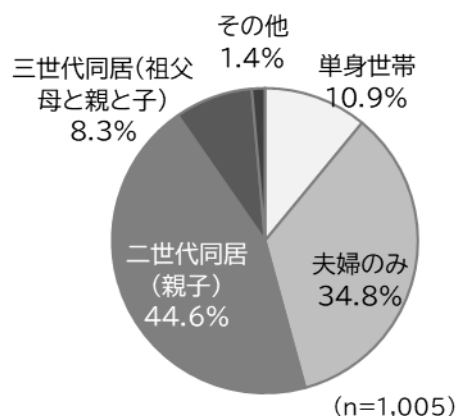
### ③ 職業 【問3】

	度数(人)	割合(%)
経営者・会社(団体)役員	54	5.4
正規社員(団体職員、公務員・専門職含む)	313	31.1
非正規社員(派遣社員、パート・アルバイト含む)	193	19.2
自営業・個人事業主(農業含む)	100	9.9
学生(予備校含む)	28	2.8
家事専業(主婦・主夫)	145	14.4
無職	163	16.2
その他	10	1.0
合計	1,006	100.0



### ④ 世帯構成 【問4】

	度数(人)	割合(%)
単身世帯	110	10.9
夫婦のみ	350	34.8
二世帯同居(親子)	448	44.6
三世帯同居(祖父母と親と子)	83	8.3
その他	14	1.4
合計	1,005	100.0

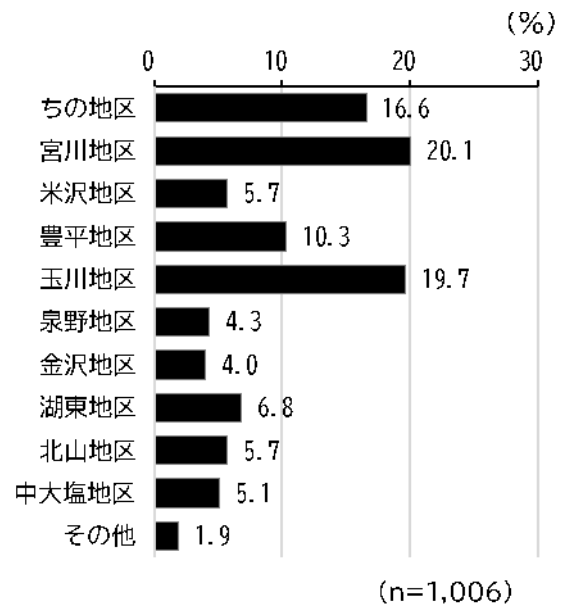




(2) 居住地区・年数

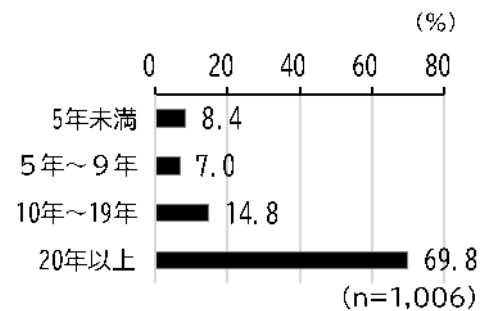
① 居住地区【問 5】

	度数(人)	割合(%)
ちの地区	167	16.6
宮川地区	202	20.1
米沢地区	57	5.7
豊平地区	104	10.3
玉川地区	198	19.7
泉野地区	43	4.3
金沢地区	40	4.0
湖東地区	68	6.8
北山地区	57	5.7
中大塩地区	51	5.1
その他	19	1.9
合計	1,006	100.0



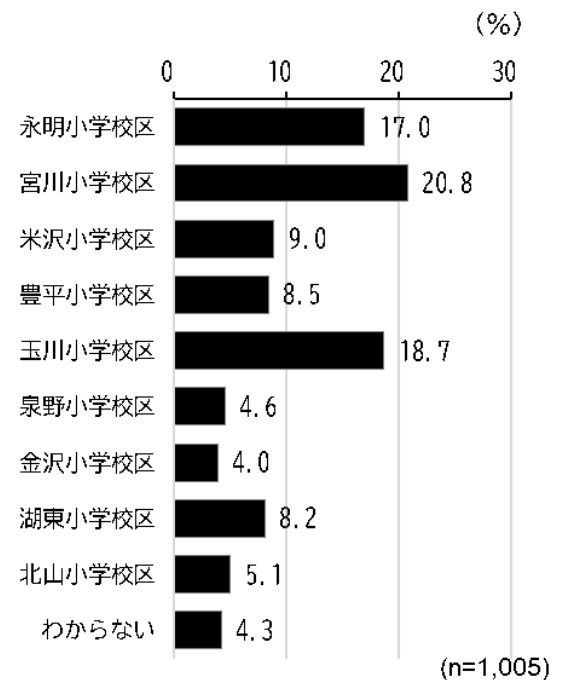
② 居住期間【問 7】

	度数(人)	割合(%)
5年未満	85	8.4
5年～9年	70	7.0
10年～19年	149	14.8
20年以上	702	69.8
合計	1,006	100.0



③ 小学校区【問 6】

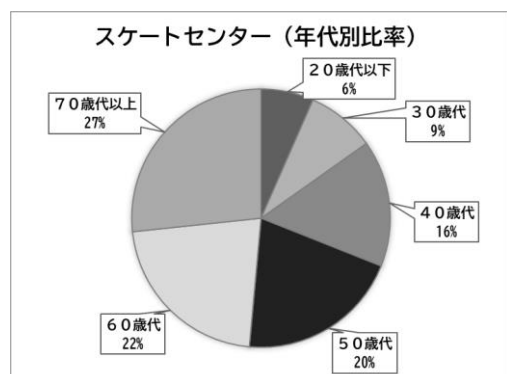
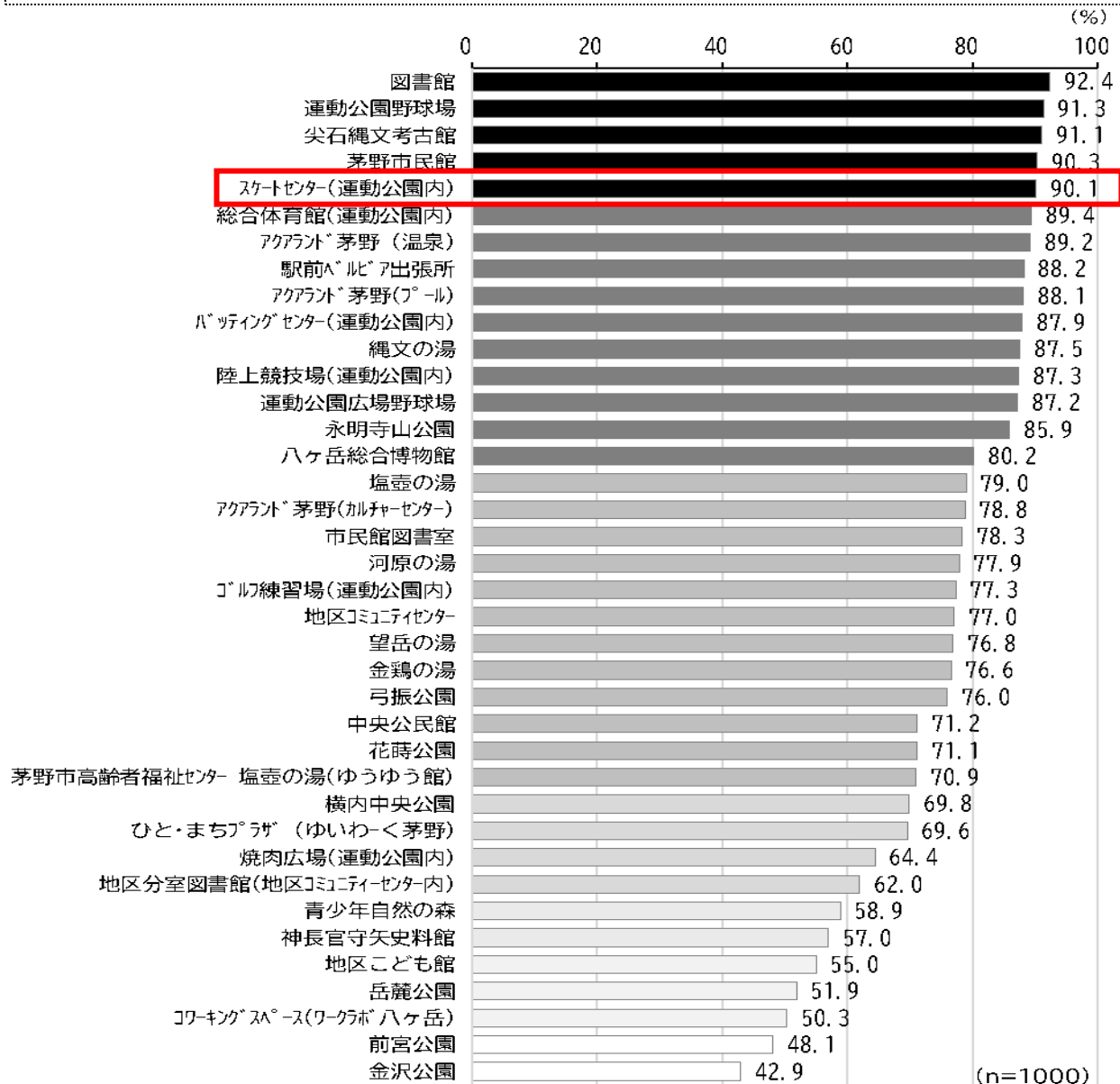
項目	度数(人)	割合(%)
永明小学校区	171	17.0
宮川小学校区	209	20.8
米沢小学校区	90	9.0
豊平小学校区	85	8.5
玉川小学校区	188	18.7
泉野小学校区	46	4.6
金沢小学校区	40	4.0
湖東小学校区	82	8.2
北山小学校区	51	5.1
わからない	43	4.3
合計	1,005	100.0



## 2. 回答者個人の公共施設の利用状況について

### (1) 各公共施設の認知度（複数回答）【問 8】

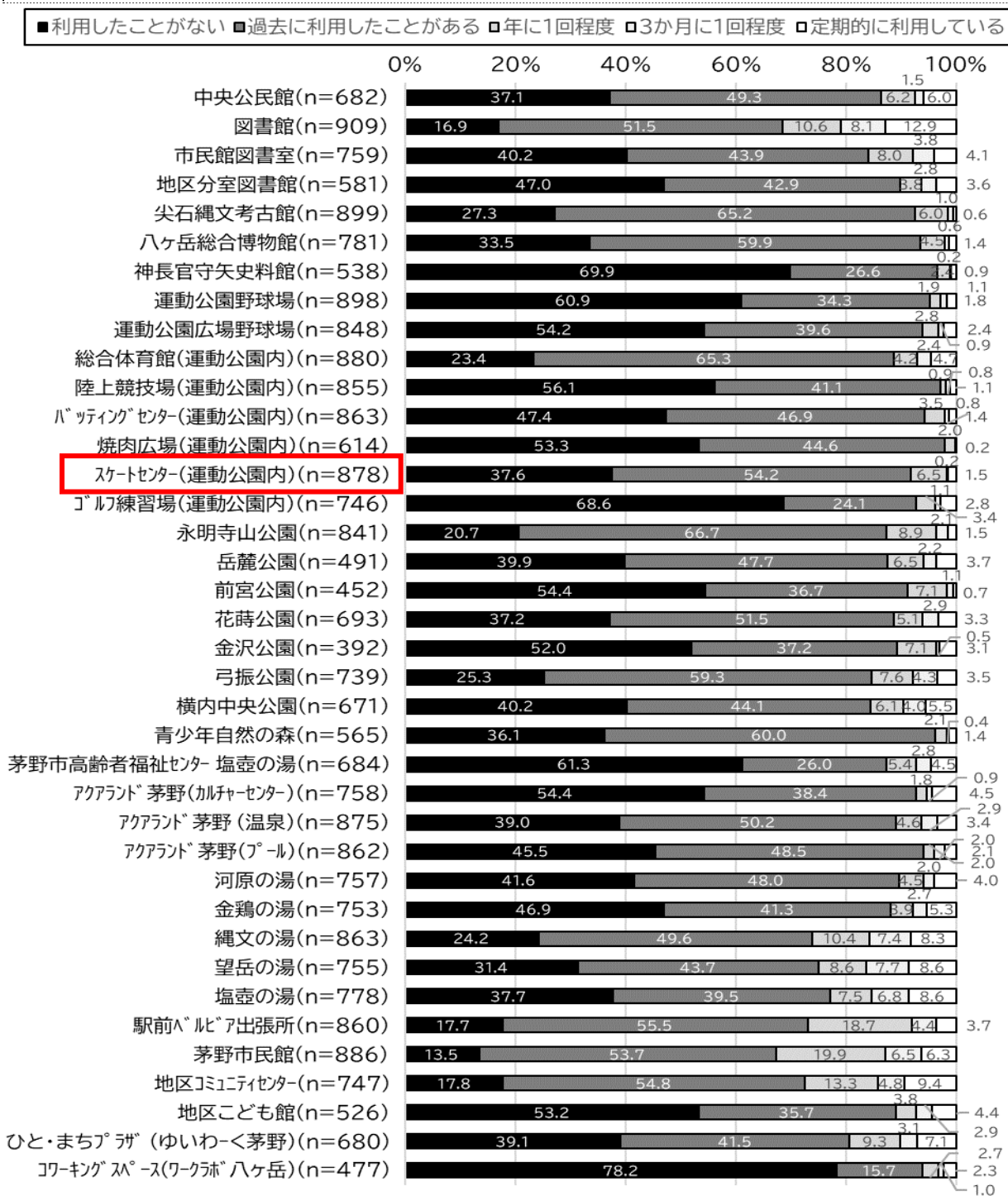
- ・ 認知度が90%を超えたのは「図書館」「運動公園野球場」「尖石縄文考古館」「茅野市民館」「スケートセンター」の5カ所となっている。ほとんどの施設を半数以上の方が認知しており、50%に満たなかったのは「前宮公園」「金沢公園」の2カ所となっている。
- ・ スケートセンターの認知度は90.1%で全体の5番目となっている。



① 各公共施設の利用頻度【問9】

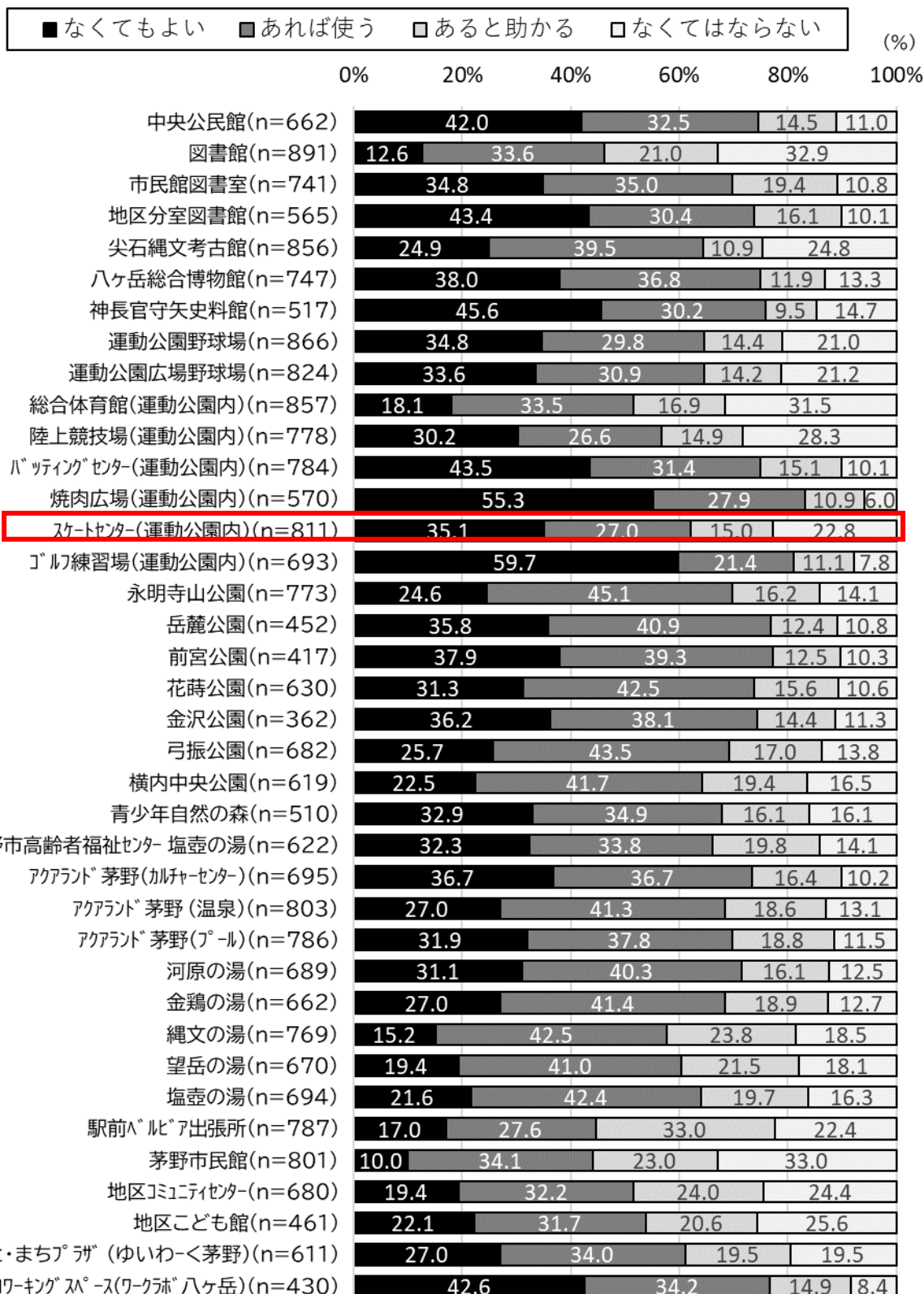
・回答で一番多かったのは「利用したことがない」は「コワーキングスペース」で78.2%、「年に1回程度」は「茅野市民館」で53.7%、「3か月に1回程度」は「図書館」で8.1%、「定期的にご利用している」も図書館で12.9%となっている。

・スケートセンターは、「利用したことがない」は37.6%、「過去に利用したことがある」は54.2%、年に1回以上利用している人の割合は8.2%となっている。他の運動公園内の施設と比べると「過去に利用したことがある」の割合は総合体育館に次いで2番目となっている。



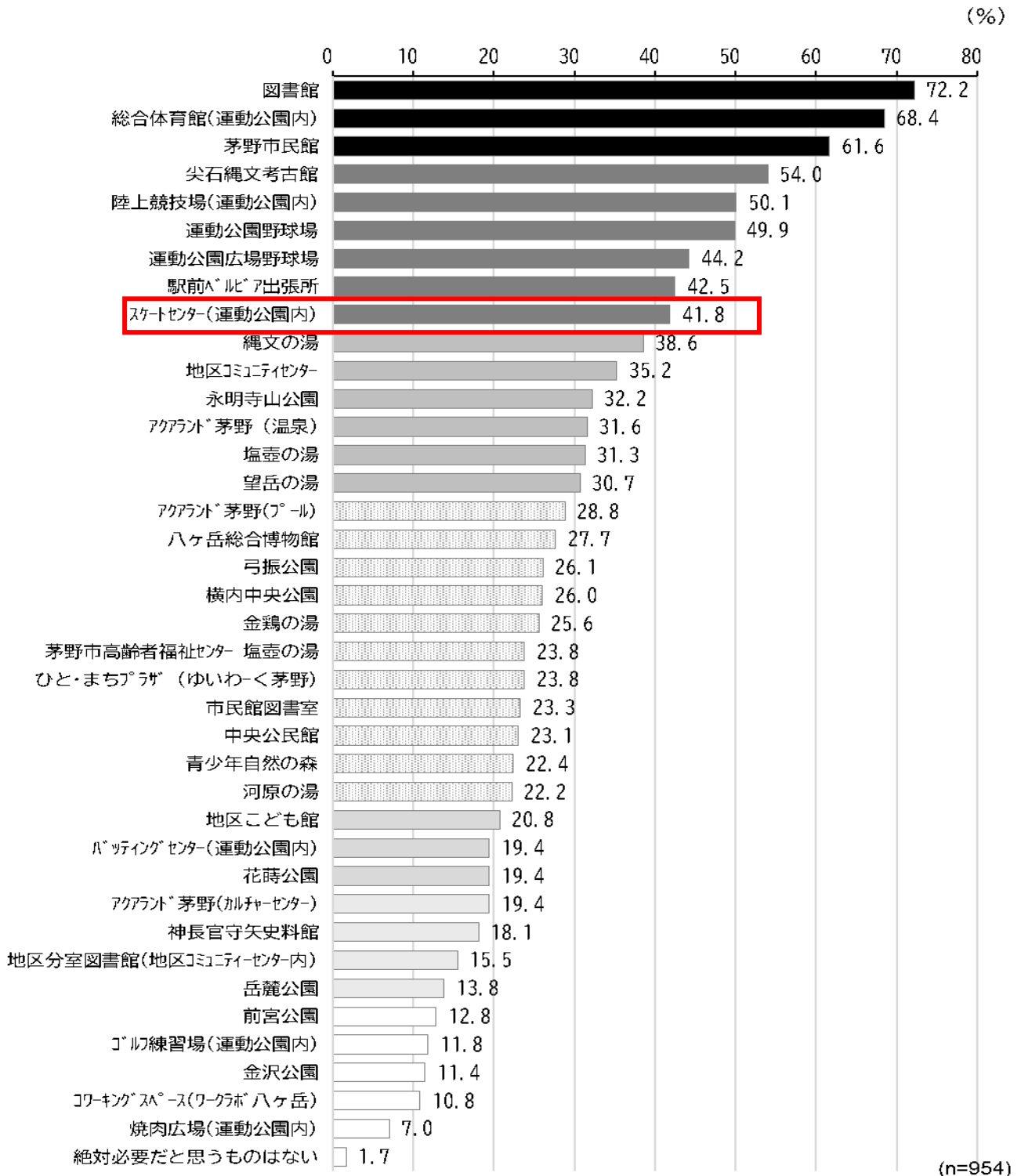
(2) 各公共施設の日常生活における必要度【問 10】

- ・「なくてもよい」とした 50%以上の回答は「ゴルフ練習場」59.7%と「焼肉広場」55.3%となっている。一方「なくてはならない」と回答したのは、33.0%が最大で「茅野市民館」次いで「図書館」32.9%、「総合体育館」31.5%となっている。
- ・スケートセンターは「なくてもよい」が 35.1%で全体の 13 番目、「なくてはならない」は 22.8%で全体の 8 番目となっている。



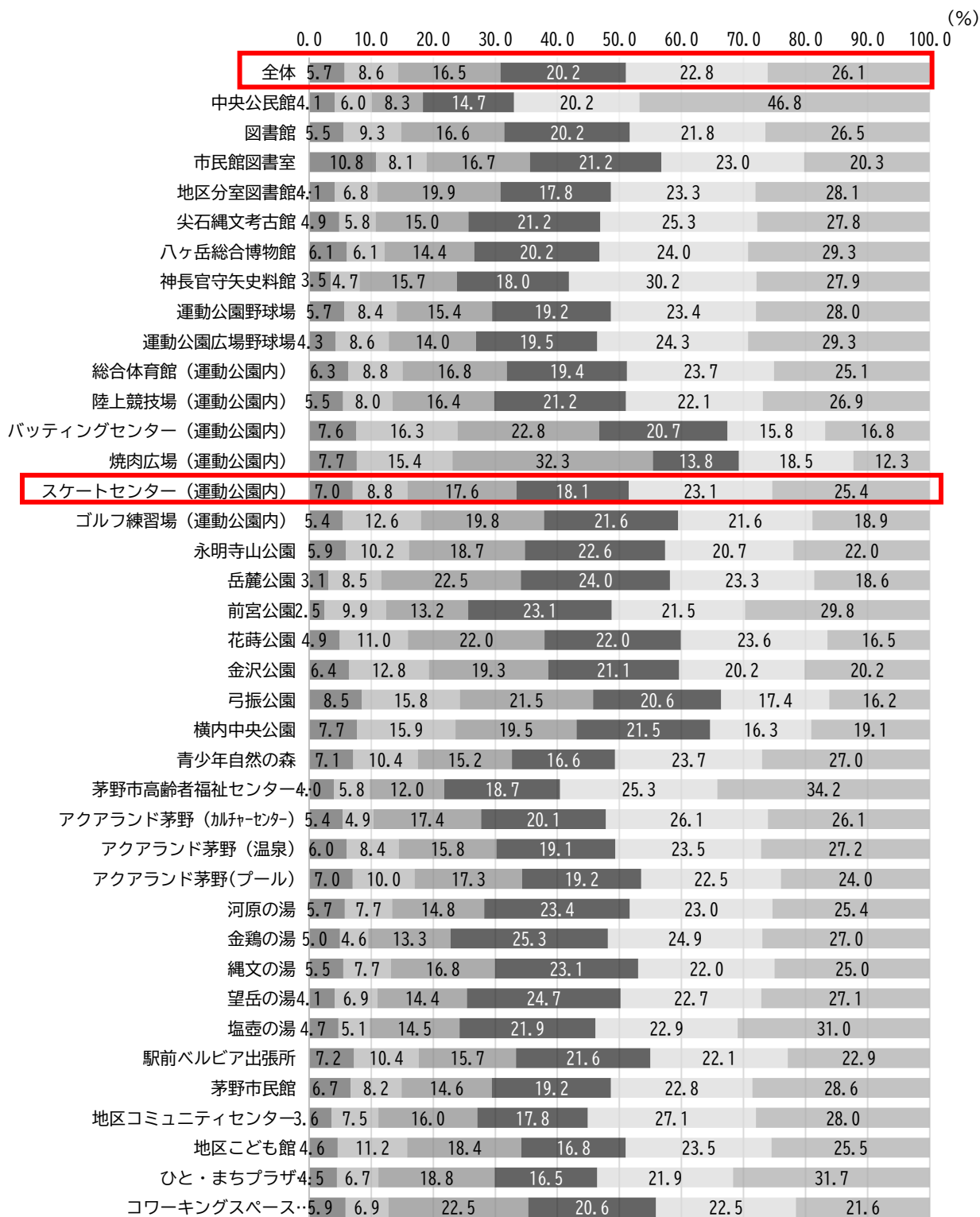
(3) 茅野市にとって絶対必要だと思う公共施設【問11】(複数回答)

- ・60%以上の者が必要と回答した施設は「図書館」72.2%、次いで「総合体育館」68.4%、「茅野市民館」61.6%となっており、50%未満の施設は、38施設中33施設となっている。
- ・スケートセンターは、41.8%(399人)で全体の9番目となっている。運動公園内の施設の中では上位に総合体育館、陸上競技場、野球場、広場野球場に次ぐ順番となっている。



(3)-1 茅野市にとって絶対に必要だと思う公共施設(年代別比率)

・スケートセンターの値を全体の比率と比較すると、20歳代以下～40歳代、60歳代は全体より高く、50歳代、70歳以上は全体より低い数値となっている。

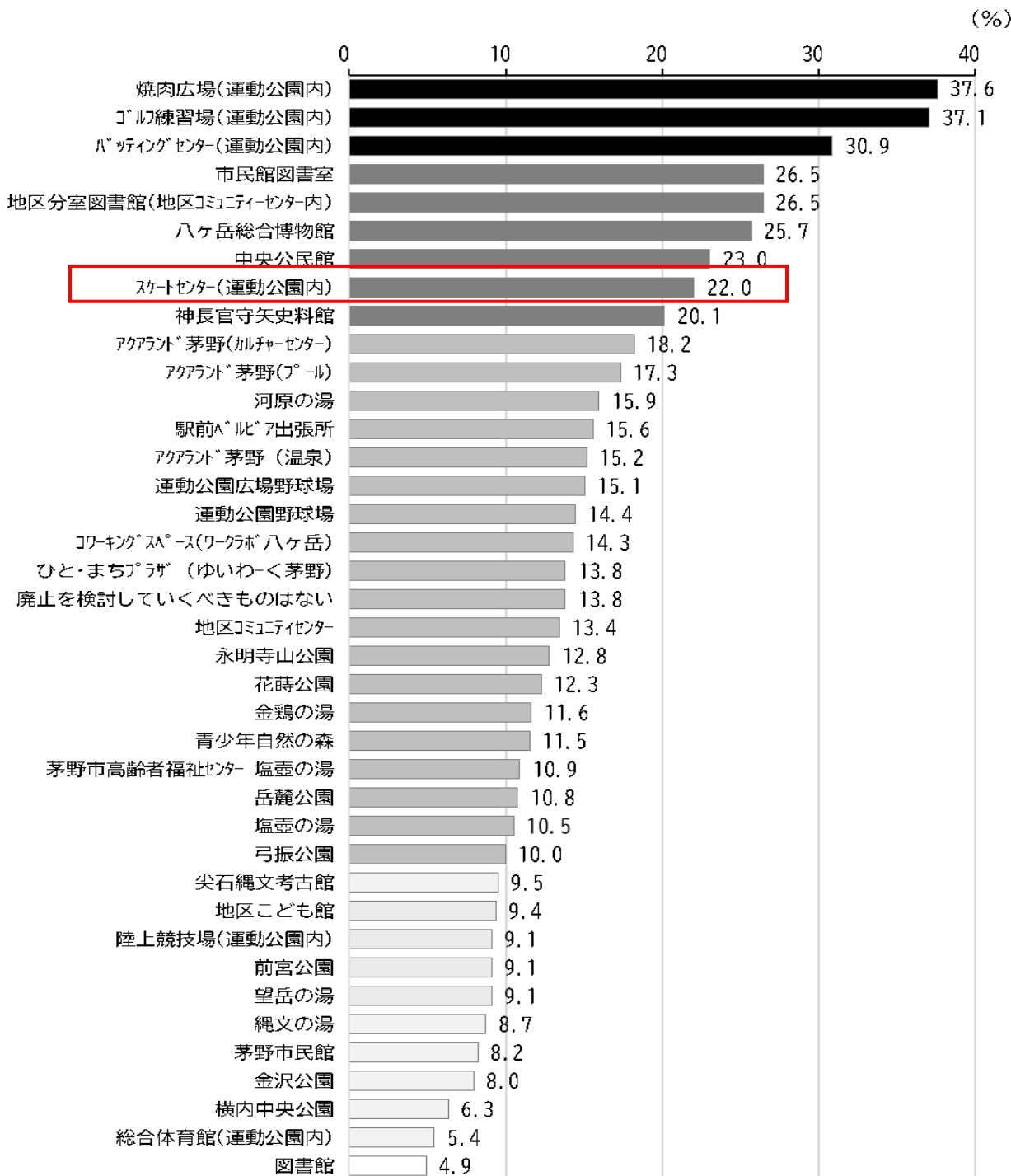


■ 20歳代以下 ■ 30歳代 ■ 40歳代 ■ 50歳代 ■ 60歳代 ■ 70歳代以上



(4) 今後廃止を検討していくべきだと思う公共施設 【問 12】(複数回答)

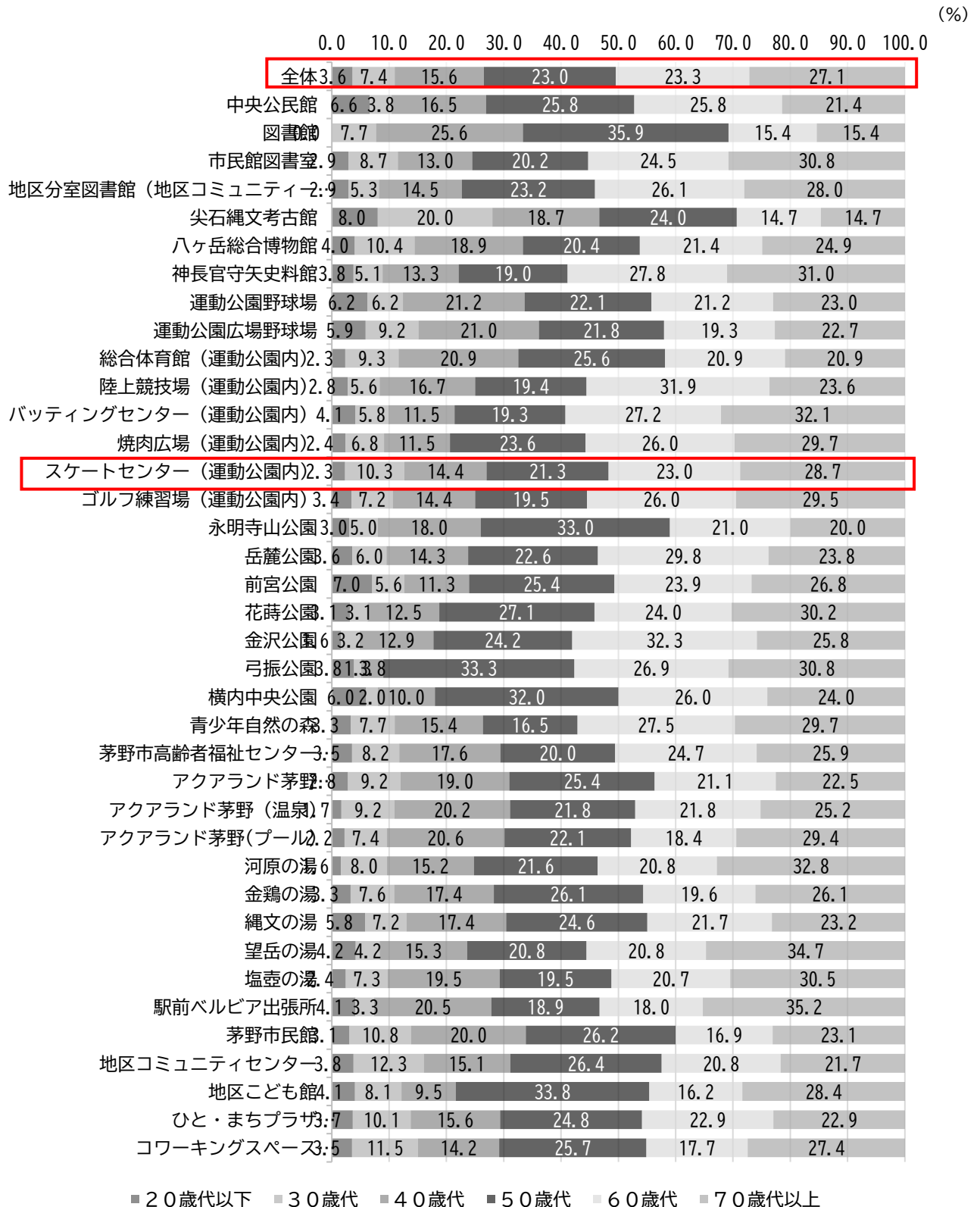
- ・ 30%以上の者が廃止を検討すべきとした施設は「焼肉広場」37.6%、次いで「ゴルフ練習場」37.1%、「バッティングセンター」30.9%となっている。
- ・ スケートセンターは22.0%(174人)と全体の8番目となっている。運動公園内の施設では、焼肉広場、ゴルフ練習場、バッティングセンターがスケートセンターよりも上位に来ている。



(n=790)

(4)-1 今後廃止を検討していくべきだと思う公共施設(年代別比率)

・スケートセンターの値を全体の比率と比較すると、30歳代、70歳代以上は高くなっておりそれ以外は低い比率となっている。



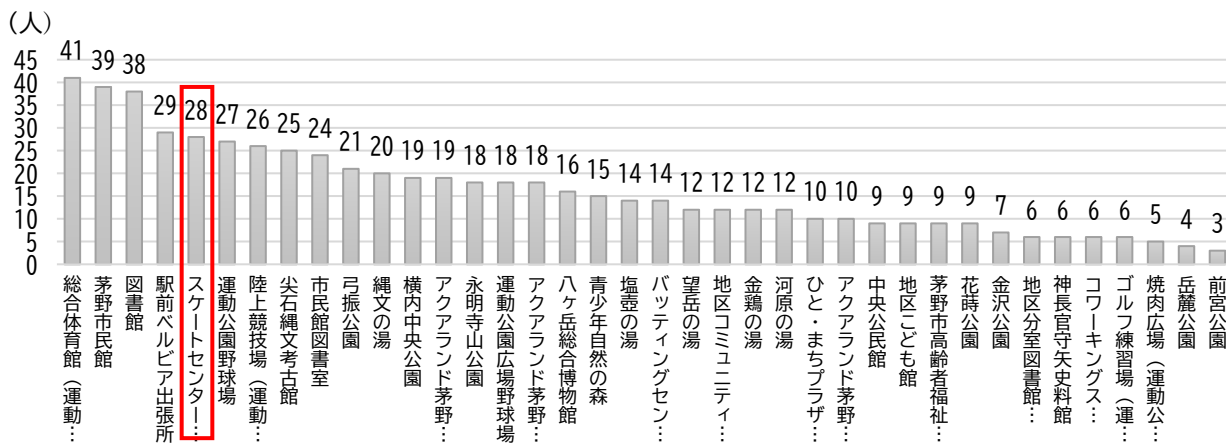


(5) 絶対必要および廃止を検討していくべきだと思う年代別の人数

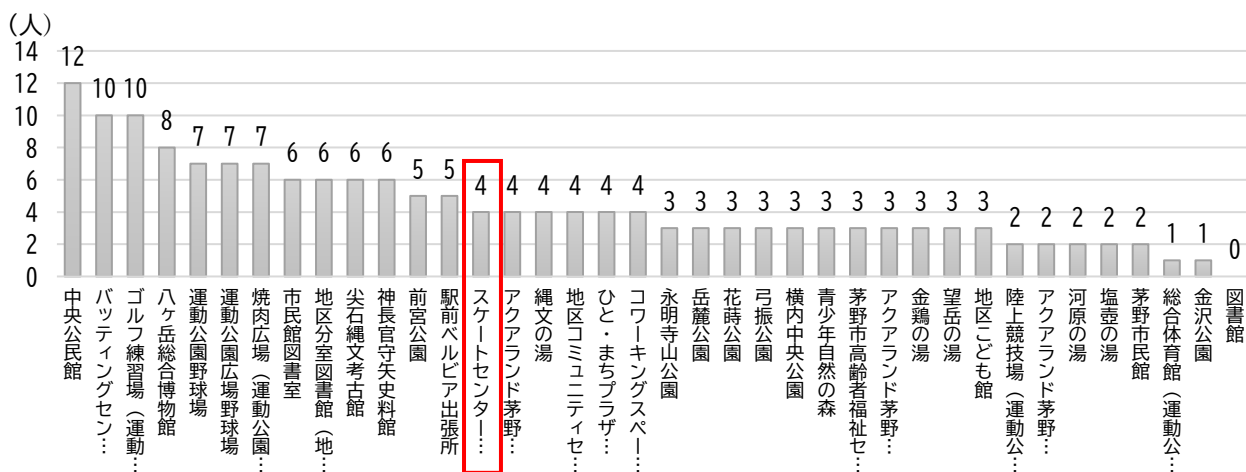
・スケートセンター(絶対必要：399人、廃止検討：174人)

① 20歳代以下(全体の回答数69人)

【絶対必要】

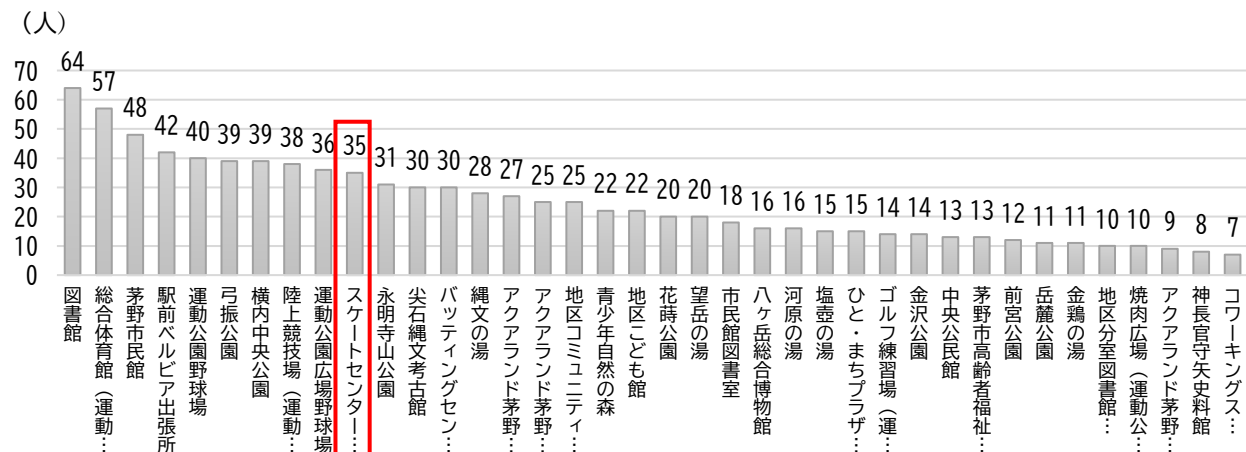


【廃止を検討するべき】

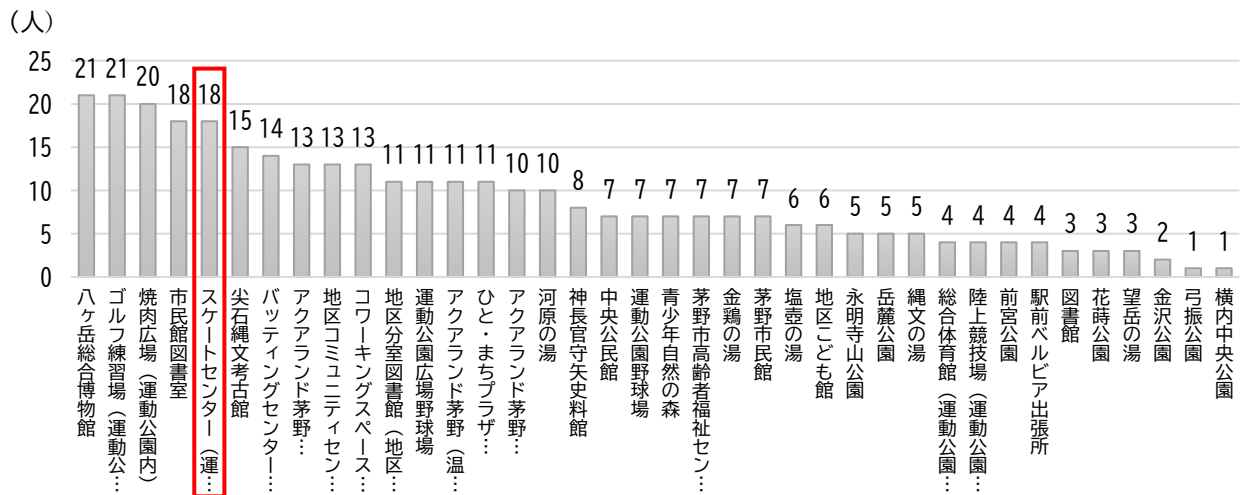


② 30歳代(全体の回答数89人)

【絶対必要】

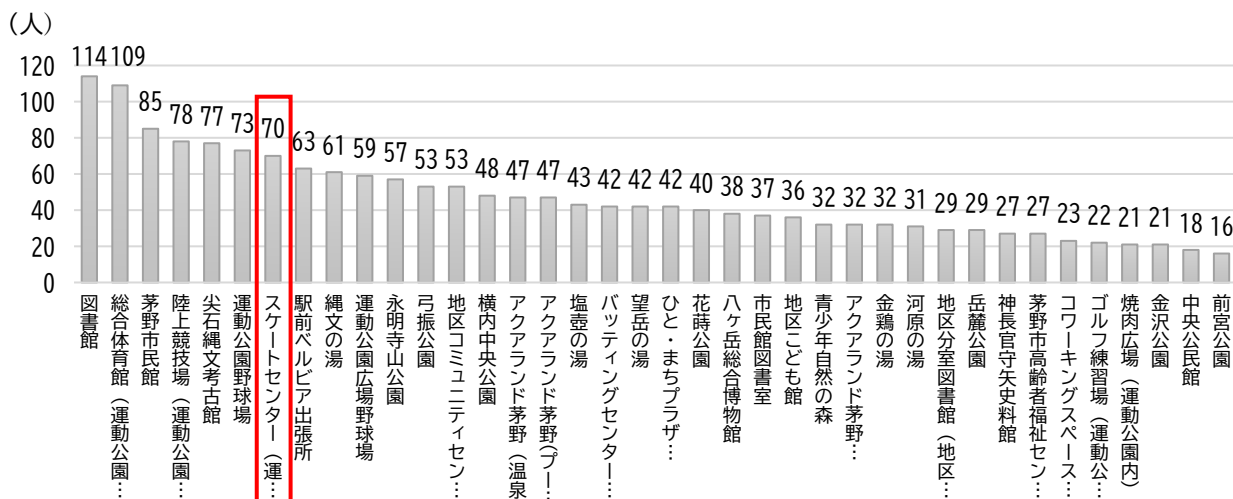


【廃止を検討すべき】

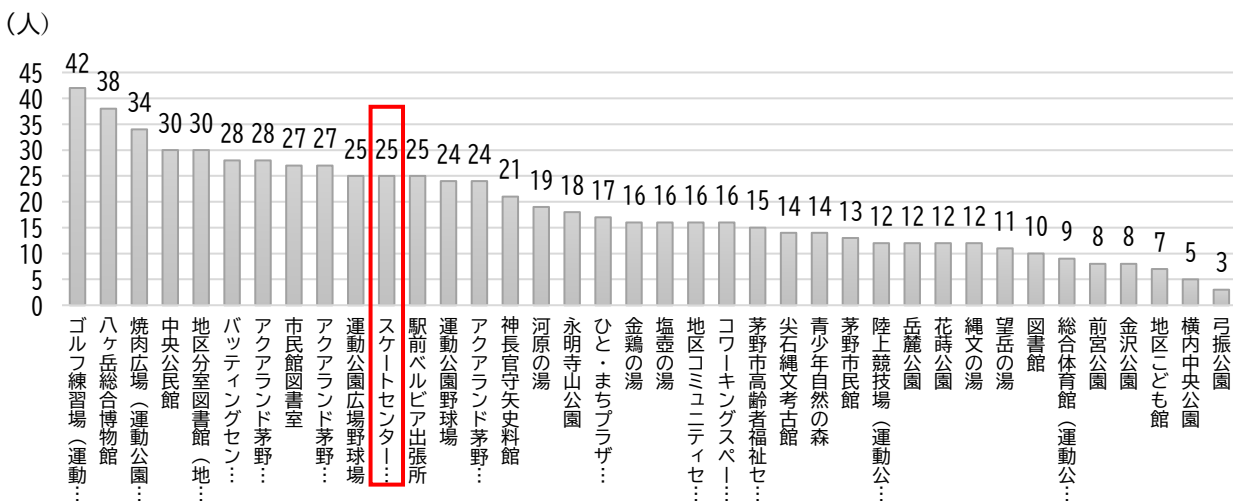


③ 40歳代(全体の回答数 159人)

【絶対必要】



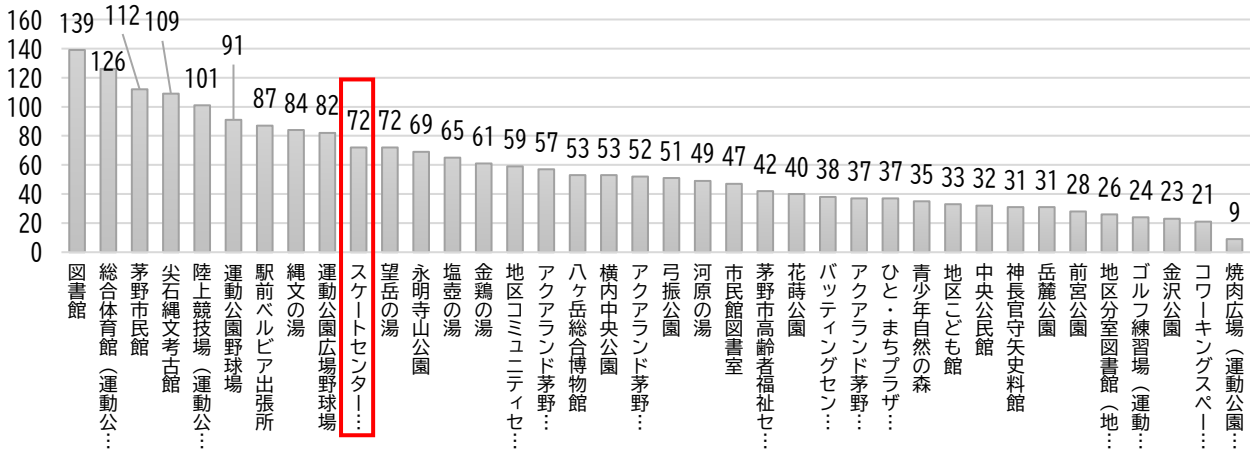
【廃止を検討すべき】



④50 歳代（全体の回答数 203 人）

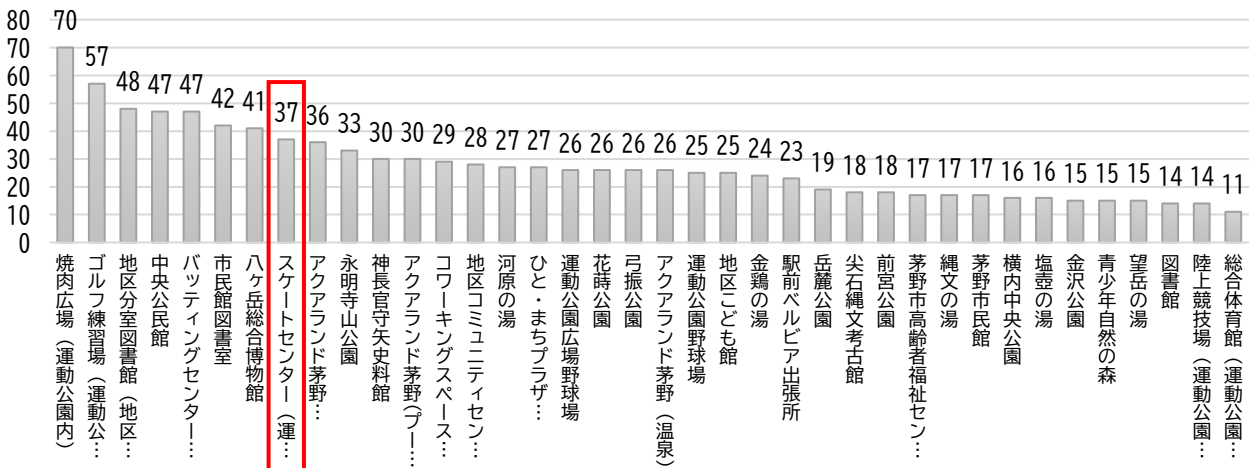
【絶対必要】

(人)



【廃止を検討すべき】

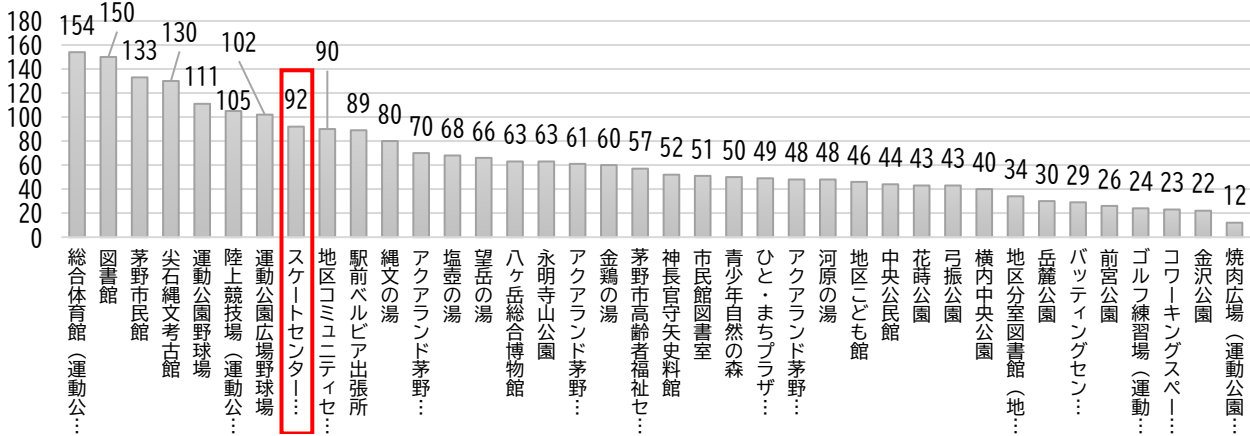
(人)



⑤60 歳代（全体の回答数 221 人）

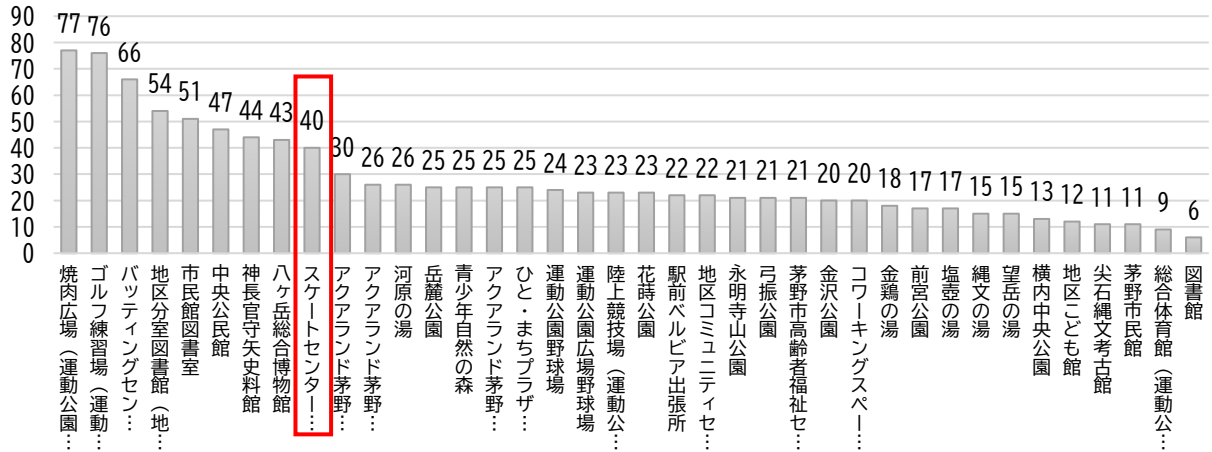
【絶対必要】

(人)



【廃止を検討すべき】

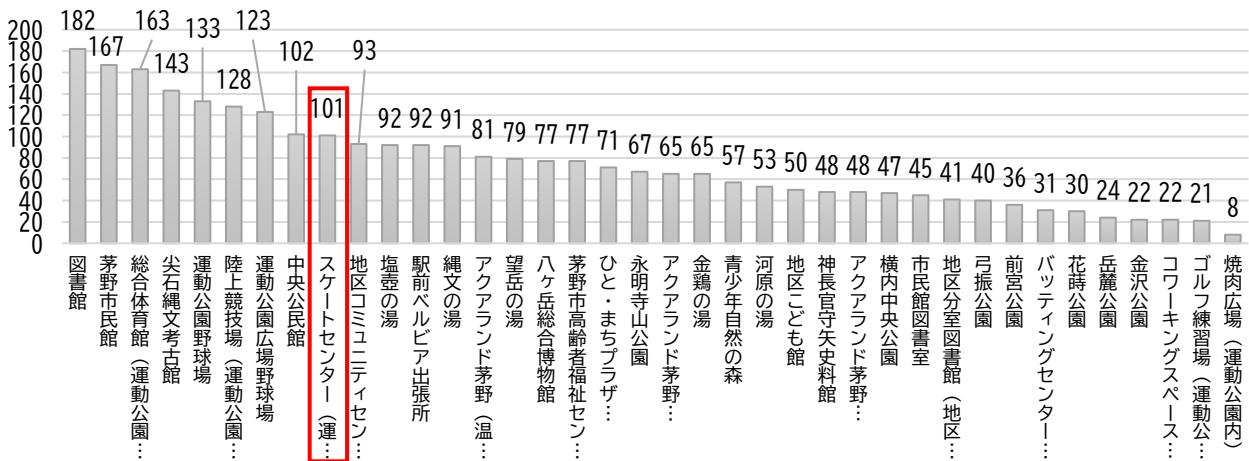
(人)



⑥70歳代以上(全体の回答数 264人)

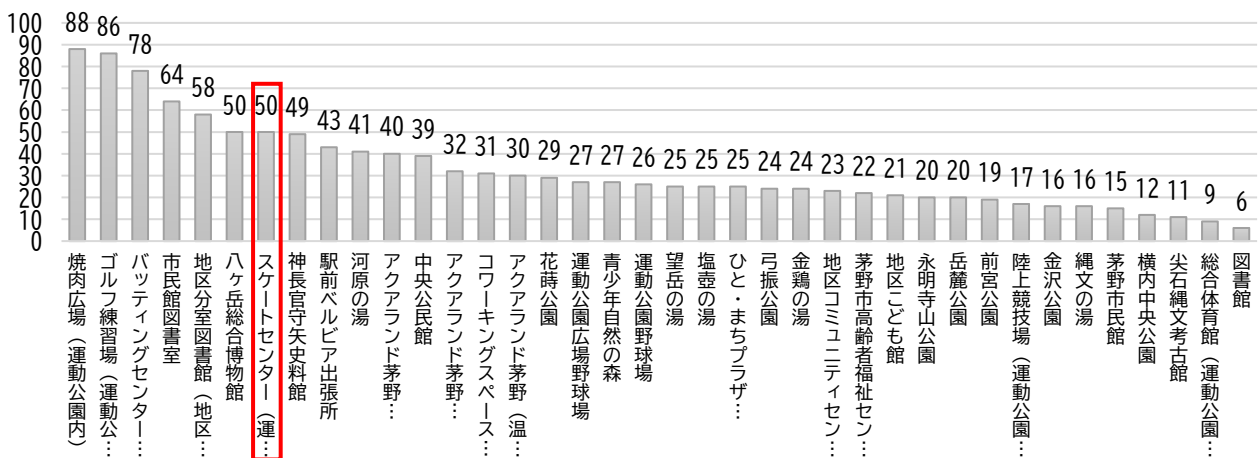
【絶対必要】

(人)



【廃止を検討すべき】

(人)



(6)絶対必要および廃止を検討していくべきだと思う人数(利用頻度別)

未利用・低利用層(利用したことがない・過去に利用したことがある)

未利用・低利用層	中央公民館	図書館	市民館図書室	地区分室図書館(地区コミュニティセンター内)	尖石縄文考古館	八ヶ岳総合博物館	神長官守矢史料館	運動公園野球場	運動公園広場野球場	総合体育館(運動公園内)	陸上競技場(運動公園内)	バッティングセンター(運動公園内)	焼肉広場(運動公園内)	スケートセンター(運動公園内)	ゴルフ練習場(運動公園内)	永明寺山公園	岳麓公園	前宮公園	花蒔公園	金沢公園	弓振公園	横内中央公園	青少年自然の森	茅野市高齢者福祉センター(カルチャーセンター)	アキラランド茅野(温泉)	アキラランド茅野(プール)	河原の湯	金鶏の湯	縄文の湯	望岳の湯	塩壺の湯	駅前ベルビア出張所	茅野市民館	地区コミュニティセンター	地区こども館	ひと・まちプラザ(ゆいわーく茅野)	コワーキングスペース(ワークラボハケ岳)	
全体	589	622	638	522	831	730	519	855	796	781	831	814	601	806	692	735	430	412	615	350	625	566	543	597	703	780	810	678	664	637	567	600	629	596	542	468	548	448
絶対必要	151	419	156	106	458	229	151	432	366	554	452	157	60	340	79	232	88	96	140	80	173	169	197	169	149	241	238	156	181	219	158	174	226	355	193	152	144	83
廃止を検討	160	35	186	180	72	188	142	108	111	40	70	237	278	166	277	93	76	61	90	52	70	45	84	78	131	113	131	114	87	66	68	77	102	54	87	69	95	92

利用・高利用層(年に1回程度・3ヶ月に1回程度・定期的にご利用している)

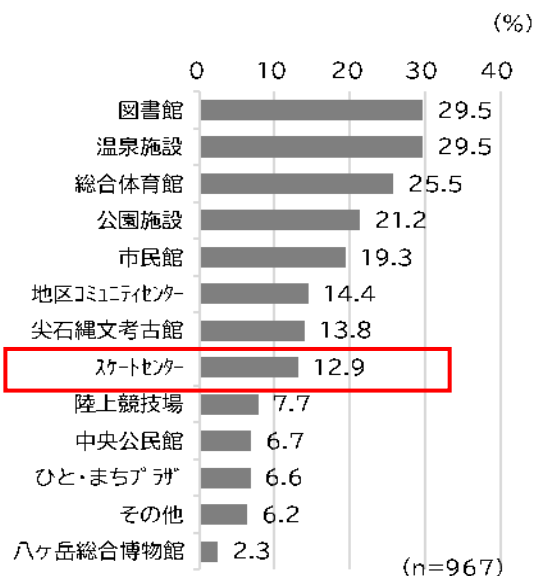
利用・高利用層	中央公民館	図書館	市民館図書室	地区分室図書館(地区コミュニティセンター内)	尖石縄文考古館	八ヶ岳総合博物館	神長官守矢史料館	運動公園野球場	運動公園広場野球場	総合体育館(運動公園内)	陸上競技場(運動公園内)	バッティングセンター(運動公園内)	焼肉広場(運動公園内)	スケートセンター(運動公園内)	ゴルフ練習場(運動公園内)	永明寺山公園	岳麓公園	前宮公園	花蒔公園	金沢公園	弓振公園	横内中央公園	青少年自然の森	茅野市高齢者福祉センター(カルチャーセンター)	アキラランド茅野(温泉)	アキラランド茅野(プール)	河原の湯	金鶏の湯	縄文の湯	望岳の湯	塩壺の湯	駅前ベルビア出張所	茅野市民館	地区コミュニティセンター	地区こども館	ひと・まちプラザ(ゆいわーく茅野)	コワーキングスペース(ワークラボハケ岳)	
全体	93	287	121	59	68	51	19	43	52	99	24	49	13	72	54	106	61	40	78	42	114	105	22	87	55	95	52	79	89	226	188	178	231	290	205	58	132	29
絶対必要	61	262	60	32	54	28	17	36	42	89	19	27	7	53	33	71	39	21	42	20	73	74	12	50	33	56	34	54	61	145	131	122	168	224	138	40	82	20
廃止を検討	6	2	15	5	0	7	2	2	3	1	0	3	0	5	1	5	2	4	3	1	2	1	0	3	5	4	2	8	4	3	3	5	16	9	14	0	4	2

### 3. 公共施設のあり方について

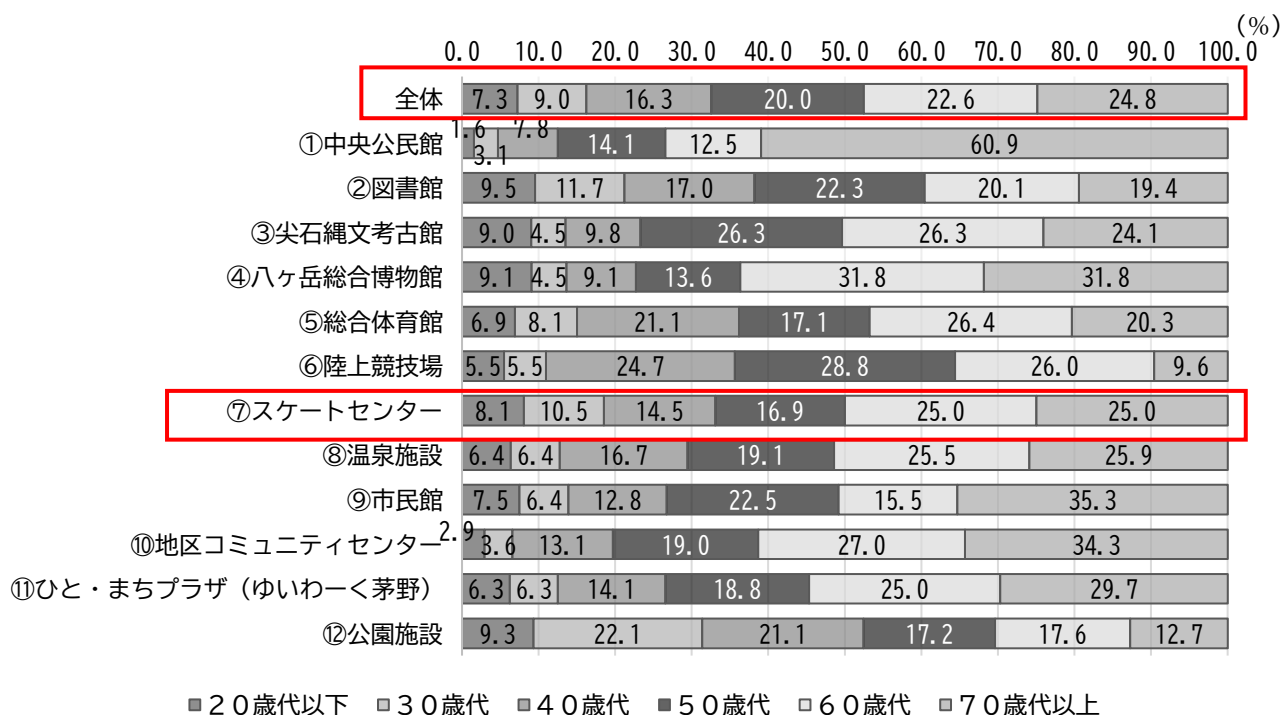
#### (1) 優先的に投資していくべき施設【問 21】(2つ選択)

- ・優先的に投資していくべき施設については「図書館」が 29.5%、「温泉施設」が 29.5% 友とも高く、次いで「総合体育館」が 25.5% となっている。
- ・スケートセンターは、125 人で 12.9%、全体の 8 番目となっている。
- ・年代別比率は全体と比べると 40 歳代、50 歳代が低く、他は全体よりも高くなっている。

	度数(人)	割合(%)
図書館	285	29.5
温泉施設	285	29.5
総合体育館	247	25.5
公園施設	205	21.2
市民館	187	19.3
地区コミュニティセンター	139	14.4
尖石縄文考古館	133	13.8
スケートセンター	125	12.9
陸上競技場	74	7.7
中央公民館	65	6.7
ひと・まちプラザ(ゆいわーく茅野)	64	6.6
その他	60	6.2
八ヶ岳総合博物館	22	2.3
回答者数	967	



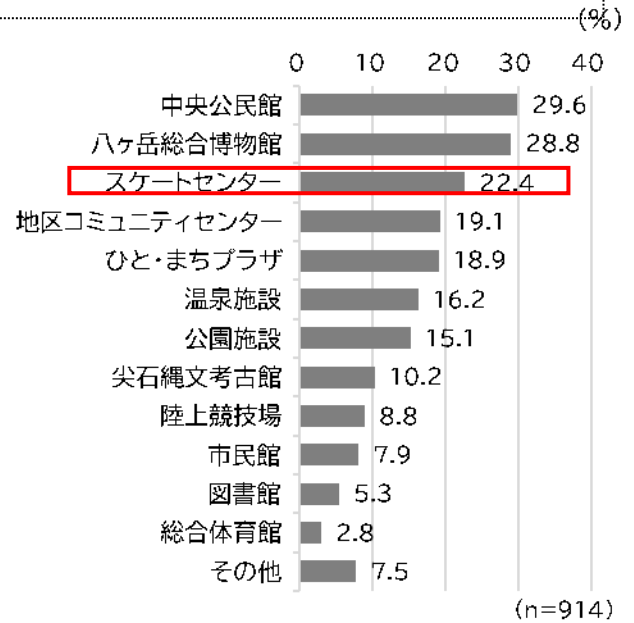
#### (1)-1 優先的に投資していくべき施設(年代別比率)



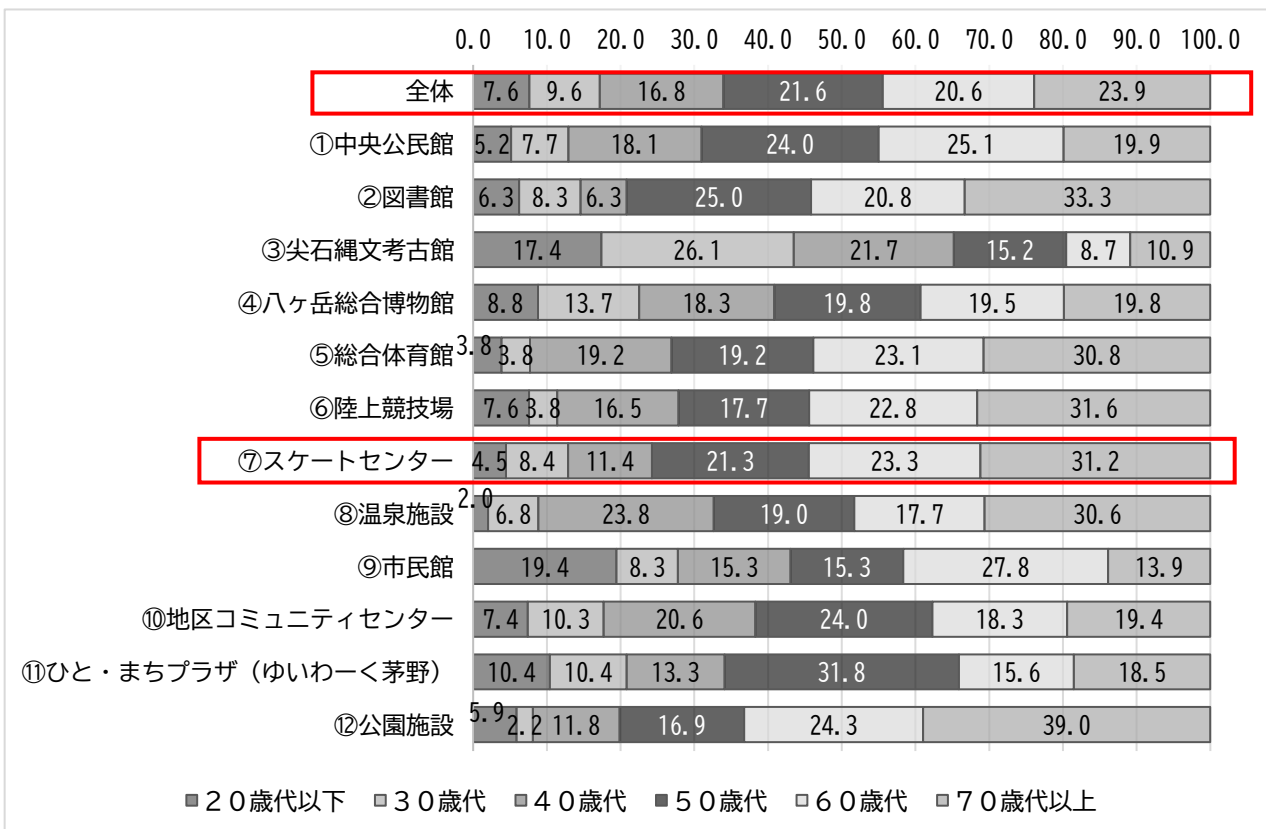
(2)優先的に廃止を進めていくべき施設【問 22】(2つ選択)

- ・優先的に廃止を進めていくべき施設については、「中央公民館」29.6%と最も高く、次いで「ハケ岳総合博物館」28.8%、「スケートセンター」22.4%となっている。
- ・年代別比率は、全体と比べると60歳代、70歳代以上が高くなっている。

	度数(人)	割合(%)
中央公民館	271	29.6
ハケ岳総合博物館	263	28.8
スケートセンター	205	22.4
地区コミュニティセンター	175	19.1
ひと・まちプラザ	173	18.9
温泉施設	148	16.2
公園施設	138	15.1
尖石縄文考古館	93	10.2
陸上競技場	80	8.8
市民館	72	7.9
図書館	48	5.3
総合体育館	26	2.8
その他	69	7.5
回答者数	914	



(2)-1 優先的に廃止を進めていくべき施設(年代別比率)





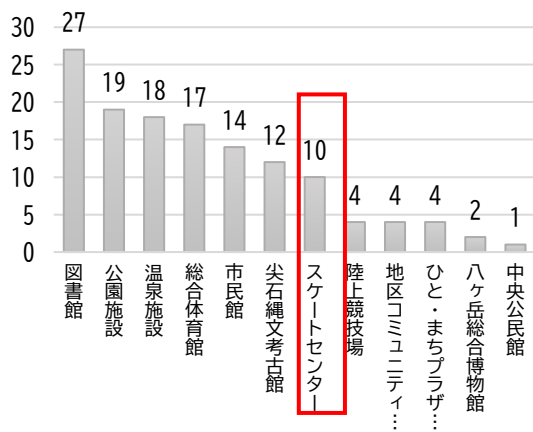
(3)優先的に投資していくべき施設および優先的に廃止を進めるべき施設の年代別の人数

・スケートセンター(優先投資：125人、優先廃止：205人)

①20歳代以下(全体の69人回答者数)

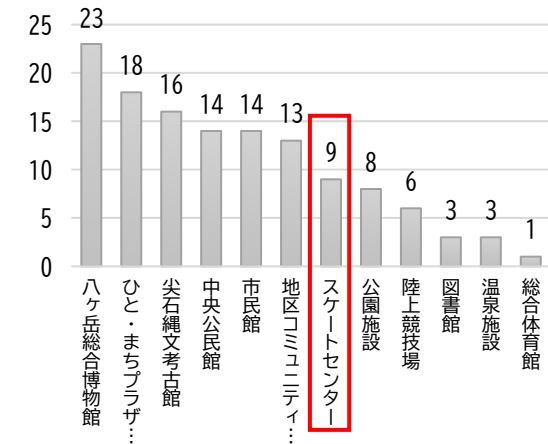
【投資すべき】

(人)



【廃止を進めるべき】

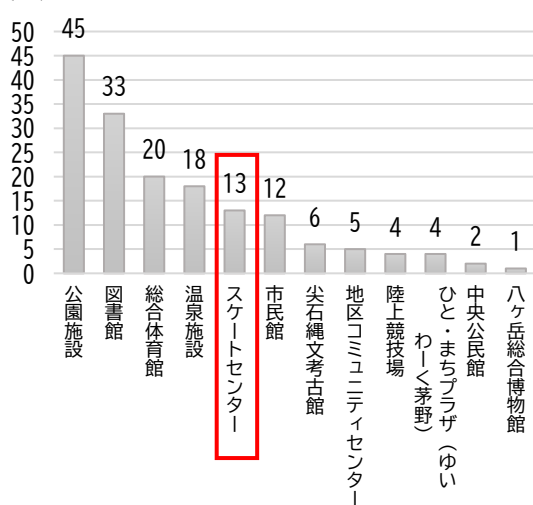
(人)



②30歳代(全体の89人回答者数)

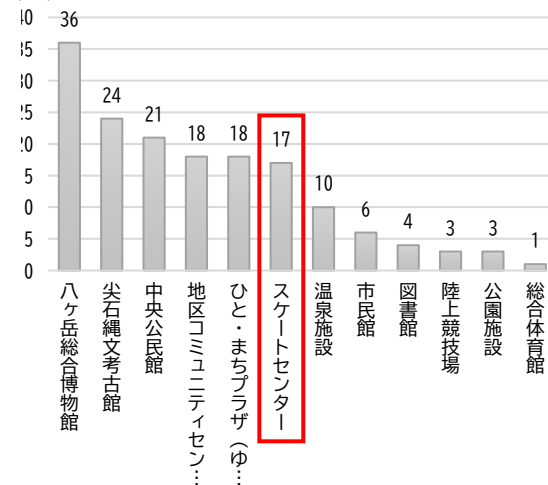
【投資すべき】

(人)



【廃止を進めるべき】

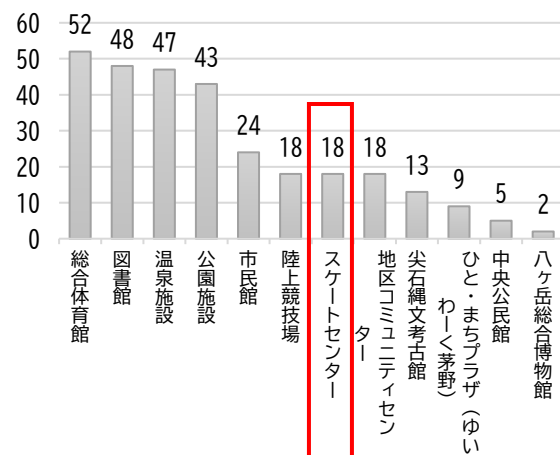
(人)



③40歳代(全体の159人回答者数)

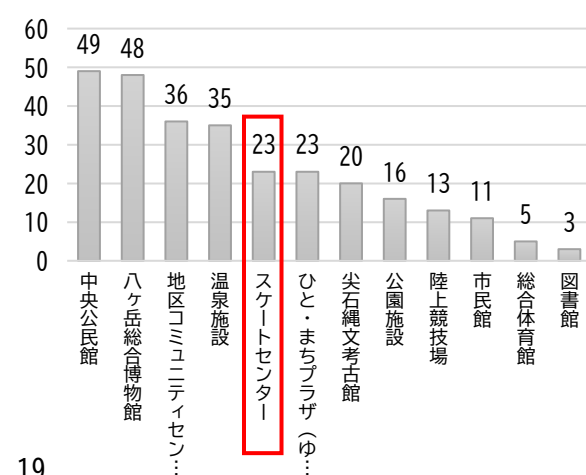
【投資すべき】

(人)



【廃止を進めるべき】

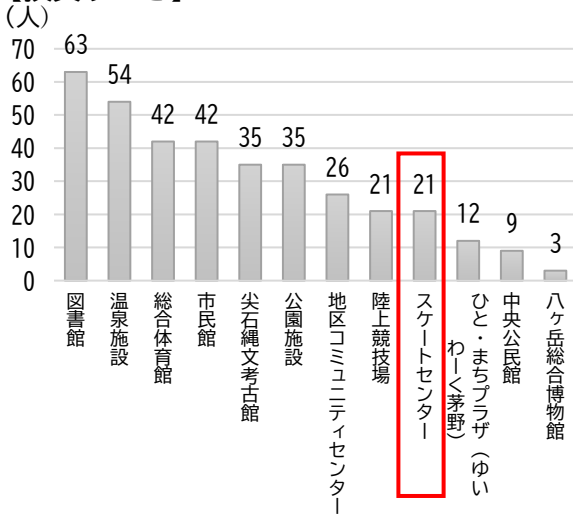
(人)



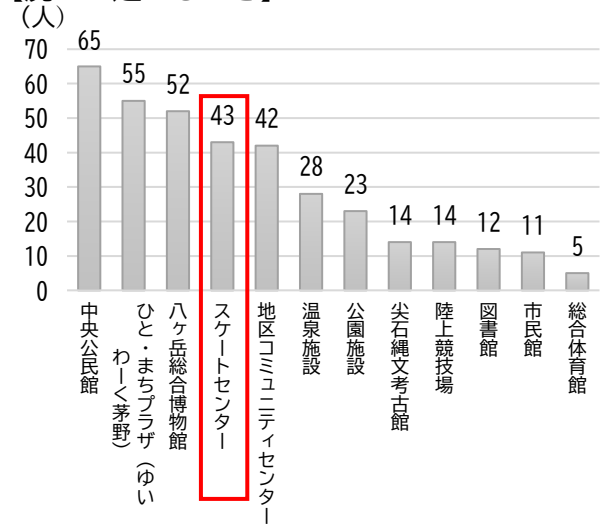


④50 歳代(全体の 203 人回答者数)

【投資すべき】

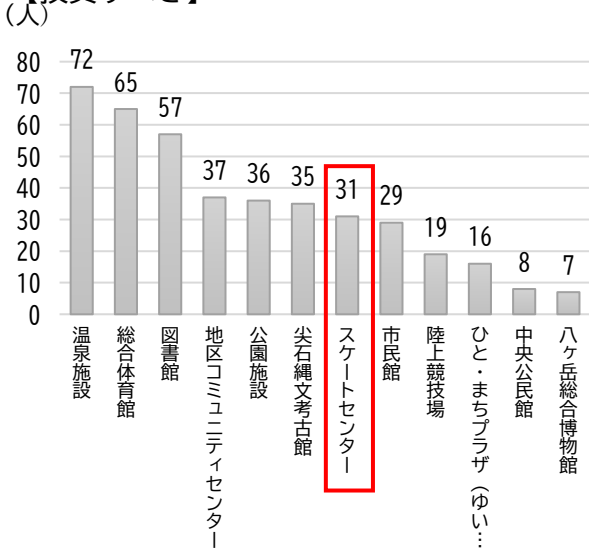


【廃止を進めるべき】

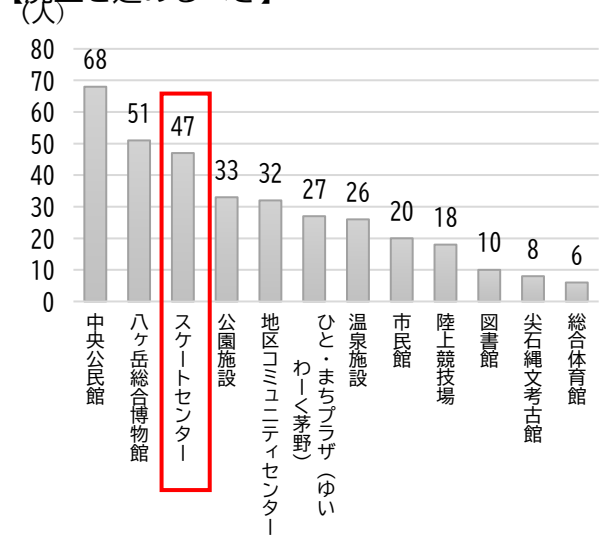


⑤60 歳代(全体の 221 人回答者数)

【投資すべき】

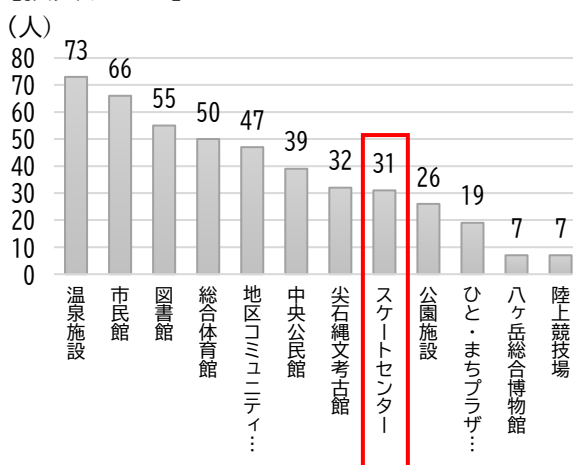


【廃止を進めるべき】

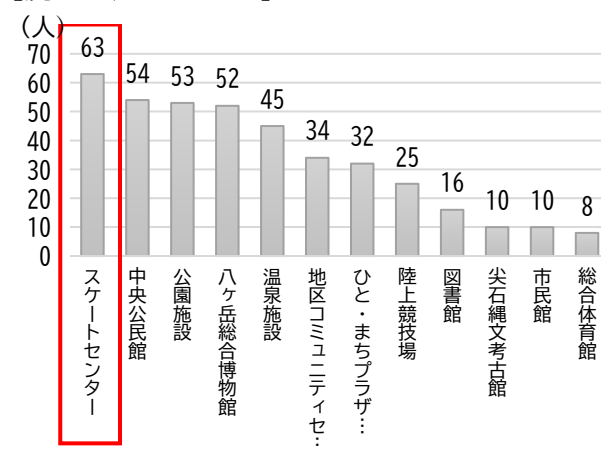


⑥70 歳代以上(全体の 264 人回答者数)

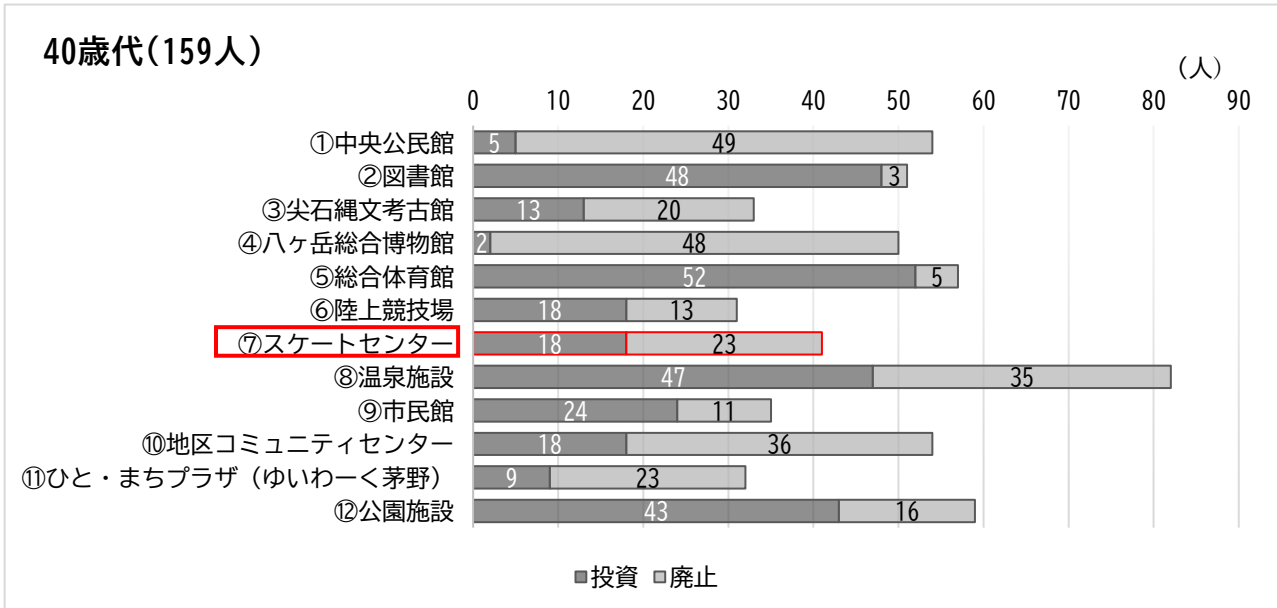
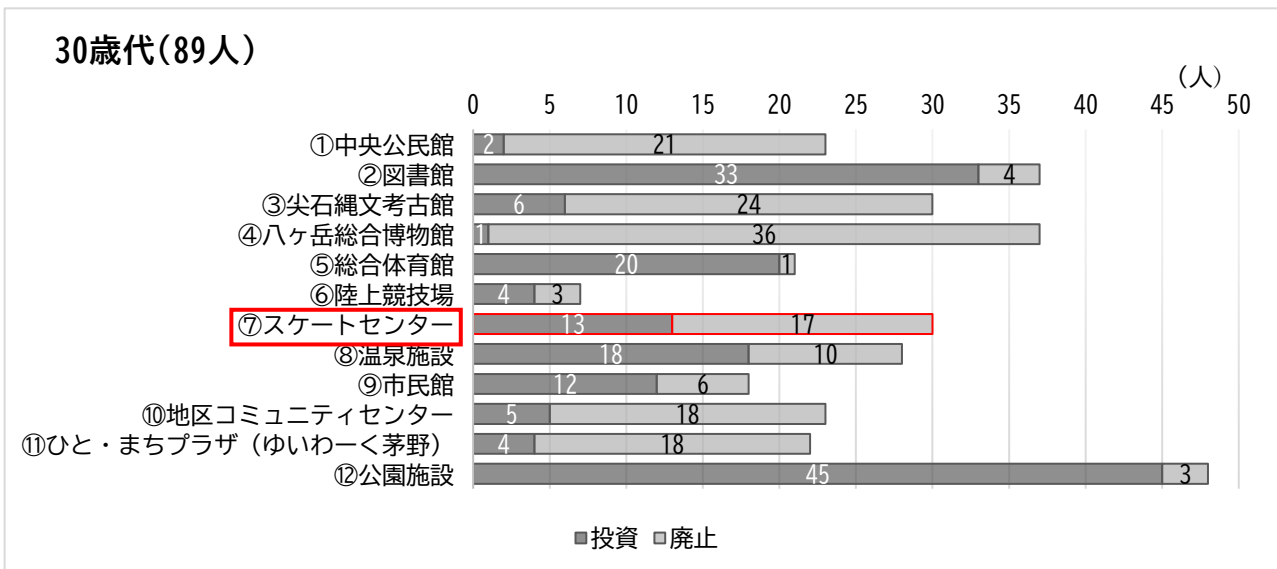
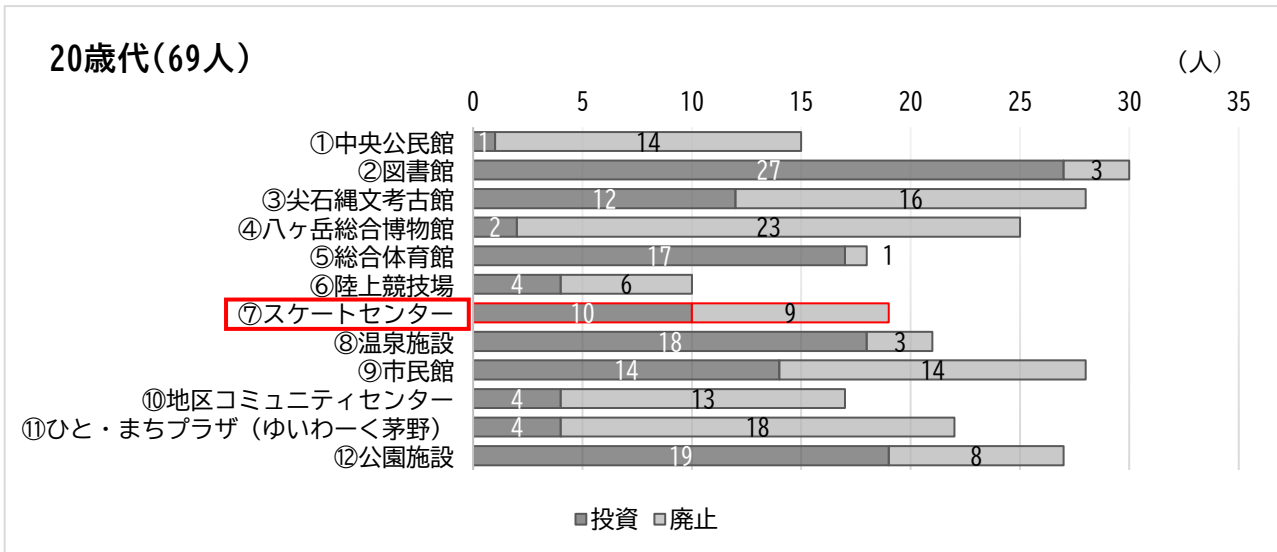
【投資すべき】



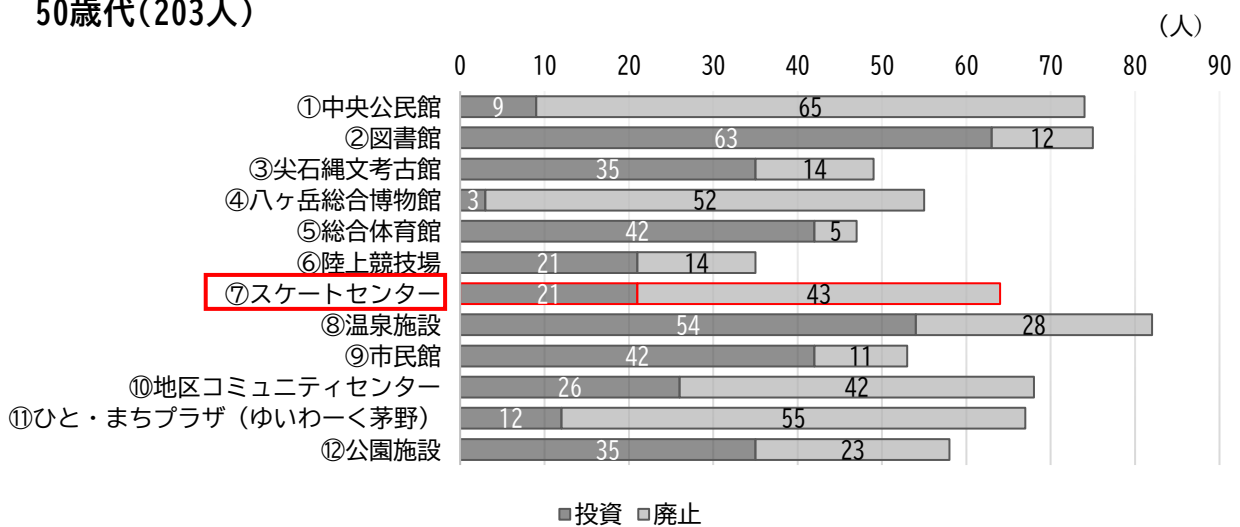
【廃止を進めるべき】



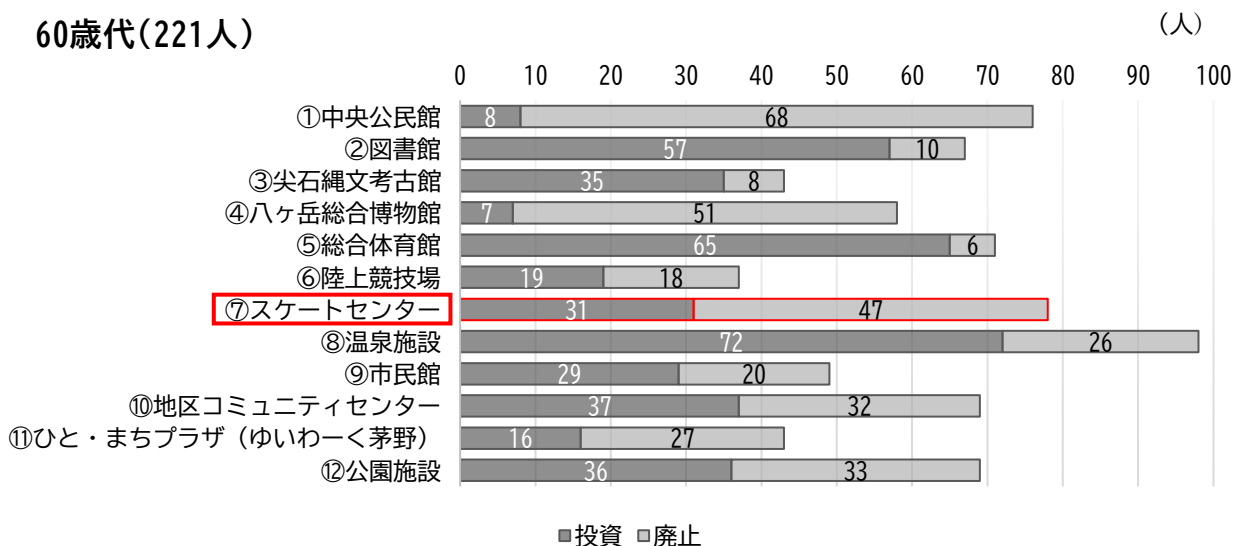
(4) 投資すべき施設、廃止を検討すべき施設(年代別)



### 50歳代(203人)



### 60歳代(221人)



### 70歳代以上(264人)

